

大阪市感染症発生動向調査事業報告書
(結核を除く)
2024年(令和6年)版

大阪市

目次

2024年における事業概要	1
1 定点把握感染症	2
(1) 小児科定点把握疾患 (週報)	
ア RS ウイルス感染症	4
イ 咽頭結膜熱	5
ウ A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6
エ 感染性胃腸炎	7
オ 水痘	8
カ 手足口病	9
キ 伝染性紅斑	10
ク 突発性発しん	11
ケ ヘルパンギーナ	12
コ 流行性耳下腺炎	13
(2) インフルエンザ/COVID-19 定点把握疾患 (週報)	
ア インフルエンザ	14
イ COVID-19	16
(3) 眼科定点把握疾患 (週報)	
ア 急性出血性結膜炎	18
イ 流行性角結膜炎	19
(4) 基幹定点把握疾患 (週報)	
ア 細菌性髄膜炎	20
イ 無菌性髄膜炎	21
ウ マイコプラズマ肺炎	22
エ クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	23
オ 感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)	24
(5) 基幹定点把握疾患 (月報)	25
(6) 性感染症定点把握疾患 (月報)	26
ア 性器クラミジア感染症	27
イ 性器ヘルペスウイルス感染症	27
ウ 尖圭コンジローマ	28
エ 淋菌感染症	28
2 一～五類全数把握感染症	29
3 その他	
大阪市感染症発生動向調査事業実施要綱	48
大阪市感染症発生動向調査委員会規則	57
大阪市感染症発生動向調査委員会運営要領	59
大阪市感染症発生動向調査委員会委員名簿	61
大阪市感染症発生動向調査指定届出機関一覧	62

2024年における事業概要

大阪市における感染症発生動向調査事業は、昭和57年に調査事業を開始して以来、現在では、大阪府及び府下保健所設置市との密接な連携と、大阪府医師会、定点医療機関などの協力のもと行っている。

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下、感染症法という。）では、一類から五類感染症（全数把握と定点把握）、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症を対象感染症とし、情報の収集・分析・提供・公開を行っている。

本事業で定点把握対象の五類感染症の発生状況を届け出る「指定届出機関（定点）」は、小児科定点、インフルエンザ/COVID-19 定点、眼科定点、基幹定点及び性感染症定点から成っている。また、2008年4月1日より感染症法第14条第1項に規定する厚生労働省で定める疑似症について、疑似症定点からの報告を受けている。

2024年12月末の指定数は、小児科定点56、インフルエンザ/COVID-19 定点83、眼科定点17、基幹定点4、性感染症定点18、疑似症定点10である。

1 患者情報の収集

医療機関からの患者情報を、全数把握対象感染症は直ちにまたは7日以内に、定点把握対象感染症は週単位（一部月単位）で収集している。さらに、収集した情報はオンラインシステムにより国立感染症研究所（中央感染症情報センター）に報告している。

2 情報の解析・評価

学識経験者、医療関係団体・医療施設等の代表者、関係行政機関の職員等により構成される大阪市感染症発生動向調査委員会において、収集した情報の解析・評価を行っている。

3 情報の提供・公開

収集した感染症情報を大阪市感染症週報などにより定点医療機関、大阪府医師会など関連機関に広く情報提供している。また、市ホームページにも感染症情報を掲載し、市民への情報提供も行っている。

4 病原体情報の収集

患者定点の中から病原体定点を選定し、これらの病原体定点から提供される検体について、微生物検査を地方衛生研究所である地方独立行政法人 大阪健康安全基盤研究所において行っている。

1 定点把握感染症

大阪市ブロック別区対照表

北部	北区、都島区、東淀川区、旭区、淀川区
西部	福島区、港区、此花区、大正区、西区、西淀川区
東部	中央区、生野区、天王寺区、城東区、浪速区、鶴見区、東成区
南部	阿倍野区、平野区、住之江区、西成区、住吉区、東住吉区



警報・注意報の基準値

対象疾患	警報		注意報 基準値
	開始基準値	終息基準値	
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	—
A 群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	8	4	—
感染性胃腸炎	20	12	—
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	—
伝染性紅斑	2	1	—
ヘルパンギーナ	6	2	—
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	—
流行性角結膜炎	8	4	—

2024年感染症発生動向調査 カレンダー

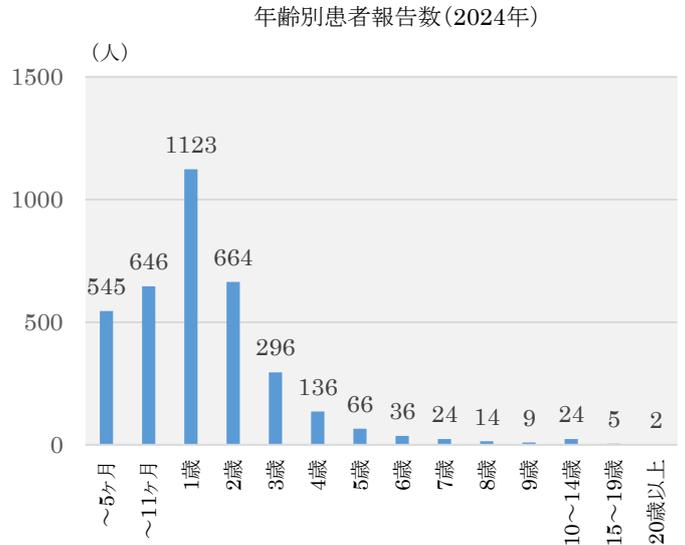
週	調査対象期間	週	調査対象期間
1	1/1 (月) ~ 1/7 (日)	27	7/1 (月) ~ 7/7 (日)
2	1/8 (月) ~ 1/14 (日)	28	7/8 (月) ~ 7/14 (日)
3	1/15 (月) ~ 1/21 (日)	29	7/15 (月) ~ 7/21 (日)
4	1/22 (月) ~ 1/28 (日)	30	7/22 (月) ~ 7/28 (日)
5	1/29 (月) ~ 2/4 (日)	31	7/29 (月) ~ 8/4 (日)
6	2/5 (月) ~ 2/11 (日)	32	8/5 (月) ~ 8/11 (日)
7	2/12 (月) ~ 2/18 (日)	33	8/12 (月) ~ 8/18 (日)
8	2/19 (月) ~ 2/25 (日)	34	8/19 (月) ~ 8/25 (日)
9	2/26 (月) ~ 3/3 (日)	35	8/26 (月) ~ 9/1 (日)
10	3/4 (月) ~ 3/10 (日)	36	9/2 (月) ~ 9/8 (日)
11	3/11 (月) ~ 3/17 (日)	37	9/9 (月) ~ 9/15 (日)
12	3/18 (月) ~ 3/24 (日)	38	9/16 (月) ~ 9/22 (日)
13	3/25 (月) ~ 3/31 (日)	39	9/23 (月) ~ 9/29 (日)
14	4/1 (月) ~ 4/7 (日)	40	9/30 (月) ~ 10/6 (日)
15	4/8 (月) ~ 4/14 (日)	41	10/7 (月) ~ 10/13 (日)
16	4/15 (月) ~ 4/21 (日)	42	10/14 (月) ~ 10/20 (日)
17	4/22 (月) ~ 4/28 (日)	43	10/21 (月) ~ 10/27 (日)
18	4/29 (月) ~ 5/5 (日)	44	10/28 (月) ~ 11/3 (日)
19	5/6 (月) ~ 5/12 (日)	45	11/4 (月) ~ 11/10 (日)
20	5/13 (月) ~ 5/19 (日)	46	11/11 (月) ~ 11/17 (日)
21	5/20 (月) ~ 5/26 (日)	47	11/18 (月) ~ 11/24 (日)
22	5/27 (月) ~ 6/2 (日)	48	11/25 (月) ~ 12/1 (日)
23	6/3 (月) ~ 6/9 (日)	49	12/2 (月) ~ 12/8 (日)
24	6/10 (月) ~ 6/16 (日)	50	12/9 (月) ~ 12/15 (日)
25	6/17 (月) ~ 6/23 (日)	51	12/16 (月) ~ 12/22 (日)
26	6/24 (月) ~ 6/30 (日)	52	12/23 (月) ~ 12/29 (日)

(1) 小児科定点把握疾患(週報)

ア RSウイルス感染症

2024年のRSウイルス感染症の報告数は3,590人、定点当たり報告数は63.06人であった。ここ10年の定点当たり報告数の平均は60.35人であった。2024年においては2023年と同様に春先から流行がみられ、ピークは第16週の6.25人であった。

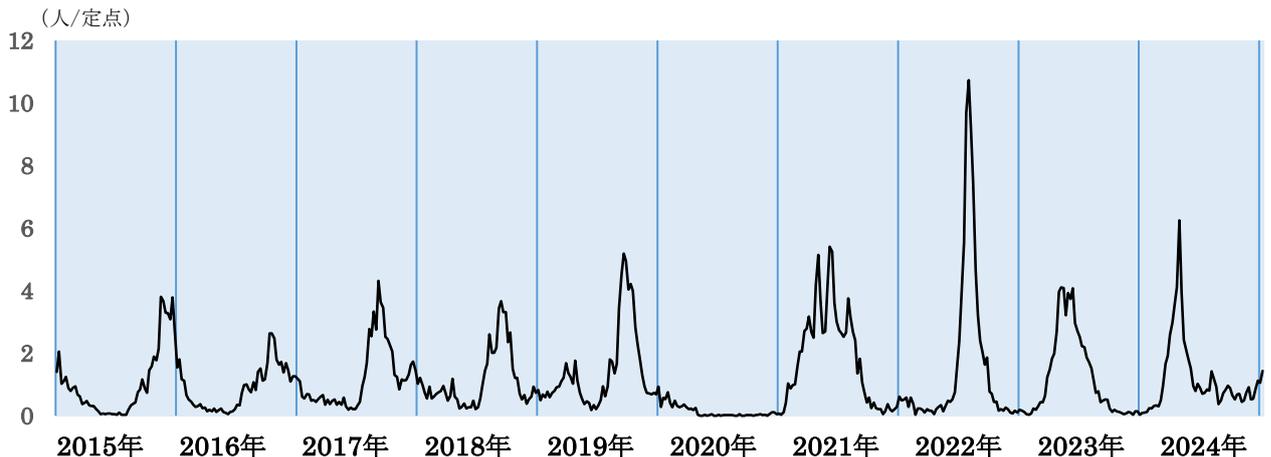
年齢別患者報告数は、1歳の1,123人が最も多く、次いで2歳の664人、6～11ヶ月の646人と続き、3歳以下で全体の91.2%を占めている。



《ブロック別・週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.11	0.12	0.25	0.23	0.32	0.33	0.30	0.49	0.95	1.67	1.91	2.58	2.98	3.56	4.11	6.25	3.93	2.42
北部	0.29	0.36	0.43	0.36	0.79	0.57	0.36	1.21	2.00	2.36	3.14	3.71	5.36	7.36	6.86	12.71	7.21	5.93
西部	0.00	0.00	0.40	0.10	0.10	0.40	0.40	0.40	0.60	1.50	1.80	1.90	3.40	3.00	3.60	4.50	3.50	2.70
東部	0.13	0.07	0.07	0.07	0.27	0.27	0.20	0.47	0.47	1.53	1.67	1.67	1.80	1.93	3.20	5.67	3.07	0.80
南部	0.00	0.06	0.17	0.33	0.11	0.17	0.28	0.00	0.72	1.33	1.22	2.83	1.89	2.28	3.00	2.67	2.33	0.89
週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	2.09	1.79	1.53	0.95	0.79	1.02	0.88	0.70	0.74	0.84	0.81	1.42	1.16	0.93	0.37	0.49	0.72	0.82
北部	3.64	2.57	3.21	1.86	1.64	2.29	1.71	0.86	2.00	1.86	1.71	2.71	2.00	1.86	1.07	0.71	1.07	1.21
西部	1.50	1.40	1.40	0.90	0.30	0.70	1.00	0.70	0.30	0.60	0.70	0.80	1.40	0.10	0.60	0.70	1.10	
東部	1.80	1.00	0.60	0.40	0.53	0.67	0.60	0.40	0.40	0.73	0.53	1.40	0.87	0.33	0.20	0.40	0.60	0.73
南部	1.44	2.06	1.06	0.72	0.61	0.50	0.39	0.83	0.28	0.28	0.39	0.83	0.94	0.44	0.11	0.33	0.56	0.44
週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均	
市	0.96	0.88	0.65	0.53	0.68	0.70	0.44	0.49	0.74	0.91	0.53	0.54	0.88	1.13	1.05	1.43	1.21	
北部	2.00	1.64	0.64	0.36	1.00	0.57	1.00	0.64	1.00	1.50	1.00	1.07	1.50	2.00	2.14	2.57	2.22	
西部	0.90	0.70	0.70	0.10	0.20	0.90	0.00	0.50	0.40	0.80	0.70	0.30	1.30	1.40	2.20	1.60	1.08	
東部	0.60	0.87	0.67	1.13	0.67	0.67	0.13	0.27	0.87	0.73	0.33	0.47	0.71	0.79	0.21	1.00	0.88	
南部	0.50	0.39	0.61	0.39	0.72	0.72	0.50	0.56	0.61	0.67	0.22	0.33	0.28	0.56	0.22	0.78	0.78	

定点当たり報告数 経年変化(2015年第1週～2024年第52週)



イ 咽頭結膜熱

2024年の咽頭結膜熱の報告数は1,144人、定点当たり報告数は20.11人であった。ここ10年の定点当たり報告数の平均は24.92人であった。前年の2023年は過去10年間で最も報告数が多かったが、2024年は例年どおりの推移で、夏期と冬期の二峰性の流行であった。

年齢別患者報告数は、1歳の332人が最も多く、次いで2歳の178人、3歳の116人と続いた。



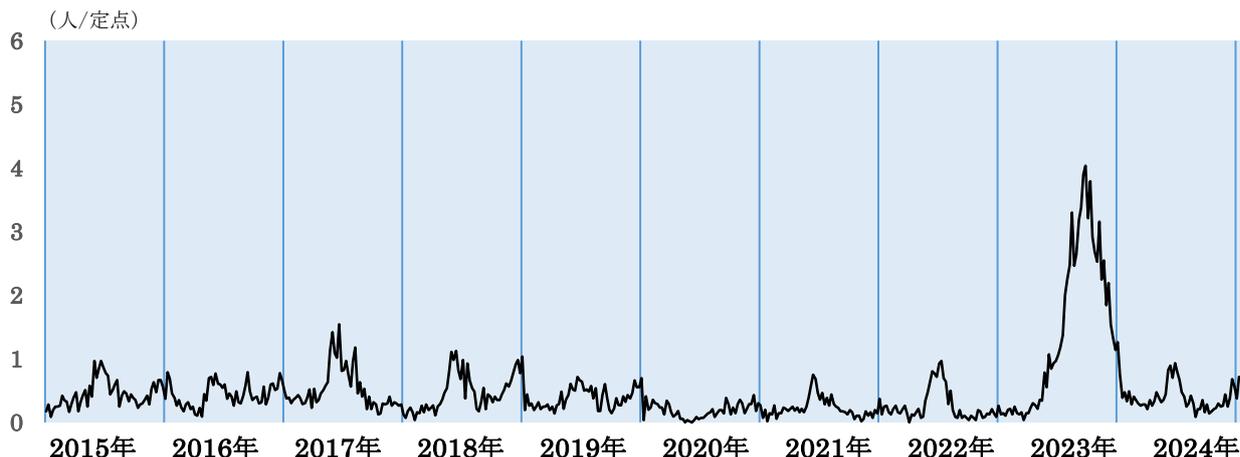
《ブロック別・週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.39	0.47	0.33	0.49	0.28	0.40	0.35	0.30	0.26	0.28	0.28	0.21	0.35	0.26	0.33	0.47	0.39	0.32
北部	0.29	0.64	0.29	0.50	0.43	0.71	0.57	0.64	0.36	0.64	0.43	0.57	0.57	0.29	0.71	0.57	0.36	0.36
西部	0.40	0.30	0.20	0.20	0.20	0.00	0.10	0.10	0.00	0.10	0.20	0.00	0.10	0.00	0.00	0.50	0.60	0.50
東部	0.57	0.27	0.40	0.60	0.13	0.47	0.40	0.20	0.33	0.20	0.40	0.20	0.67	0.40	0.27	0.13	0.27	0.20
南部	0.33	0.61	0.39	0.56	0.33	0.33	0.28	0.22	0.28	0.17	0.11	0.06	0.06	0.28	0.28	0.67	0.39	0.28

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.35	0.44	0.82	0.89	0.70	0.93	0.79	0.67	0.47	0.40	0.25	0.30	0.42	0.30	0.09	0.21	0.21	0.35
北部	0.36	0.50	0.36	0.86	0.71	0.79	0.57	0.64	0.43	0.50	0.21	0.43	0.71	0.79	0.07	0.43	0.36	0.64
西部	0.20	0.20	0.20	1.00	0.30	0.90	0.10	0.60	0.20	0.40	0.20	0.10	0.00	0.10	0.00	0.10	0.30	0.20
東部	0.40	0.40	1.33	0.73	0.67	0.73	1.00	0.67	0.73	0.47	0.07	0.07	0.33	0.20	0.00	0.20	0.20	0.13
南部	0.39	0.56	1.11	1.00	0.94	1.22	1.17	0.72	0.44	0.28	0.44	0.50	0.50	0.11	0.22	0.11	0.06	0.39

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.16	0.28	0.14	0.18	0.21	0.23	0.30	0.25	0.26	0.44	0.25	0.39	0.68	0.57	0.38	0.71	0.39
北部	0.43	0.79	0.14	0.21	0.36	0.36	0.43	0.57	0.43	0.50	0.07	0.43	0.36	0.79	0.50	1.43	0.50
西部	0.10	0.20	0.10	0.20	0.20	0.00	0.20	0.00	0.10	0.10	0.10	0.00	0.30	0.10	0.00	0.30	0.20
東部	0.13	0.07	0.13	0.13	0.20	0.33	0.27	0.33	0.40	0.53	0.40	0.60	0.57	0.79	0.36	0.79	0.39
南部	0.00	0.11	0.17	0.17	0.11	0.17	0.28	0.06	0.11	0.50	0.33	0.39	1.22	0.50	0.50	0.33	0.40

定点当たり報告数 経年変化(2015年第1週～2024年第52週)



ウ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2024年のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は7,530人、定点当たり報告数は132.23人であった。ここ10年の定点当たり報告数の平均は80.61人であり、過去10年で最も多い報告数であった。ピークは第6週の4.67人であった。

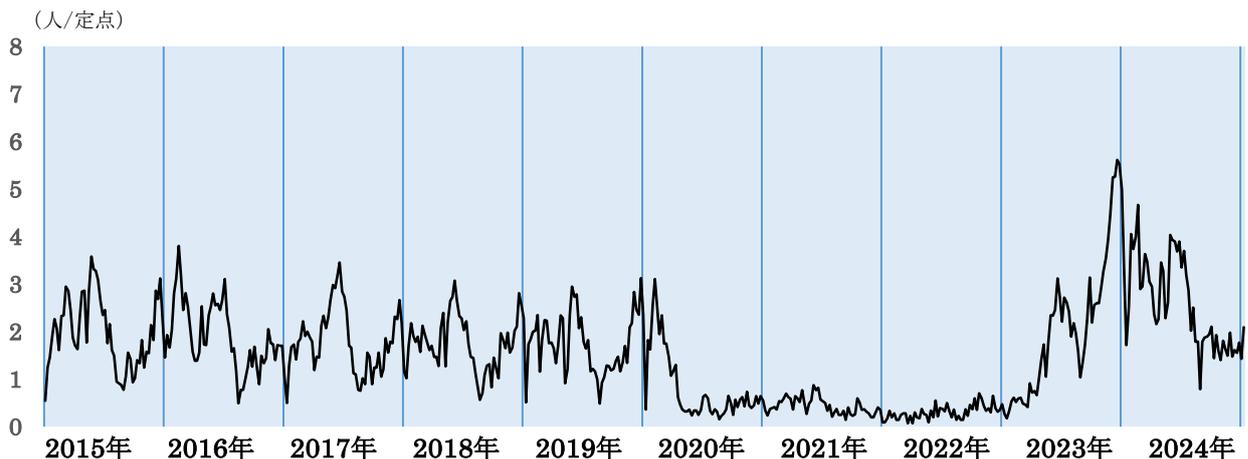
年齢別患者報告数は、10～14歳の1,011人が最も多く、次いで4歳の906人、5歳の895人と続いた。



《ブロック別・週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	1.72	2.53	4.05	3.74	4.00	4.67	2.89	2.95	3.63	3.47	3.05	2.95	2.37	2.16	2.26	3.46	3.28	2.28
北部	1.43	2.29	2.00	3.21	3.36	3.57	2.86	3.00	2.14	3.14	2.43	2.57	1.79	1.71	1.36	2.43	1.64	1.86
西部	2.70	3.00	4.30	3.80	4.00	4.00	3.90	2.70	2.80	2.70	1.70	2.50	1.70	1.50	1.30	1.40	1.80	2.70
東部	1.29	2.47	3.93	3.40	2.93	3.73	2.20	2.93	3.60	3.27	3.00	2.33	2.00	1.00	2.73	2.27	3.73	1.07
南部	1.83	2.50	5.61	4.39	5.39	6.67	2.94	3.06	5.28	4.33	4.33	4.00	3.50	3.83	3.11	6.39	5.00	3.39
週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	2.61	4.04	3.93	3.89	3.68	3.89	3.35	3.70	3.19	2.88	2.02	2.51	1.79	1.79	0.79	1.79	1.88	1.89
北部	1.36	2.36	2.79	3.29	2.86	3.43	2.93	2.21	1.86	1.93	0.71	1.50	0.86	2.07	0.57	1.21	1.36	1.43
西部	2.20	2.70	2.60	2.40	2.50	3.00	3.00	4.10	1.90	2.30	2.20	1.90	1.10	1.20	0.50	1.00	1.10	1.50
東部	1.33	2.20	3.00	3.07	2.87	2.60	2.13	3.67	3.20	2.00	1.87	1.73	2.07	1.13	0.53	1.87	2.73	1.67
南部	4.89	7.61	6.33	5.89	5.67	5.83	4.89	4.67	4.94	4.67	3.06	4.28	2.67	2.44	1.33	2.61	2.00	2.67
週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均	
市	1.95	2.11	1.44	1.93	1.60	1.40	1.81	1.63	1.49	1.98	1.47	1.61	1.55	1.77	1.43	2.09	2.55	
北部	1.43	1.43	1.43	1.79	0.79	0.93	1.14	1.57	0.71	1.29	0.93	1.57	1.00	1.43	1.07	1.36	1.87	
西部	1.30	1.80	1.00	1.60	0.80	1.20	1.00	0.60	1.40	2.20	1.20	1.20	0.50	0.70	1.20	0.70	2.00	
東部	1.73	1.40	1.73	1.80	1.40	1.33	1.40	1.53	1.67	1.40	1.33	1.53	1.14	1.36	1.07	1.57	2.13	
南部	2.89	3.39	1.44	2.33	2.83	1.94	3.11	2.33	2.00	2.89	2.17	1.94	2.89	2.94	2.11	3.83	3.71	

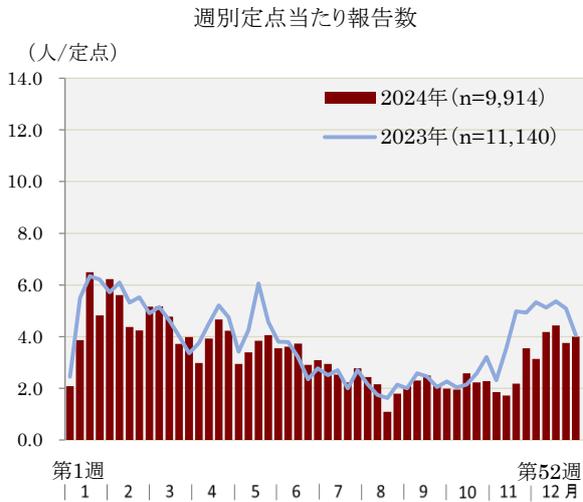
定点当たり報告数 経年変化(2015年第1週～2024年第52週)



エ 感染性胃腸炎

2024年の感染性胃腸炎の報告数は9,914人、定点当たり報告数は174.22人であった。ここ10年の定点当たり報告数の平均は197.91人であった。例年、春から初夏と冬期の二峰性の流行があるが、ピークは第3週の6.49人であった。

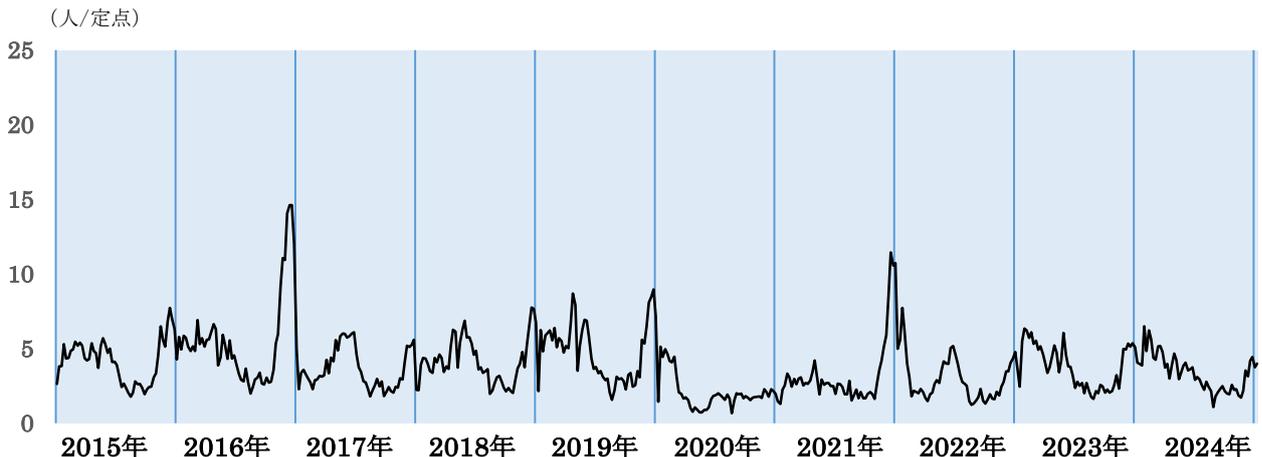
年齢別患者報告数は、1歳の1,498人が最も多く、次いで2歳の1,222人、3歳の1,102人と続いた。



《ブロック別・週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	3.96	3.86	6.49	4.82	6.23	5.61	4.37	4.25	5.16	5.18	4.77	3.72	3.98	2.98	3.93	4.67	4.23	2.95
北部	6.21	5.21	8.86	7.00	6.21	7.93	5.93	6.57	6.00	6.50	5.50	5.93	5.57	4.64	4.93	5.14	4.57	4.21
西部	5.10	3.90	6.40	6.10	8.60	4.30	3.40	3.90	4.20	5.30	5.00	4.10	3.80	2.50	5.00	4.30	3.80	3.10
東部	1.50	2.07	2.80	2.00	3.60	2.07	1.60	1.73	2.33	1.80	1.80	1.33	1.53	1.33	2.27	2.40	1.93	0.67
南部	3.72	4.28	7.78	4.78	7.11	7.50	6.00	4.72	7.39	6.89	6.56	3.78	4.89	3.33	3.94	6.39	6.11	3.78
週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	3.39	3.84	4.05	3.54	3.61	3.74	2.91	3.09	2.95	2.53	2.23	2.77	2.44	2.16	1.09	1.79	2.09	2.30
北部	3.57	4.43	4.79	3.50	2.43	3.36	2.71	3.57	2.50	2.57	2.00	2.07	1.93	2.36	1.36	2.50	1.71	1.21
西部	4.00	2.50	2.20	1.70	2.20	3.90	2.70	2.20	2.60	1.80	1.60	1.90	1.40	2.00	2.20	1.60	2.20	3.00
東部	1.27	2.67	2.33	1.27	1.40	1.80	1.47	1.87	2.33	1.40	1.07	1.20	1.80	0.93	0.40	0.87	1.07	1.40
南部	4.67	5.11	5.94	6.50	7.17	5.56	4.39	4.22	4.00	3.83	3.72	5.11	3.94	3.11	0.83	2.11	3.17	3.50
週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均	
市	2.49	2.12	1.98	1.95	2.58	2.23	2.28	1.86	1.72	2.18	3.54	3.14	4.18	4.43	3.75	4.00	3.39	
北部	2.07	1.71	1.86	1.79	2.00	2.29	1.57	1.71	1.64	1.21	3.93	3.00	3.64	2.21	2.93	3.29	3.70	
西部	2.00	2.10	2.10	2.00	4.10	2.40	4.10	2.40	2.10	3.30	4.30	4.30	5.30	5.80	6.50	4.60	3.50	
東部	1.73	0.93	1.00	0.80	1.87	1.13	1.13	0.73	1.13	1.40	0.47	1.07	1.93	2.64	0.93	1.79	1.58	
南部	3.72	3.44	2.83	3.00	2.78	3.00	2.78	2.61	2.06	2.94	5.39	4.33	5.72	6.78	5.06	5.94	4.58	

定点当たり報告数 経年変化(2015年第1週~2024年第52週)

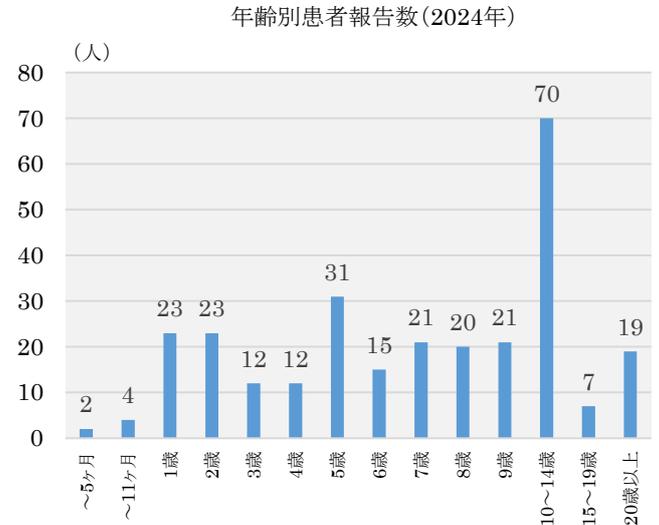


オ 水痘

2024年の水痘の報告数は280人、定点当たり報告数は4.93人であった。ここ10年の定点当たり報告数の平均は12.47人であった。

2014年10月の水痘ワクチンの定期接種導入以降は報告数が低い水準で推移している。

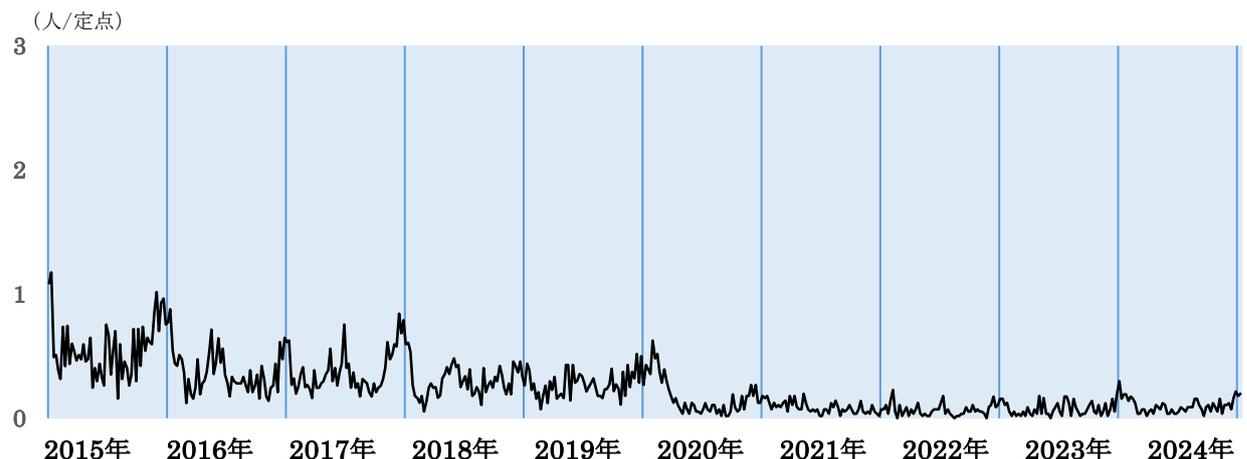
年齢別患者報告数は、10～14歳の70人が最も多く、次いで5歳の31人、1歳と2歳の23人と続いた。



《ブロック別・週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.19	0.19	0.14	0.18	0.16	0.12	0.04	0.04	0.07	0.07	0.02	0.05	0.07	0.04	0.11	0.09	0.07	0.12
北部	0.29	0.29	0.21	0.21	0.36	0.00	0.07	0.07	0.14	0.00	0.00	0.07	0.14	0.07	0.00	0.36	0.21	0.14
西部	0.50	0.40	0.10	0.00	0.10	0.20	0.00	0.00	0.20	0.10	0.10	0.10	0.00	0.10	0.30	0.00	0.00	0.40
東部	0.07	0.13	0.20	0.20	0.07	0.13	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.07	0.00
南部	0.06	0.06	0.06	0.22	0.11	0.17	0.06	0.06	0.00	0.11	0.00	0.06	0.11	0.00	0.11	0.00	0.00	0.06
週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.11	0.04	0.04	0.07	0.04	0.04	0.05	0.09	0.07	0.05	0.09	0.09	0.09	0.16	0.16	0.11	0.07	0.02
北部	0.07	0.00	0.07	0.00	0.00	0.07	0.07	0.14	0.00	0.07	0.07	0.00	0.07	0.14	0.14	0.07	0.14	0.00
西部	0.30	0.00	0.00	0.20	0.00	0.00	0.10	0.20	0.20	0.00	0.20	0.20	0.20	0.30	0.50	0.00	0.00	0.00
東部	0.07	0.00	0.00	0.13	0.13	0.07	0.07	0.07	0.07	0.00	0.07	0.07	0.00	0.00	0.07	0.13	0.07	0.07
南部	0.06	0.11	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.11	0.06	0.11	0.11	0.22	0.06	0.17	0.06	0.00
週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均	
市	0.09	0.11	0.05	0.12	0.09	0.05	0.16	0.04	0.11	0.11	0.12	0.07	0.16	0.21	0.18	0.20	0.10	
北部	0.07	0.00	0.07	0.07	0.07	0.07	0.14	0.07	0.36	0.21	0.21	0.00	0.07	0.21	0.07	0.29	0.11	
西部	0.20	0.00	0.20	0.10	0.10	0.00	0.00	0.00	0.10	0.10	0.00	0.00	0.30	0.10	0.50	0.10	0.13	
東部	0.07	0.33	0.00	0.20	0.20	0.07	0.13	0.00	0.00	0.07	0.20	0.13	0.07	0.00	0.00	0.07	0.07	
南部	0.06	0.06	0.00	0.11	0.00	0.06	0.28	0.06	0.00	0.06	0.06	0.11	0.22	0.44	0.22	0.28	0.08	

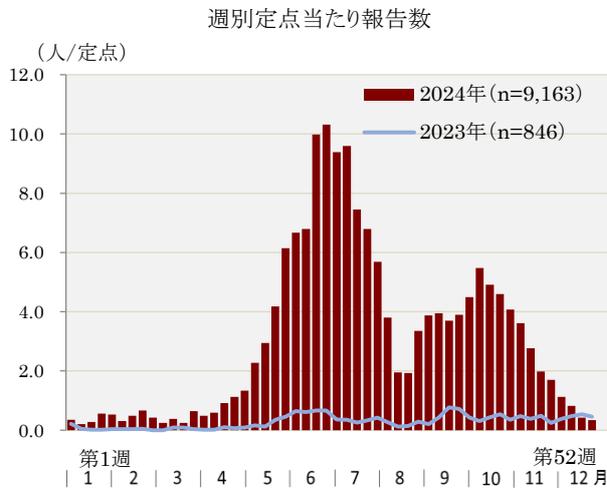
定点当たり報告数 経年変化(2015年第1週～2024年第52週)



カ 手足口病

2024年の手足口病の報告数は9,163人、定点当たり報告数は160.80人であった。ここ10年の定点当たり報告数の平均は60.04人であり、過去10年で最も多い報告数であった。

年齢別患者報告数は、1歳の2,591人が最も多く、次いで2歳の1,671人、3歳の1,228人と続いた。



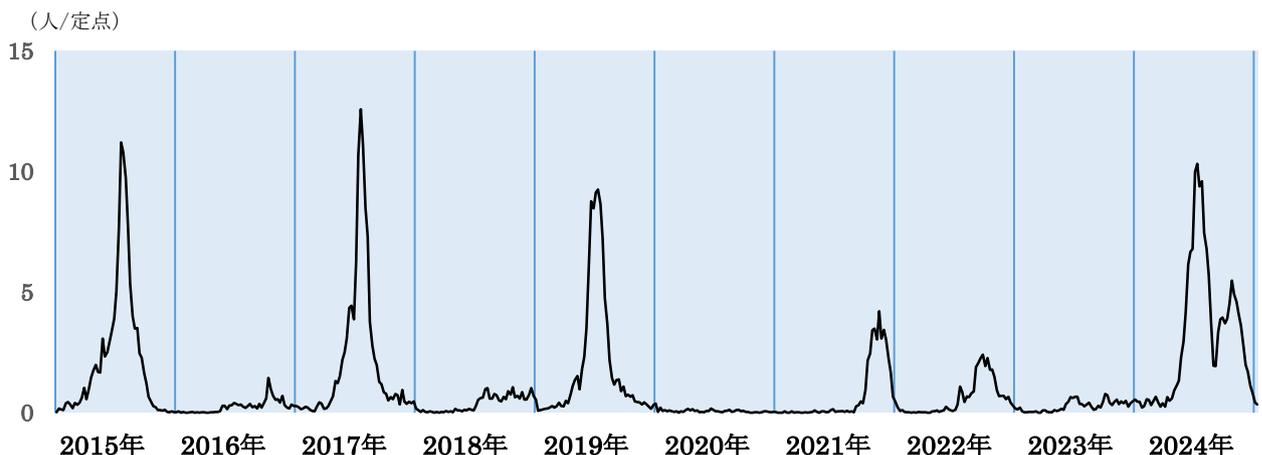
《ブロック別・週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.46	0.21	0.28	0.56	0.53	0.32	0.49	0.67	0.42	0.25	0.39	0.25	0.65	0.49	0.60	0.91	1.12	1.33
北部	0.79	0.43	0.50	0.93	0.50	0.36	0.50	1.00	0.50	0.50	0.21	0.21	0.50	0.29	0.21	0.50	1.21	2.36
西部	0.50	0.30	0.30	0.50	0.50	0.10	0.60	0.50	0.20	0.10	0.40	0.30	0.40	0.40	0.80	0.90	1.30	1.70
東部	0.36	0.13	0.13	0.20	0.27	0.13	0.13	0.13	0.07	0.27	0.33	0.07	0.40	0.47	0.33	0.87	0.80	1.00
南部	0.28	0.06	0.22	0.61	0.78	0.56	0.72	0.94	0.78	0.11	0.56	0.39	1.11	0.72	1.00	1.28	1.22	0.61

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	2.28	2.95	4.18	6.14	6.67	6.79	9.98	10.32	9.39	9.60	7.46	6.79	5.68	3.81	1.95	1.93	3.35	3.88
北部	3.57	5.71	6.21	9.79	9.21	9.29	14.07	13.43	12.50	11.29	8.50	7.93	5.50	5.14	3.50	2.79	5.93	7.57
西部	2.20	1.50	2.70	5.20	6.00	5.20	8.20	8.20	7.00	11.90	8.90	6.50	5.40	3.50	2.70	1.40	2.40	2.80
東部	2.00	2.20	3.67	3.80	3.53	3.27	6.53	7.93	6.20	5.07	2.73	3.60	2.00	1.80	0.93	1.87	2.20	2.33
南部	1.56	2.22	3.83	5.78	7.67	8.67	10.67	11.06	10.94	10.78	9.78	8.72	9.06	4.61	1.17	1.61	2.83	2.89

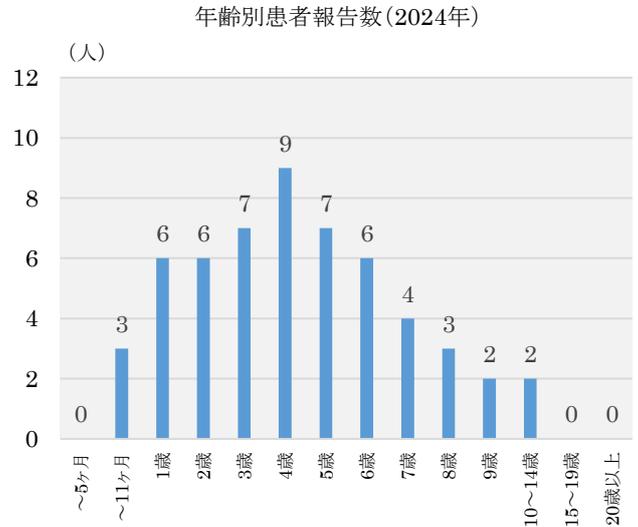
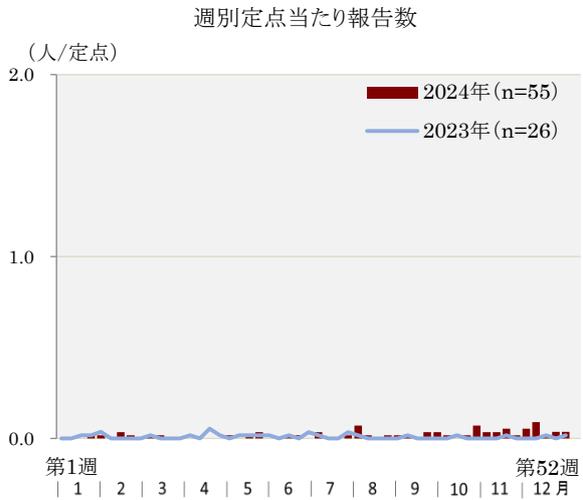
週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	3.95	3.70	3.89	4.49	5.47	4.91	4.60	4.07	3.61	2.77	1.98	1.70	1.13	0.82	0.43	0.34	3.09
北部	7.14	6.93	4.71	7.07	8.93	9.21	7.50	8.86	6.43	4.50	3.36	2.29	1.71	1.00	0.43	0.57	4.50
西部	2.60	1.90	4.20	4.50	4.10	2.80	4.30	2.70	2.20	1.50	0.50	1.30	0.60	0.60	0.40	0.30	2.62
東部	2.93	3.07	3.60	3.20	3.60	3.47	2.93	2.33	2.07	2.40	1.00	0.47	0.79	0.86	0.21	0.00	1.94
南部	3.06	2.72	3.33	3.56	5.11	3.94	3.89	2.56	3.50	2.44	2.56	2.50	1.22	0.78	0.61	0.44	3.23

定点当たり報告数 経年変化(2015年第1週~2024年第52週)



キ 伝染性紅斑

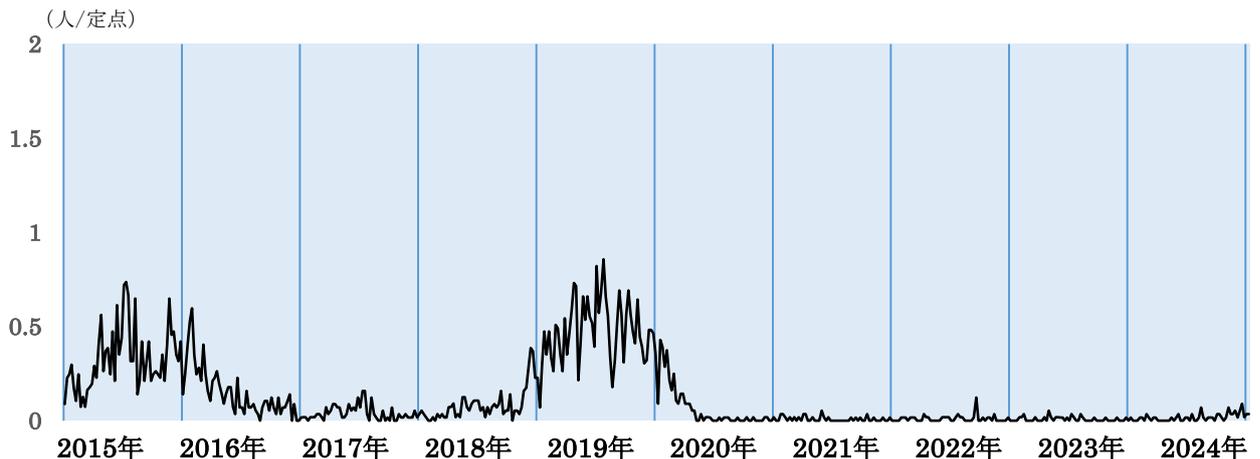
2024年の伝染性紅斑の報告数は55人、定点当たり報告数は0.97人であった。ここ10年の定点当たり報告数の平均は6.23人であり、週別定点当たりの報告数は、年間を通して0.09人以下で推移した。年齢別患者報告数は、4歳の9人が最も多く、次いで3歳と5歳の7人であった。



《ブロック別・週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.00	0.00	0.00	0.02	0.02	0.00	0.04	0.02	0.00	0.02	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02
北部	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.07	0.07	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
西部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
東部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
南部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06
週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.00	0.02	0.04	0.00	0.00	0.02	0.02	0.00	0.04	0.00	0.00	0.02	0.07	0.02	0.00	0.02	0.02	0.02
北部	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
西部	0.00	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
東部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.20	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00
南部	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.06	0.00	0.06
週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均	
市	0.00	0.04	0.04	0.02	0.00	0.02	0.07	0.04	0.04	0.05	0.02	0.05	0.09	0.02	0.04	0.04	0.02	
北部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.07	0.07	0.07	0.00	0.07	0.14	0.00	0.02	
西部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
東部	0.00	0.13	0.13	0.07	0.00	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.00	0.13	0.14	0.00	0.00	0.00	0.03	
南部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17	0.00	0.06	0.06	0.00	0.00	0.17	0.00	0.00	0.11	0.02	

定点当たり報告数 経年変化(2015年第1週~2024年第52週)

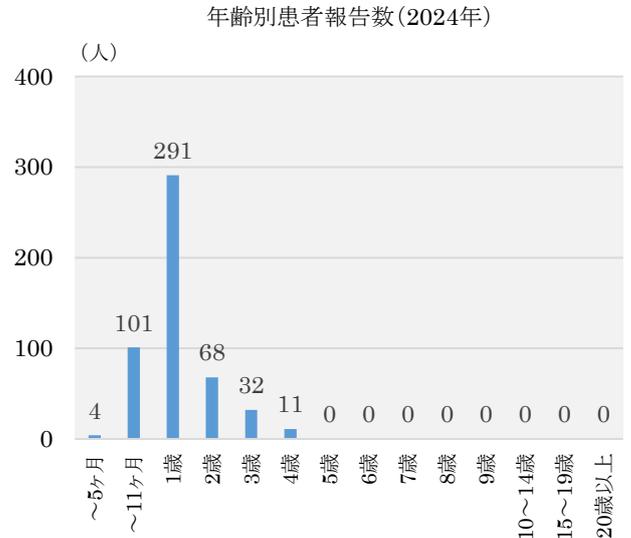
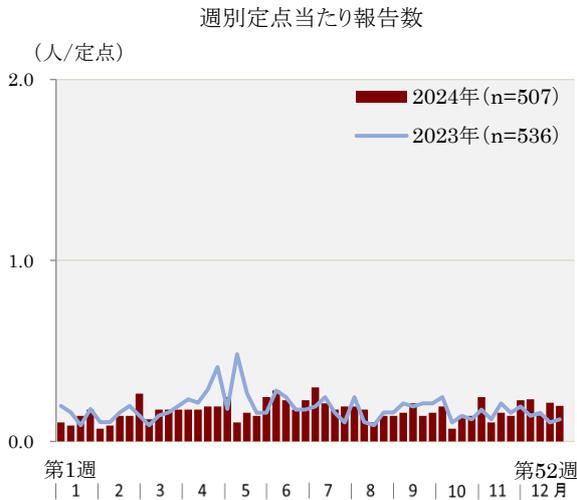


ク 突発性発しん

2024年の突発性発しんの報告数は507人、定点当たり報告数は8.91人であった。ここ10年の定点当たり報告数の平均は15.91人であり、2024年は過去10年で最も少ない報告数であった。

突発性発しんは、季節変動や年次による差異がほとんどなく、2024年においても特段の変動はみられなかった。

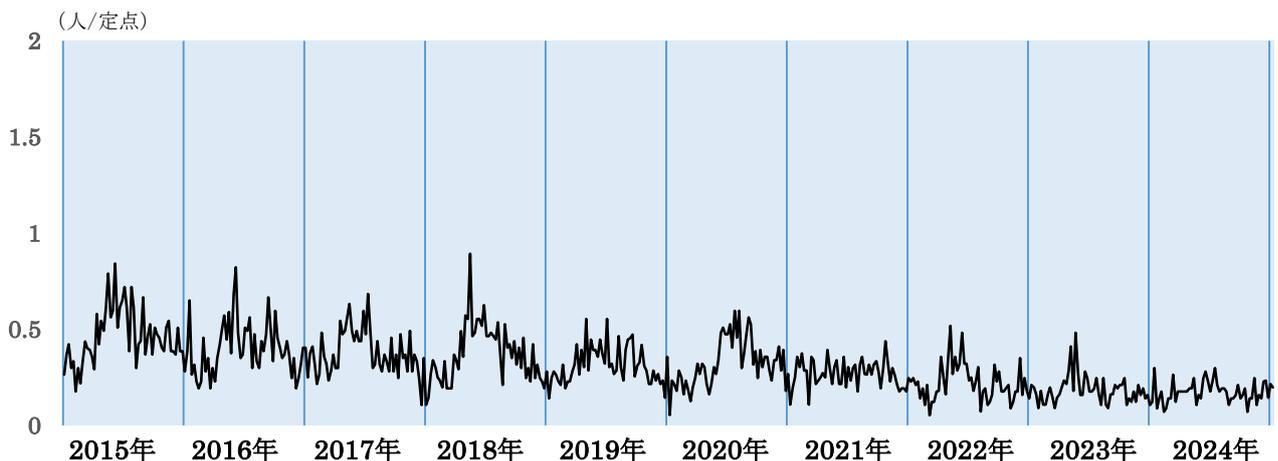
年齢別患者報告数は、1歳の291人が最も多く、次いで6～11ヶ月の101人、2歳の68人と続いた。



《ブロック別・週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.30	0.09	0.14	0.18	0.07	0.09	0.14	0.14	0.26	0.12	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18	0.19	0.19	0.25
北部	0.79	0.14	0.36	0.36	0.07	0.07	0.21	0.14	0.29	0.00	0.50	0.29	0.14	0.36	0.29	0.14	0.07	0.43
西部	0.30	0.00	0.10	0.00	0.00	0.10	0.20	0.20	0.20	0.20	0.00	0.20	0.10	0.00	0.20	0.10	0.30	0.20
東部	0.07	0.07	0.00	0.13	0.13	0.00	0.00	0.00	0.47	0.20	0.13	0.13	0.00	0.13	0.07	0.20	0.27	0.07
南部	0.11	0.11	0.11	0.17	0.06	0.17	0.17	0.22	0.11	0.11	0.06	0.11	0.39	0.17	0.17	0.28	0.17	0.28
週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.11	0.16	0.14	0.25	0.28	0.23	0.18	0.23	0.30	0.21	0.18	0.19	0.19	0.18	0.11	0.14	0.14	0.16
北部	0.21	0.43	0.14	0.36	0.43	0.29	0.07	0.21	0.36	0.07	0.36	0.29	0.14	0.21	0.07	0.29	0.21	0.29
西部	0.00	0.00	0.10	0.10	0.40	0.30	0.00	0.10	0.00	0.40	0.00	0.20	0.30	0.20	0.20	0.10	0.20	0.00
東部	0.00	0.13	0.07	0.07	0.13	0.07	0.33	0.33	0.33	0.07	0.07	0.13	0.20	0.13	0.20	0.07	0.00	0.07
南部	0.17	0.06	0.22	0.39	0.22	0.28	0.22	0.22	0.39	0.33	0.22	0.17	0.17	0.17	0.00	0.11	0.17	0.22
週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均	
市	0.21	0.14	0.16	0.19	0.07	0.14	0.14	0.25	0.11	0.16	0.14	0.23	0.23	0.14	0.21	0.20	0.18	
北部	0.43	0.14	0.14	0.29	0.21	0.14	0.14	0.36	0.14	0.36	0.29	0.21	0.21	0.29	0.21	0.21	0.25	
西部	0.10	0.20	0.10	0.30	0.10	0.00	0.30	0.40	0.00	0.10	0.10	0.10	0.10	0.40	0.40	0.00	0.15	
東部	0.20	0.13	0.00	0.20	0.00	0.20	0.13	0.13	0.07	0.20	0.00	0.33	0.14	0.00	0.14	0.29	0.13	
南部	0.11	0.11	0.33	0.06	0.00	0.17	0.06	0.17	0.17	0.00	0.17	0.22	0.22	0.17	0.17	0.22	0.17	

定点当たり報告数 経年変化(2015年第1週~2024年第52週)

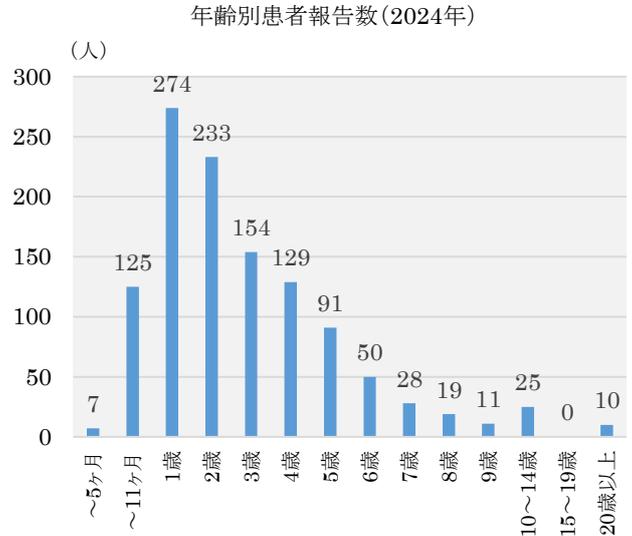
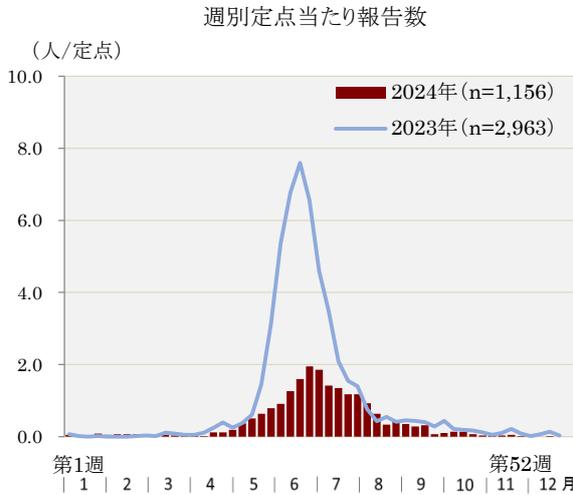


ケ ヘルパンギーナ

2024年のヘルパンギーナの報告数は1,156人、定点当たり報告数は20.28人であった。ここ10年の定点当たり報告数の平均は25.52人であった。

ヘルパンギーナは夏型感染症であり、例年夏期に流行がみられる。ピークは第26週の1.95人であった。

年齢別患者報告数は、1歳の274人が最も多く、次いで2歳の233人、3歳の154人と続き、5歳以下で全体の87.6%を占めている。



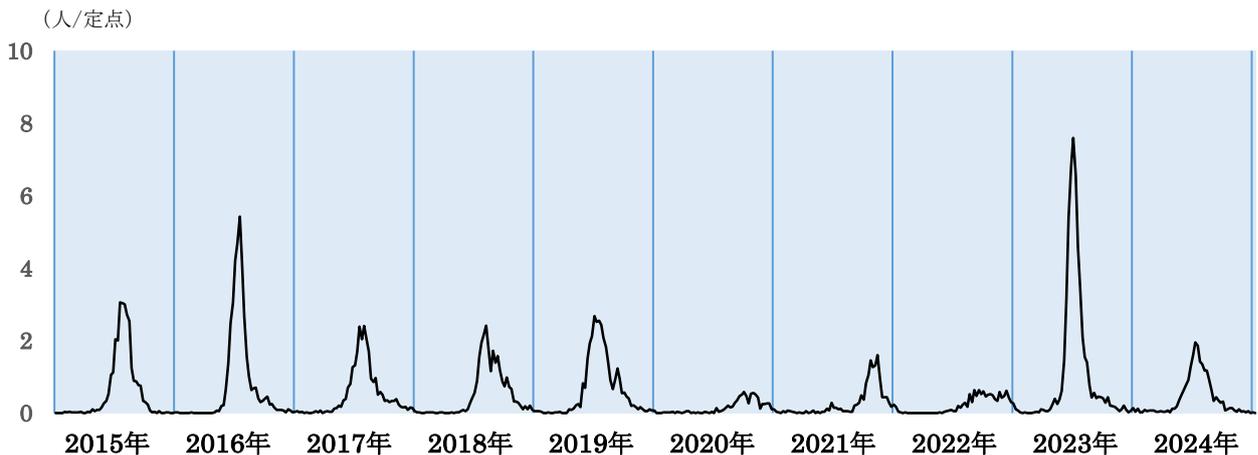
《ブロック別・週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.12	0.02	0.02	0.09	0.05	0.07	0.07	0.07	0.04	0.04	0.05	0.04	0.04	0.07	0.02	0.12	0.12	0.19
北部	0.29	0.00	0.00	0.14	0.14	0.14	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.07	0.00	0.14	0.29	0.29
西部	0.10	0.00	0.00	0.00	0.10	0.00	0.00	0.10	0.00	0.00	0.00	0.10	0.10	0.00	0.00	0.10	0.00	0.30
東部	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.13	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.13	0.00	0.07	0.13	0.27
南部	0.00	0.06	0.06	0.17	0.00	0.00	0.22	0.06	0.11	0.06	0.17	0.00	0.06	0.06	0.06	0.17	0.06	0.00

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.37	0.51	0.63	0.79	0.91	1.26	1.60	1.95	1.86	1.42	1.35	1.18	1.18	0.93	0.63	0.33	0.44	0.35
北部	0.50	0.93	1.57	1.57	2.36	3.21	4.00	5.71	4.50	3.00	2.93	2.64	2.21	1.64	1.57	0.43	1.00	0.50
西部	0.60	0.80	1.00	1.00	0.70	1.00	1.30	1.00	1.90	1.20	2.00	0.90	1.30	1.40	0.70	0.40	0.40	0.30
東部	0.47	0.33	0.20	0.33	0.40	0.73	0.47	0.87	0.87	1.13	0.53	0.27	0.60	0.73	0.33	0.27	0.13	0.53
南部	0.06	0.17	0.06	0.44	0.33	0.33	0.83	0.44	0.61	0.56	0.44	0.94	0.78	0.28	0.11	0.28	0.28	0.11

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.28	0.32	0.07	0.11	0.14	0.14	0.07	0.04	0.11	0.04	0.05	0.02	0.05	0.00	0.02	0.00	0.39
北部	0.71	1.07	0.21	0.29	0.29	0.36	0.21	0.07	0.36	0.07	0.21	0.07	0.07	0.00	0.00	0.00	0.88
西部	0.20	0.00	0.00	0.00	0.40	0.20	0.00	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.10	0.00	0.10	0.00	0.38
東部	0.13	0.07	0.00	0.07	0.00	0.00	0.07	0.00	0.07	0.07	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.21
南部	0.11	0.11	0.06	0.06	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17

定点当たり報告数 経年変化(2015年第1週~2024年第52週)

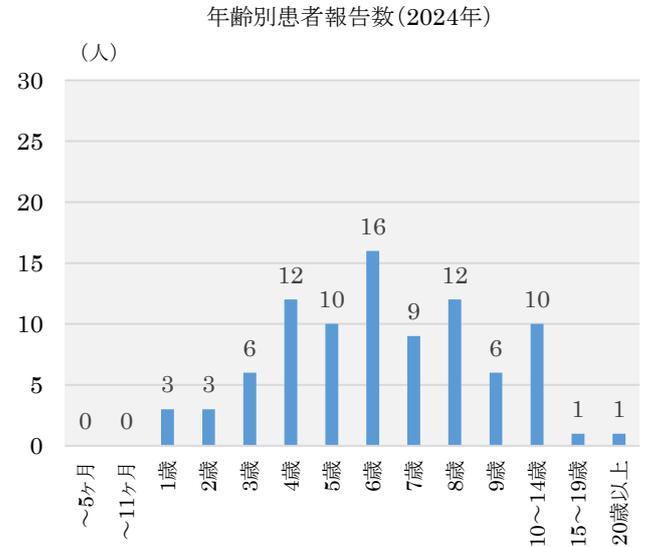
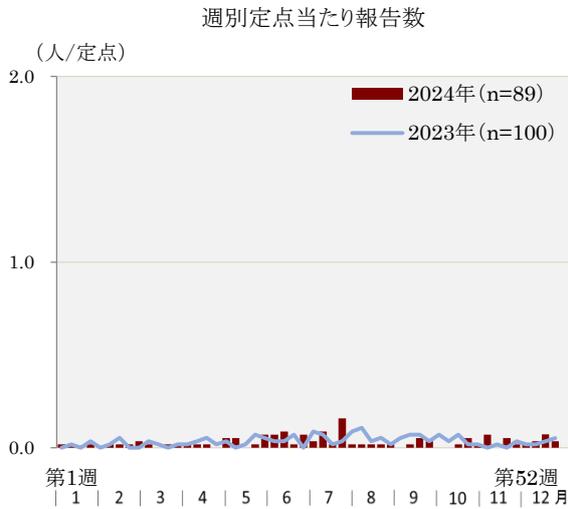


コ 流行性耳下腺炎

2024年の流行性耳下腺炎の報告数は89人、定点当たり報告数は1.56人であった。ここ10年の定点当たり報告数の平均は12.41人で、2024年は過去10年で最も少ない報告数であった。

流行性耳下腺炎は、約4～5年毎に周期的流行をみせるが、2016年の流行以降大きな流行はみられていない。週別定点当たりの報告数では年間を通して0.16人以下で推移した。

年齢別患者報告数は、6歳の16人が最も多く、次いで4歳と8歳の12人と続いた。



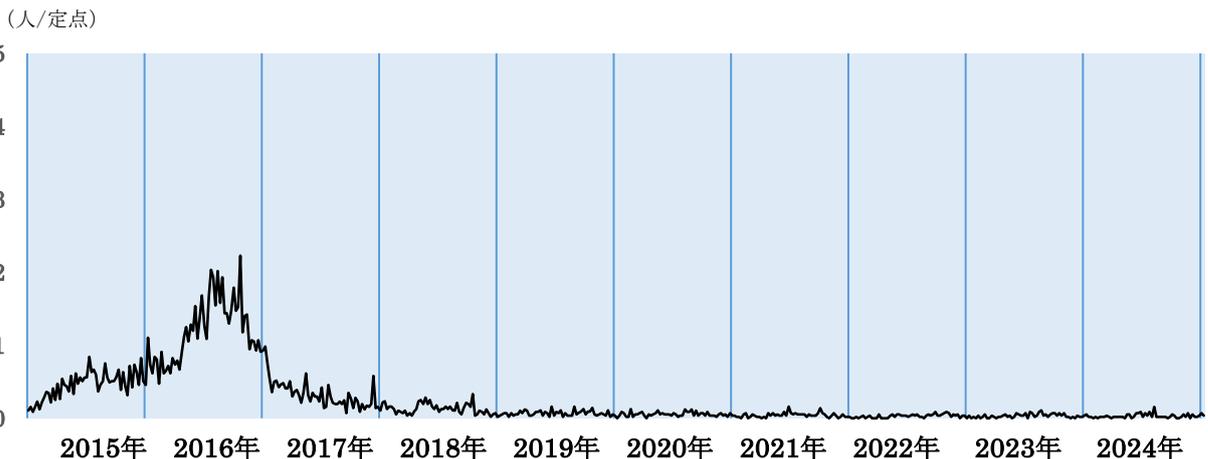
《ブロック別・週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.02	0.02	0.00	0.02	0.00	0.02	0.02	0.02	0.04	0.02	0.00	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.00	0.05
北部	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.07	0.00	0.07	0.07	0.00	0.07	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07
西部	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.10	0.00	0.10	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20
東部	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00
南部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.06	0.00	0.00

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.05	0.00	0.02	0.07	0.07	0.09	0.02	0.07	0.04	0.09	0.02	0.16	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.00
北部	0.00	0.00	0.00	0.07	0.07	0.14	0.00	0.21	0.07	0.14	0.07	0.57	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
西部	0.20	0.00	0.00	0.10	0.10	0.20	0.10	0.10	0.10	0.10	0.00	0.10	0.10	0.00	0.10	0.00	0.10	0.00
東部	0.00	0.00	0.07	0.13	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.07	0.00	0.00
南部	0.06	0.00	0.00	0.00	0.06	0.06	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.02	0.05	0.04	0.00	0.00	0.02	0.05	0.02	0.07	0.00	0.05	0.02	0.02	0.04	0.07	0.04	0.03
北部	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.14	0.00	0.14	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.14	0.14	0.05
西部	0.00	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.10	0.00	0.20	0.00	0.10	0.20	0.00	0.00	0.05
東部	0.00	0.07	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01
南部	0.00	0.06	0.06	0.00	0.00	0.06	0.06	0.06	0.06	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.11	0.00	0.02

定点当たり報告数 経年変化(2015年第1週～2024年第52週)



(2) インフルエンザ／COVID-19定点把握疾患(週報)

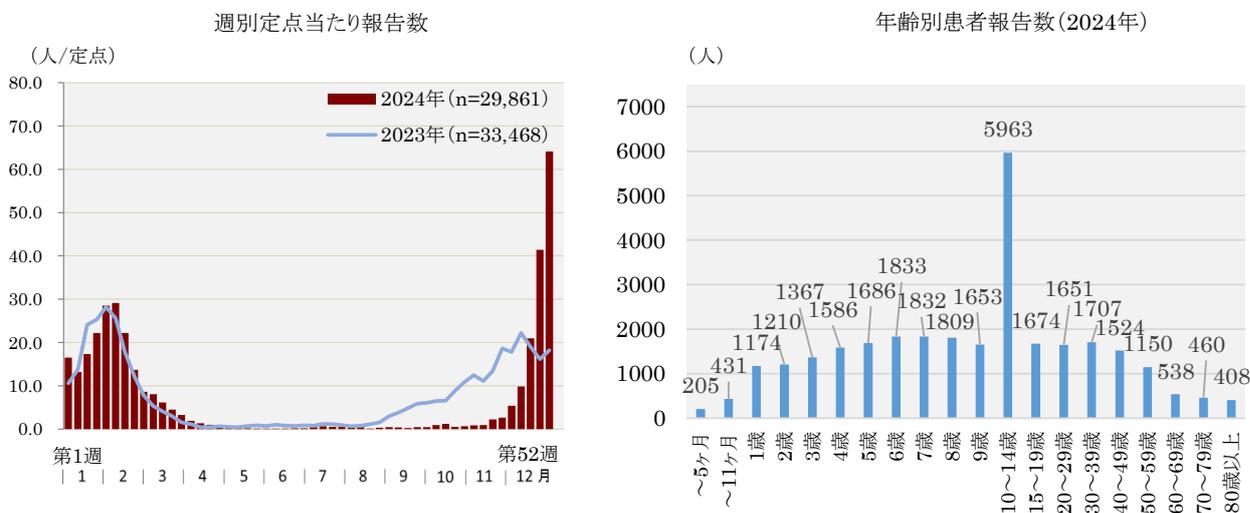
ア インフルエンザ

2024年のインフルエンザの報告数は29,861人、定点当たり報告数は357.11人であった。ここ10年の定点当たり報告数の平均は235.17人で、過去10年で2023年に次いで2番目に多い報告数であった。

2023-2024年シーズンは前シーズン同様、春先にかけて報告数が増加した。冬に再度報告数が増加し、第41週に定点当たり報告数が1.23人となり流行入りの目安である1を超えた。第50週に20.98人となり注意報レベルの10を超え、ピークは第52週の64.11人で、過去10年で最も高い報告数であった。

年齢別患者報告数は、10～14歳の5,963人が最も多く、次いで6歳の1,833人、7歳の1,832人と続いた。

インフルエンザ病原体定点から提出された検体のうち、2023-2024シーズンにおいては、A型はAH1pdm09が8例、AH3が7例、B型はVictoria系統が41例検出された。2024-2025シーズンにおいては、A型はAH1pdm09が38例、AH3亜型が3例検出され、B型は検出されなかった。



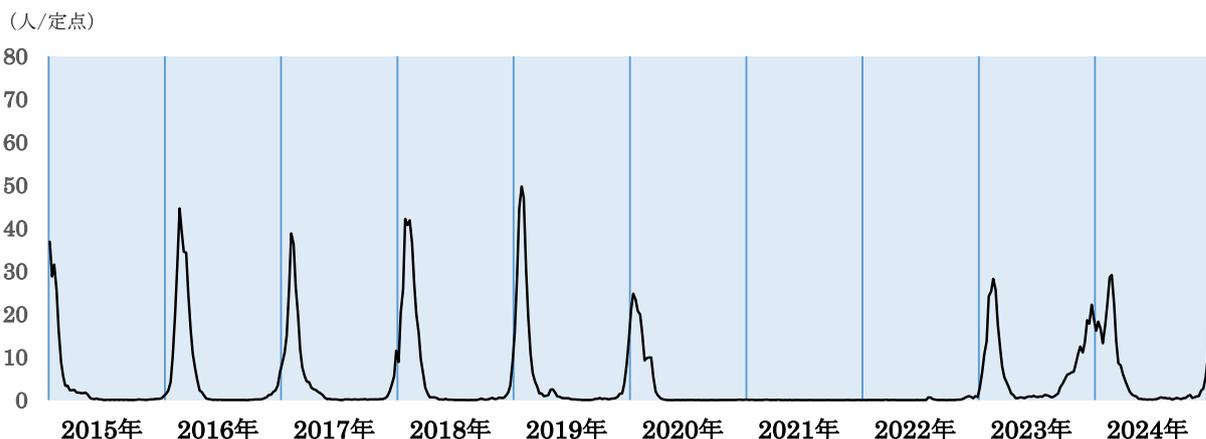
《ブロック別・週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	16.50	13.21	17.33	22.23	28.54	29.11	22.23	13.67	8.60	8.04	6.13	4.51	3.25	1.93	1.32	0.98	0.82	0.27
北部	17.35	15.90	21.40	25.00	35.25	32.20	25.80	16.20	11.60	10.70	6.60	5.05	3.55	1.85	1.75	1.30	0.80	0.35
西部	42.60	16.87	21.73	31.33	33.33	44.87	37.00	21.13	11.67	8.80	9.33	6.13	5.13	2.87	1.40	0.87	1.80	0.47
東部	8.23	10.82	12.59	17.50	21.05	18.91	13.82	7.91	4.50	5.09	3.32	3.50	2.05	1.55	1.27	0.86	0.45	0.05
南部	8.11	11.15	15.74	18.96	27.00	26.37	18.22	12.33	8.00	8.04	6.30	4.04	2.96	1.78	1.00	0.89	0.59	0.30

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.27	0.18	0.13	0.12	0.14	0.10	0.15	0.20	0.45	0.64	0.50	0.51	0.38	0.46	0.11	0.32	0.48	0.39
北部	0.20	0.05	0.20	0.10	0.30	0.15	0.20	0.00	0.85	1.15	0.55	1.00	0.95	1.10	0.15	0.40	0.75	0.50
西部	0.47	0.13	0.00	0.13	0.20	0.13	0.20	0.60	0.73	1.00	0.67	0.60	0.07	0.13	0.13	0.13	0.20	0.27
東部	0.36	0.36	0.18	0.05	0.14	0.05	0.09	0.18	0.14	0.36	0.45	0.27	0.36	0.32	0.18	0.18	0.27	0.55
南部	0.15	0.15	0.11	0.19	0.00	0.07	0.15	0.15	0.26	0.30	0.41	0.30	0.15	0.30	0.00	0.48	0.59	0.26

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.26	0.44	0.48	0.90	1.23	0.51	0.65	0.88	0.90	2.21	2.64	5.42	9.86	20.98	41.43	64.11	6.87
北部	0.50	0.50	0.40	1.15	1.75	0.70	0.70	0.35	0.90	3.10	4.55	7.05	9.80	26.30	50.40	69.00	8.05
西部	0.40	0.47	0.40	1.20	1.13	0.60	0.33	0.60	0.80	3.13	3.47	6.33	13.13	24.20	53.80	87.20	9.62
東部	0.09	0.45	0.55	1.05	1.55	0.59	1.00	0.86	1.23	1.64	1.55	4.18	8.19	16.00	29.29	54.10	5.00
南部	0.15	0.37	0.52	0.44	0.63	0.26	0.52	1.44	0.70	1.52	1.67	4.70	9.37	19.11	37.37	55.44	5.96

定点当たり報告数 経年変化(2015年第1週～2024年第52週)

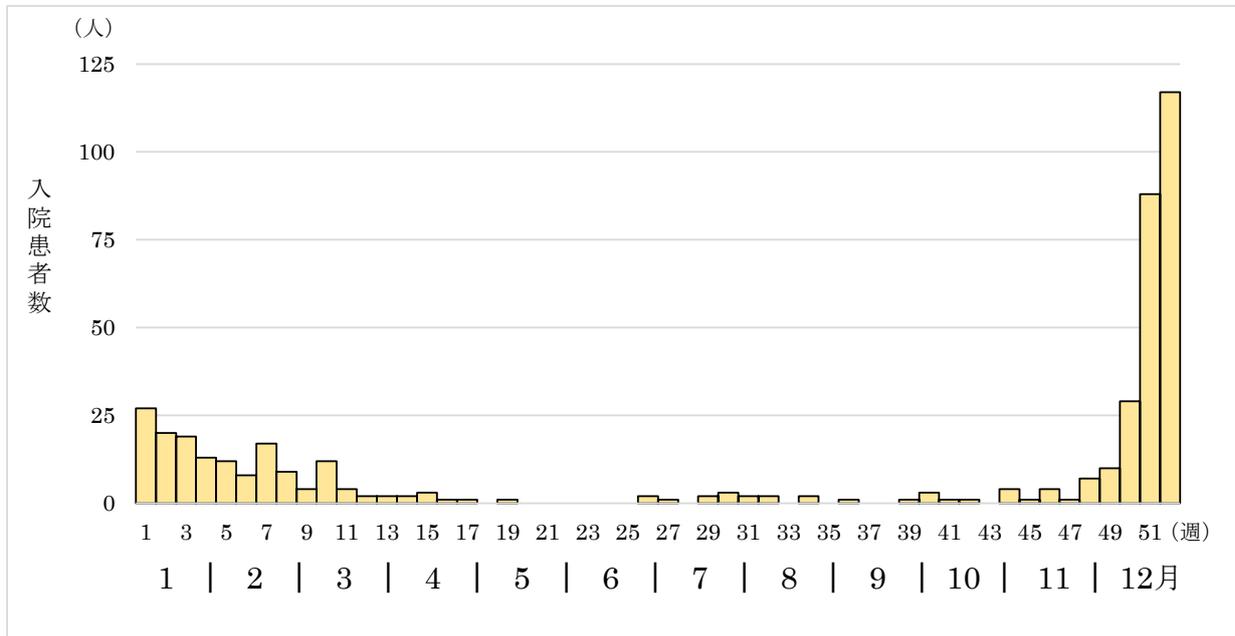


インフルエンザ入院サーベイランス

2024年のインフルエンザ入院サーベイランスの報告数は439人であった。ピークは第52週の117人であった。

年齢別患者報告数は、1～4歳の91人が最も多く、次いで80歳以上の89人、70～79歳の71人と続いた。

週別入院患者報告数(2024年)



2024年 基幹定点サーベイランス患者累積数(年齢階級別・性別・入院時の対応別)

		1歳未満	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	合計	総計
入院患者数	男	16	64	26	12	4	4	7	4	8	25	42	43	255	439
	女	6	27	26	15	2	2	2	4	12	13	29	46	184	
ICU入室	男	1	1	0	0	0	0	1	0	1	3	2	4	13	21
	女	0	4	1	0	0	0	0	0	1	1	0	1	8	
人工呼吸器の利用	男	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	1	5	9
	女	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
頭部CT検査	男	1	6	1	0	0	0	0	0	2	0	4	2	16	29
	女	0	5	2	0	0	0	0	0	0	0	3	3	13	
頭部MRI検査	男	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5	11
	女	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	6	
脳波検査	男	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6
	女	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
いずれにも該当せず	男	15	58	24	12	4	4	6	4	6	22	36	38	229	397
	女	6	22	23	15	2	2	2	4	11	12	26	43	168	

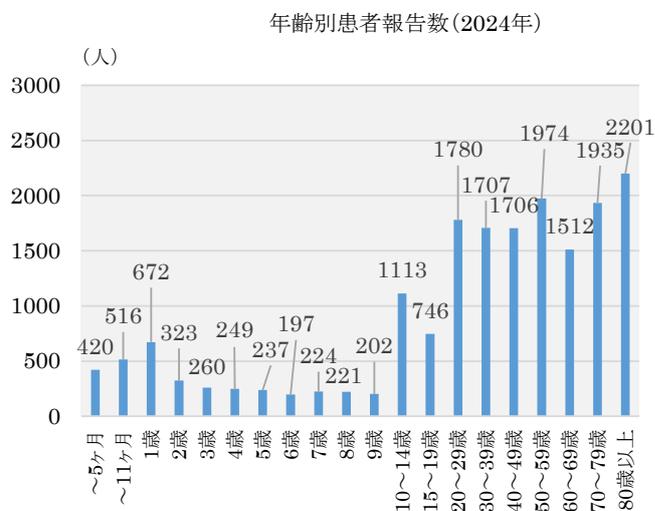
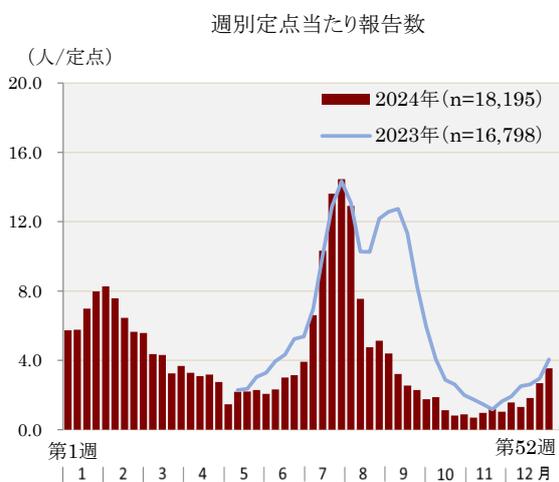
※「ICU入室」及び「人工呼吸器の利用」、「頭部CT検査」、「頭部MRI検査」、「脳波検査」については、同一人物でそれぞれに計上されていることがあるため、「入院患者数」の総計と「ICU入室」、「人工呼吸器の利用」、「頭部CT検査」、「頭部MRI検査」、「脳波検査」、「いずれにも該当せず」の合計は一致しない。

イ COVID-19

2024年のCOVID-19の報告数は18,195人、定点当たり報告数は219.65人であった。

2024年は2023年同様夏に報告数が増加し、ピークは第30週の14.29人であった。

年齢別患者報告数は、80歳以上の2,201人が最も多く、次いで50～59歳の1,974人、70～79歳の1,935人と続いた。



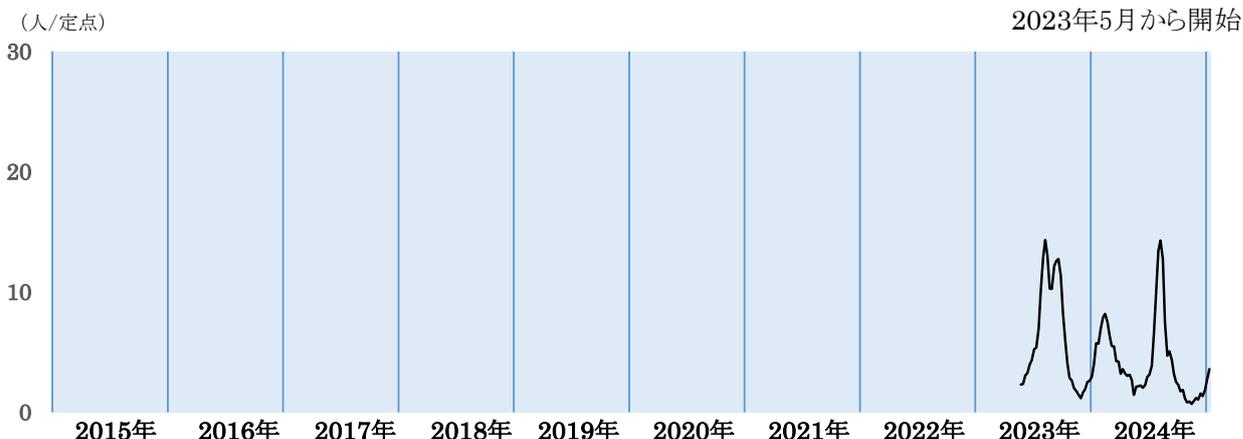
《ブロック別・週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	5.73	5.70	6.90	7.88	8.18	7.50	6.38	5.51	5.45	4.25	4.21	3.18	3.58	3.20	3.01	3.11	2.69	1.43
北部	4.80	6.35	7.65	8.85	8.35	7.95	6.25	6.80	6.45	4.40	4.10	3.65	3.95	3.80	3.70	3.65	3.30	1.45
西部	12.07	6.20	5.53	6.73	7.13	6.00	5.93	4.87	4.00	2.80	3.60	3.07	3.00	2.67	2.27	2.20	1.87	2.80
東部	4.59	5.82	6.77	7.55	7.45	6.73	6.45	4.59	5.73	5.09	5.05	2.50	3.14	3.77	3.05	2.82	2.91	0.64
南部	3.81	4.85	7.22	8.07	9.22	8.63	6.67	5.67	5.30	4.26	3.96	3.44	4.00	2.59	2.89	3.44	2.52	1.30

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	2.13	2.15	2.24	2.02	2.27	2.94	3.11	3.87	6.52	10.20	13.45	14.29	12.76	7.46	4.70	5.07	4.35	3.18
北部	1.95	2.20	2.65	1.80	2.60	2.95	3.65	3.85	6.35	10.50	15.55	16.55	14.05	8.75	6.75	6.50	5.65	3.50
西部	2.20	1.13	1.67	1.53	2.20	2.47	2.27	4.27	6.93	10.07	12.60	12.87	10.00	7.40	6.07	3.73	3.73	1.73
東部	2.23	3.00	2.05	2.86	2.00	3.05	3.32	4.09	6.91	11.18	13.86	13.45	11.55	7.00	3.64	4.86	3.45	3.36
南部	2.15	2.00	2.41	1.78	2.30	3.11	3.00	3.48	6.11	9.26	12.04	14.07	14.33	6.93	3.30	4.93	4.44	3.59

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	2.51	2.26	1.74	1.86	1.13	0.81	0.88	0.69	0.95	1.18	1.04	1.57	1.33	1.86	2.71	3.58	4.17
北部	3.35	2.85	1.45	1.60	0.95	0.90	0.85	1.05	0.80	0.65	1.20	1.55	1.75	2.65	3.35	3.85	4.62
西部	1.53	2.80	1.73	1.67	1.20	0.87	0.53	0.67	0.53	1.27	0.93	0.93	0.73	1.53	2.73	3.73	3.83
東部	2.32	2.18	2.09	2.45	1.09	1.00	1.36	0.77	1.50	1.59	0.95	1.59	1.24	1.33	2.29	3.48	4.11
南部	2.59	1.59	1.67	1.67	1.26	0.56	0.70	0.37	0.85	1.19	1.04	1.93	1.41	1.85	2.56	3.37	4.07

定点当たり報告数 経年変化(2015年第1週～2024年第52週)

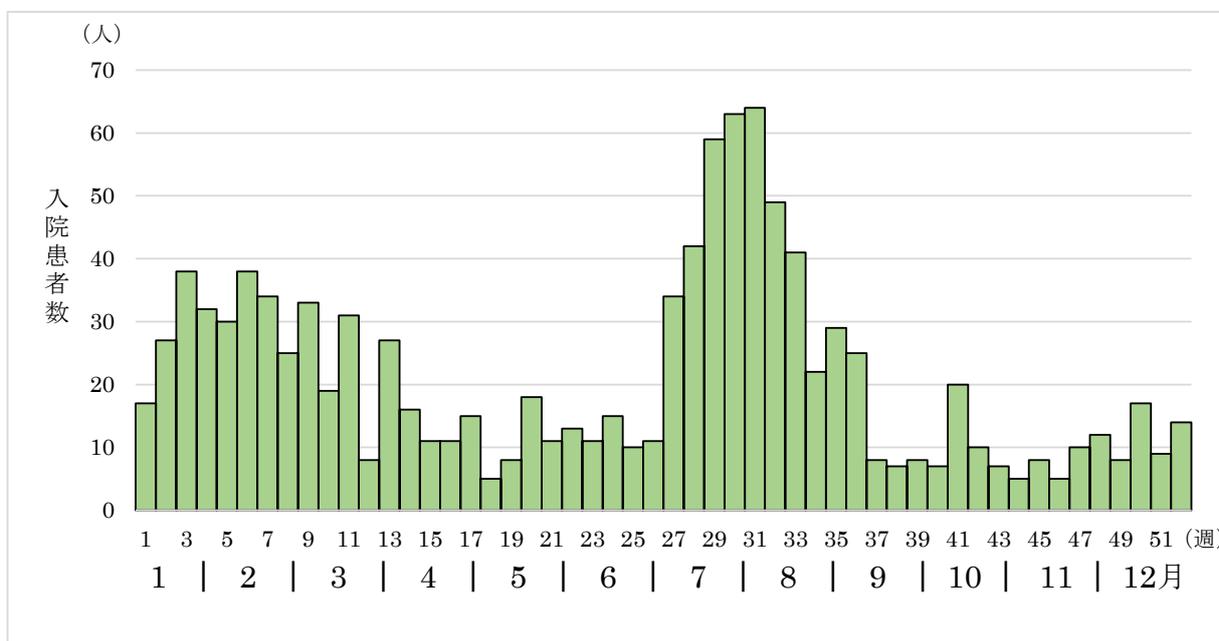


COVID-19入院サーベイランス

2024年のCOVID-19入院サーベイランスの報告数は1,097人であった。ピークは第31週の64人であった。

年齢別患者報告数は、80歳以上の447人が最も多く、次いで70～79歳の281人、60歳～69歳の97人と続いた。

週別入院患者報告数(2024年)



2024年 基幹定点サーベイランス患者累積数(年齢階級別・性別・入院時の対応別)

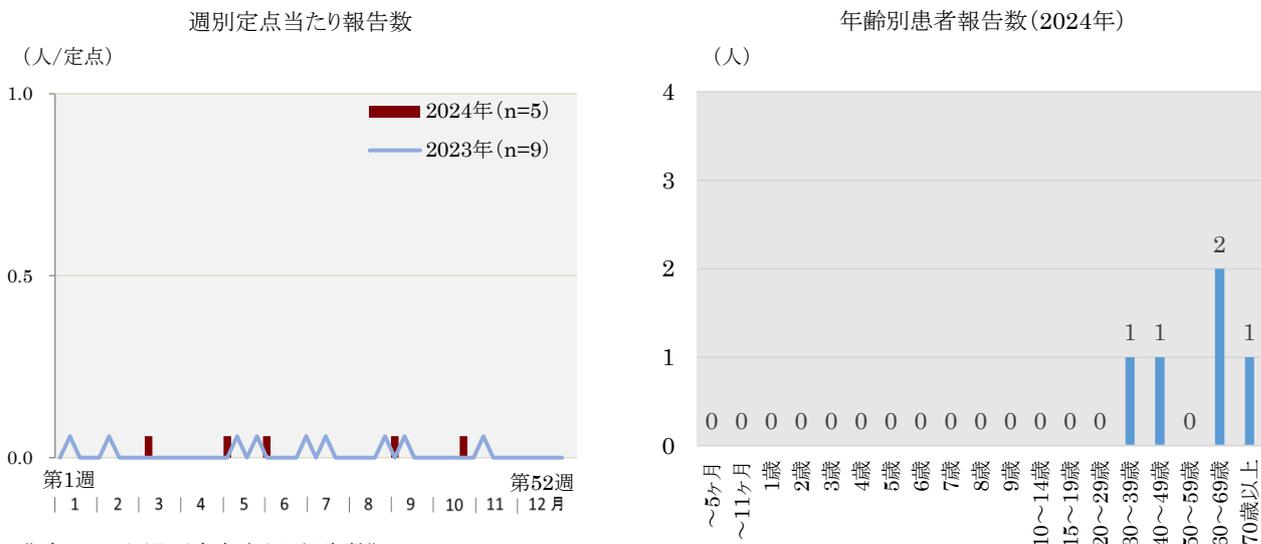
		1歳未満	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	合計	総計
入院患者数	男性	24	28	8	5	7	8	9	10	44	64	172	245	624	1097
	女性	26	18	6	7	6	7	14	14	31	33	109	202	473	
ICU入室	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	2	7	16	18	43	61
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	9	6	18	
人工呼吸器の利用	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6	8	9	25	36
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	4	4	11	
いずれにも該当せず	男性	24	28	8	5	7	8	9	10	42	56	156	227	580	1032
	女性	26	18	6	7	6	7	14	14	29	32	99	194	452	

※「ICU入室」及び「人工呼吸器の利用」については、同一人物でそれぞれに計上されていることがあるため、「入院患者数」の総計と「ICU入室」、「人工呼吸器の利用」、「いずれにも該当せず」の合計は一致しない。

(3) 眼科定点把握疾患（週報）

ア 急性出血性結膜炎

2024年の急性出血性結膜炎の報告数は5人、定点当たり報告数は0.29人であった。ここ10年の定点当たり報告数の平均は0.48人であった。



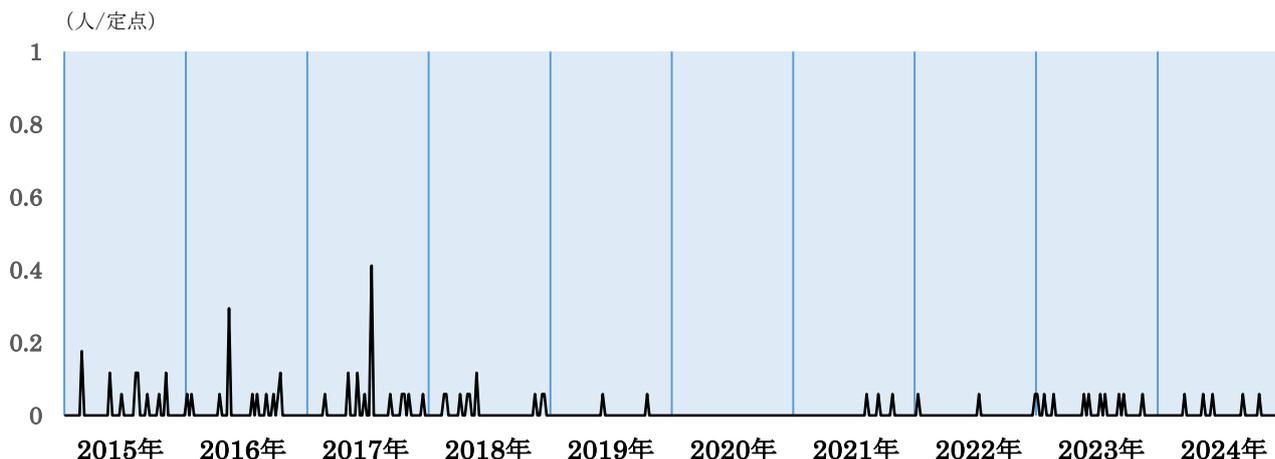
《ブロック別・週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06
北部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20
西部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
東部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
南部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00
北部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.00
西部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
東部	0.00	0.00	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
南部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01
北部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01
西部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01
東部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
南部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

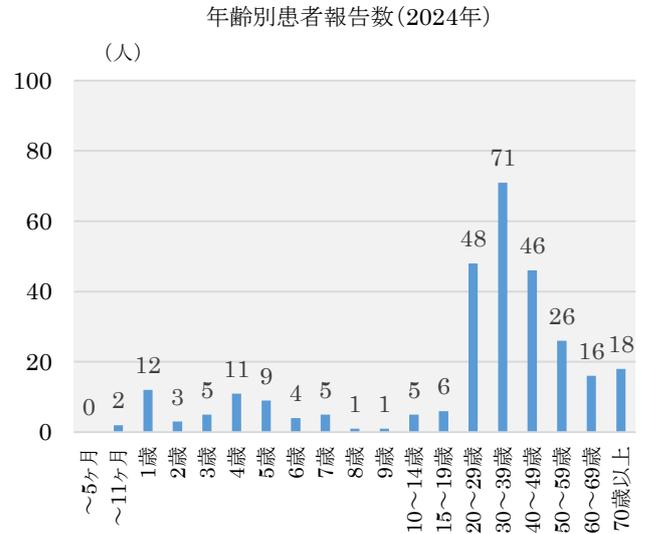
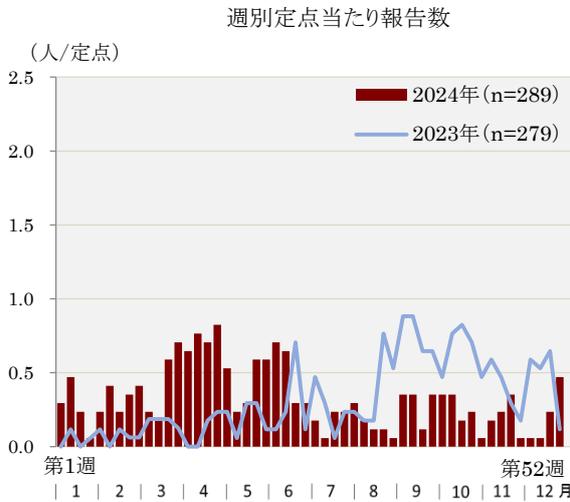
定点当たり報告数 経年変化(2015年第1週～2024年第52週)



イ 流行性角結膜炎

2024年の流行性角結膜炎の報告数は289人、定点当たり報告数は17.00人であった。ここ10年の定点当たり報告数の平均は15.84人であった。

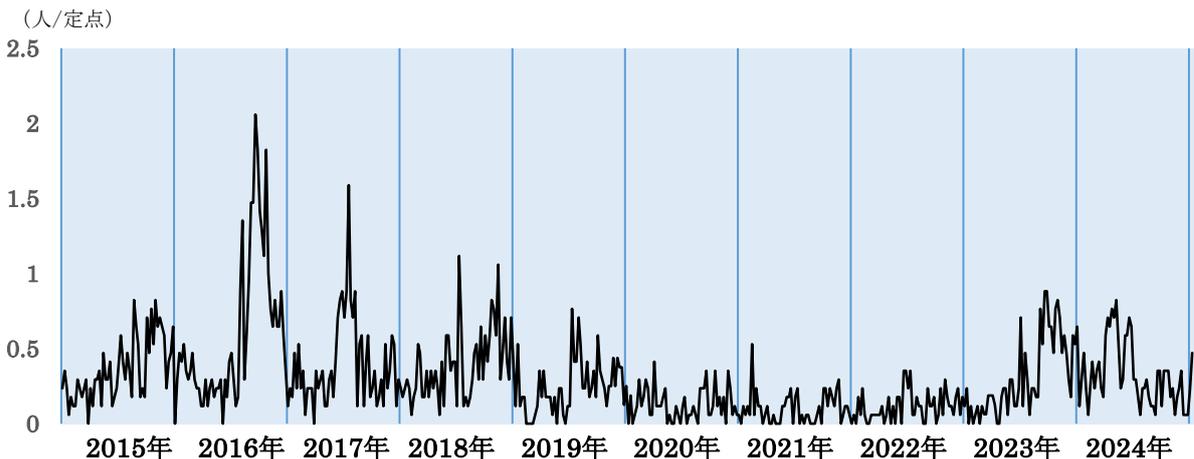
年齢別患者報告数は、30～39歳の71人が最も多く、次いで20～29歳の48人、40～49歳の46人と続いた。



《ブロック別・週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.29	0.47	0.24	0.06	0.24	0.41	0.24	0.35	0.41	0.24	0.18	0.59	0.71	0.65	0.76	0.71	0.82	0.53
北部	0.12	0.00	0.00	0.00	0.06	0.24	0.12	0.18	0.00	0.00	0.00	0.06	0.18	0.18	0.29	0.24	0.35	0.12
西部	0.00	0.06	0.06	0.00	0.06	0.00	0.00	0.12	0.00	0.00	0.06	0.24	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00
東部	0.18	0.35	0.18	0.06	0.12	0.18	0.12	0.06	0.41	0.18	0.12	0.18	0.41	0.24	0.12	0.18	0.00	0.12
南部	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.12	0.12	0.24	0.35	0.29	0.41	0.29
週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.24	0.29	0.59	0.59	0.71	0.65	0.29	0.29	0.18	0.06	0.24	0.24	0.29	0.18	0.12	0.12	0.06	0.35
北部	0.00	0.06	0.00	0.00	0.12	0.12	0.06	0.06	0.06	0.06	0.00	0.06	0.00	0.12	0.00	0.00	0.00	0.06
西部	0.06	0.06	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.12
東部	0.12	0.18	0.29	0.12	0.47	0.41	0.06	0.12	0.06	0.00	0.18	0.12	0.06	0.00	0.06	0.12	0.06	0.18
南部	0.06	0.00	0.24	0.47	0.12	0.12	0.18	0.12	0.06	0.00	0.06	0.06	0.24	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00
週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均	
市	0.35	0.12	0.35	0.35	0.35	0.18	0.24	0.06	0.18	0.24	0.35	0.06	0.06	0.06	0.24	0.47	0.33	
北部	0.06	0.00	0.00	0.00	0.06	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.06	0.00	0.00	0.24	0.18	0.07	
西部	0.06	0.00	0.06	0.12	0.06	0.06	0.06	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.03	
東部	0.18	0.12	0.24	0.24	0.24	0.06	0.18	0.00	0.12	0.24	0.24	0.00	0.00	0.06	0.00	0.24	0.15	
南部	0.06	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.06	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.08	

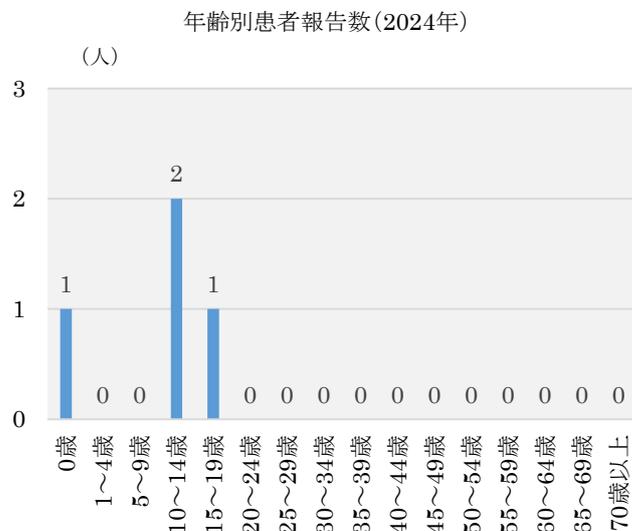
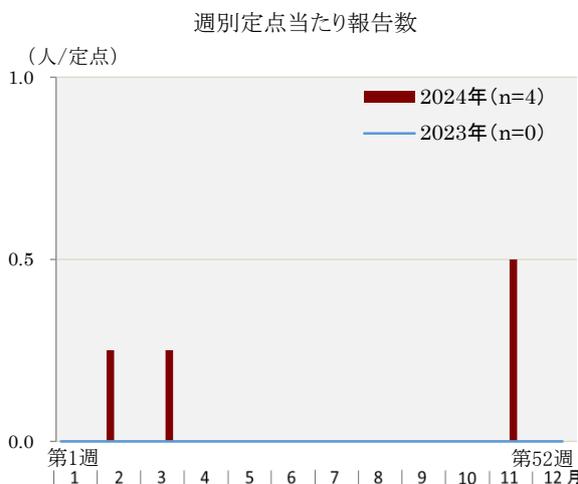
定点当たり報告数 経年変化(2015年第1週～2024年第52週)



(4) 基幹定点把握疾患 (週報)

ア 細菌性髄膜炎(髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。)

2024年の細菌性髄膜炎の報告数は4人、定点当たり報告数は1.00人であった。ここ10年の定点当たり報告数の平均は0.35人で、過去10年で最も多い報告数であった。また、病原体はレンサ球菌が1例、検出せずが3例であった。



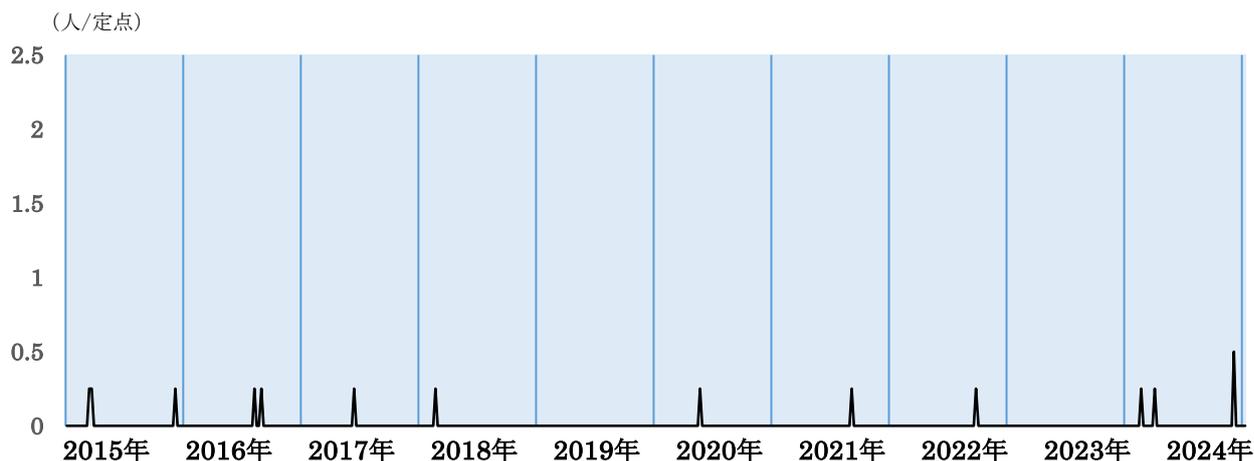
《週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

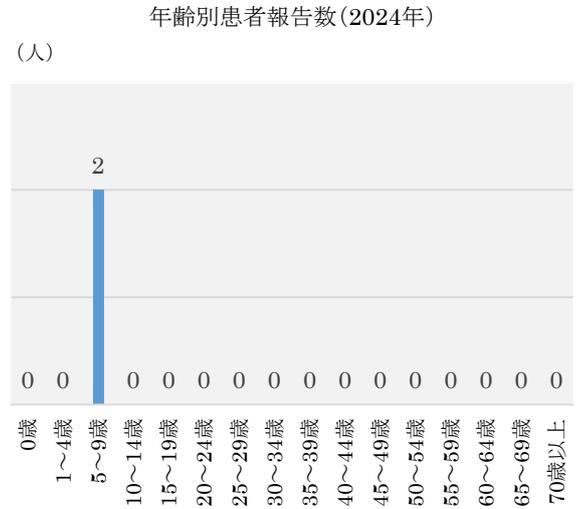
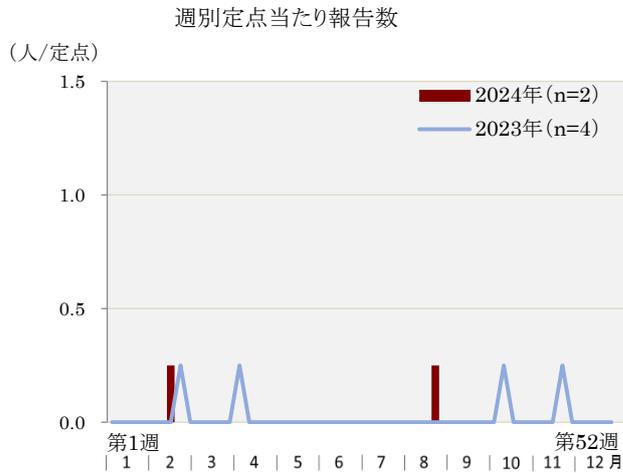
週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02

定点当たり報告数 経年変化(2015年第1週~2024年第52週)



イ 無菌性髄膜炎

2024年の無菌性髄膜炎の報告数は2人、定点当たり報告数は0.50人であった。ここ10年の定点当たり報告数の平均は0.43人であった。また、病原体はエンテロウイルスが1例、検出せずが1例であった。



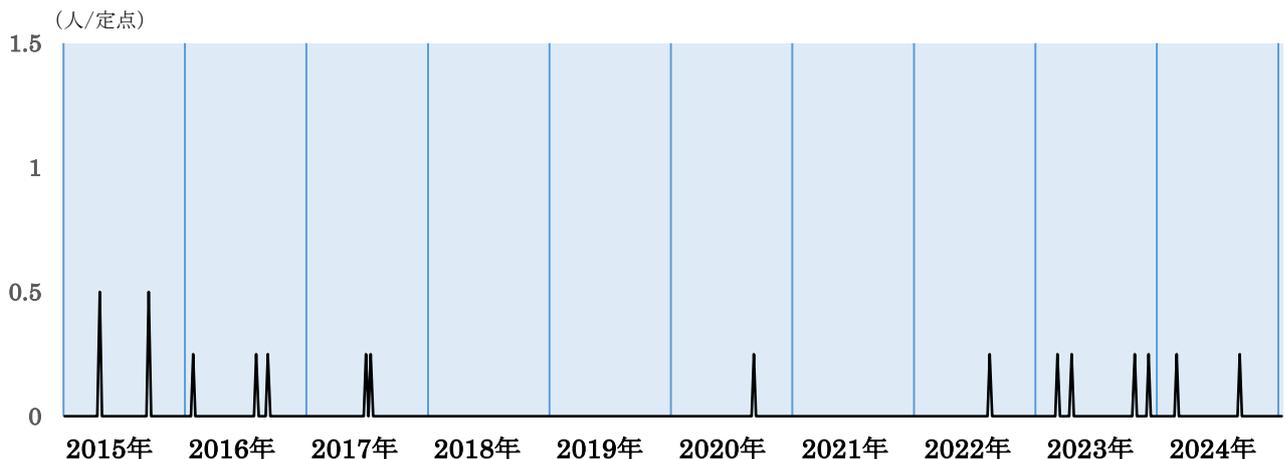
《週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01

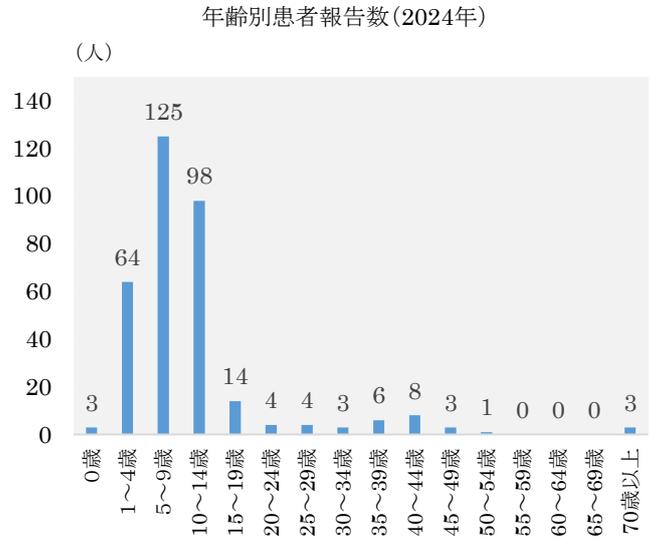
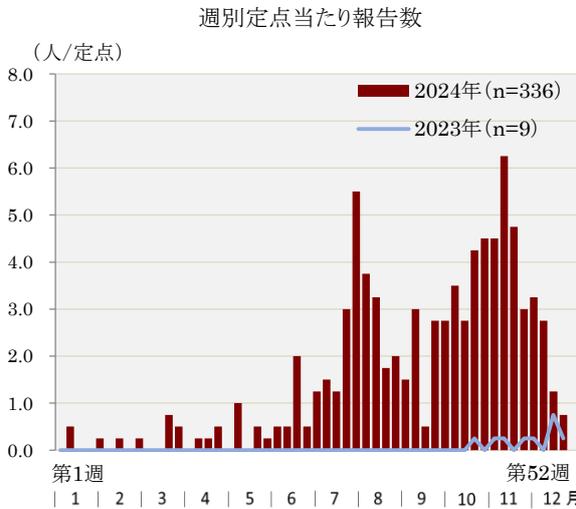
定点当たり報告数 経年変化(2015年第1週~2024年第52週)



ウ マイコプラズマ肺炎

2024年のマイコプラズマ肺炎は336人、定点当たり報告数は84.00人であった。ここ10年の定点当たり報告数の平均は21.00人で、過去10年で最も多い報告数であった。

年齢別患者報告数は、5～9歳の125人が最も多く、次いで10～14歳の98人、1～4歳の64人と続いた。



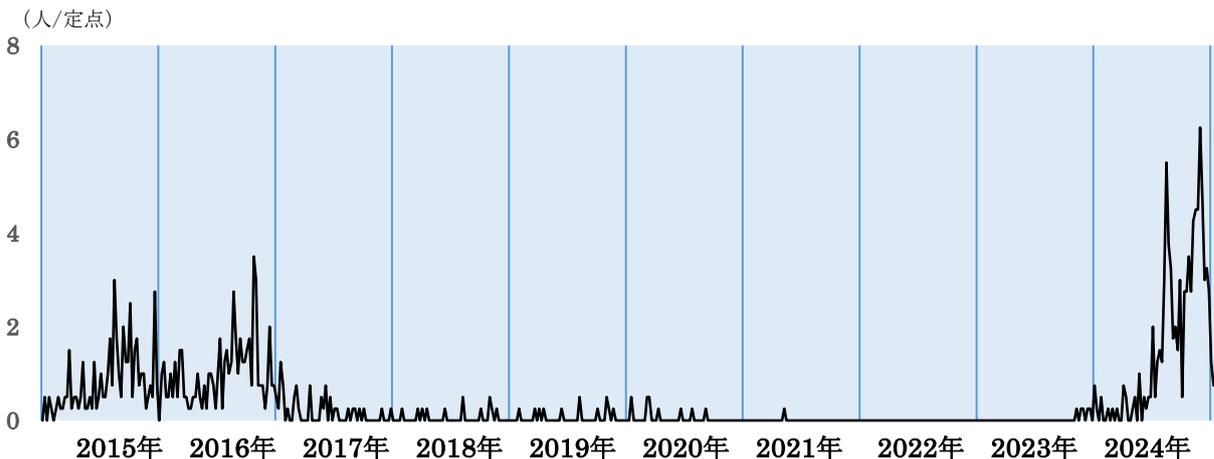
《週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.00	0.50	0.00	0.00	0.25	0.00	0.25	0.00	0.25	0.00	0.00	0.75	0.50	0.00	0.25	0.25	0.50	0.00

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	1.00	0.00	0.50	0.25	0.50	0.50	2.00	0.50	1.25	1.50	1.25	3.00	5.50	3.75	3.25	1.75	2.00	1.50

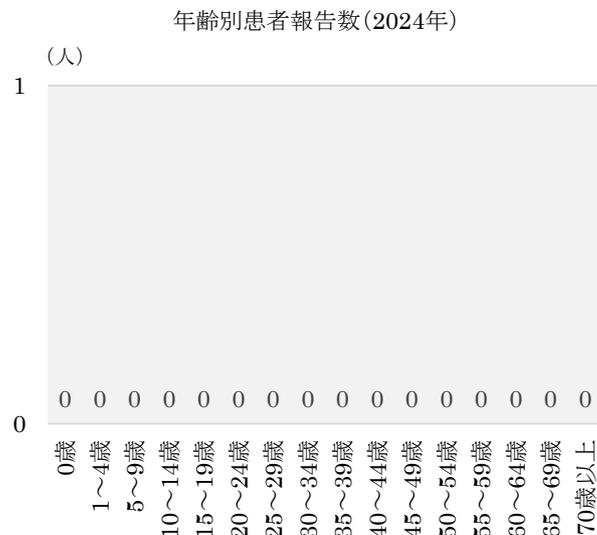
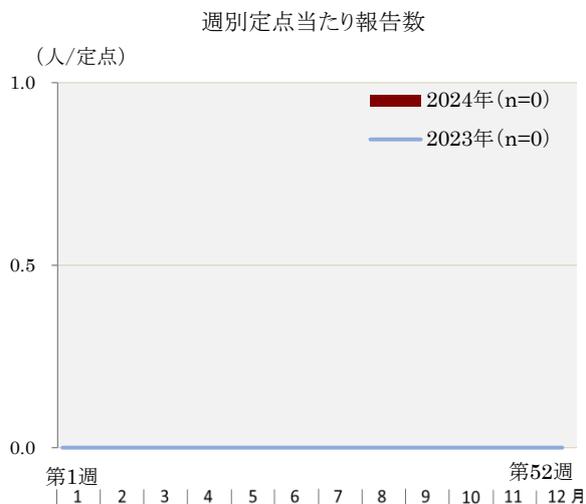
週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	3.00	0.50	2.75	2.75	3.50	2.75	4.25	4.50	4.50	6.25	4.75	3.00	3.25	2.75	1.25	0.75	1.62

定点当たり報告数 経年変化(2015年第1週～2024年第52週)



エ クラミジア肺炎(オウム病を除く)

2024年は、クラミジア肺炎(オウム病を除く)の報告はなかった。



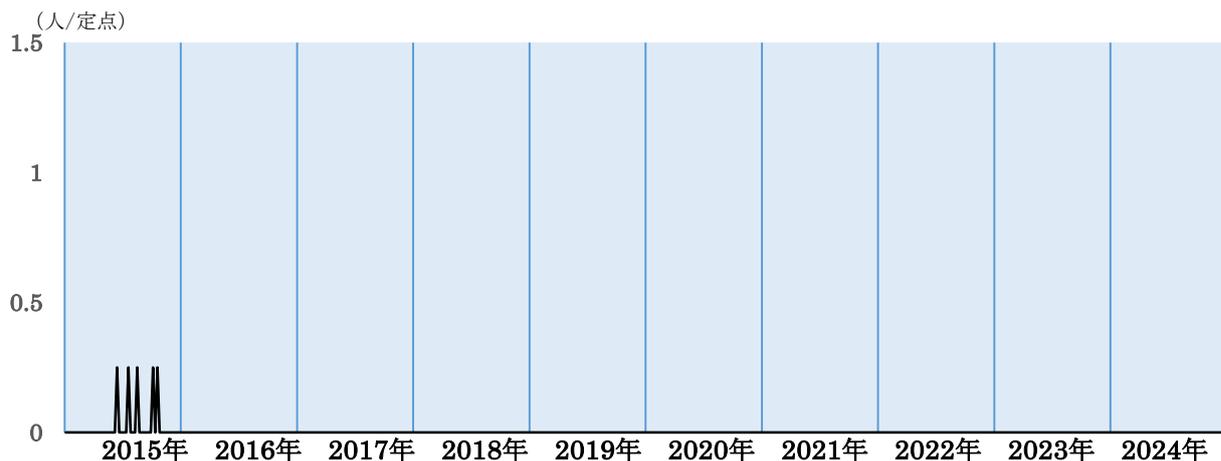
《週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

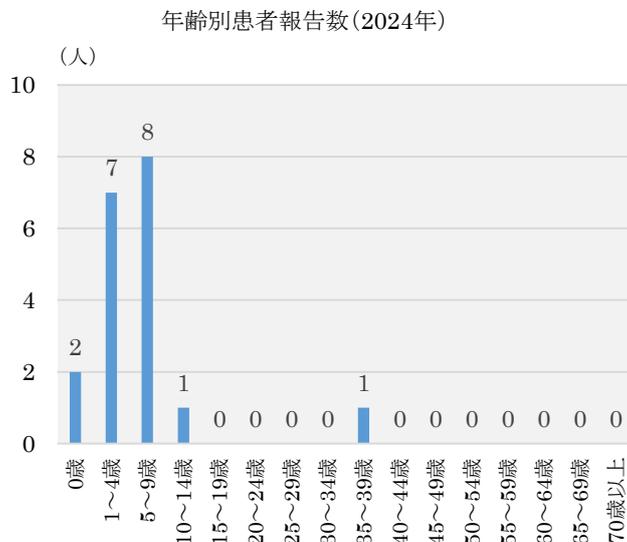
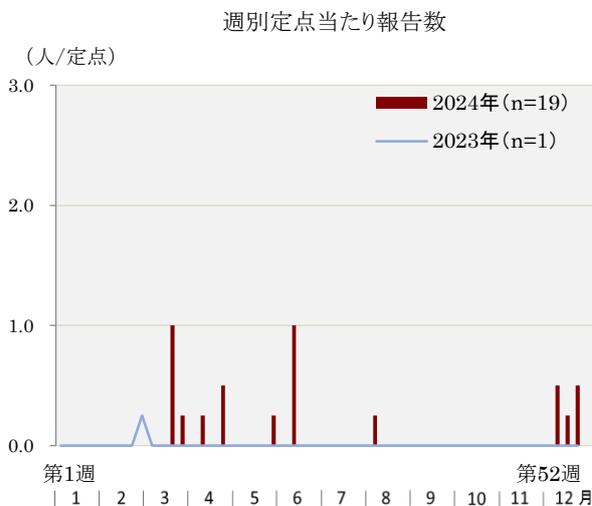
定点当たり報告数 経年変化(2015年第1週～2024年第52週)



オ 感染性胃腸炎(ロタウイルスが病原体であるものに限る)

2024年の感染性胃腸炎(ロタウイルスが病原体であるものに限る)の報告数は19人であった。定点当たり報告数は4.75人であった。ここ10年の定点当たり報告数の平均は7.40人であった。

2020年10月のロタウイルスワクチンの定期接種導入以降で最も報告数が多かった。



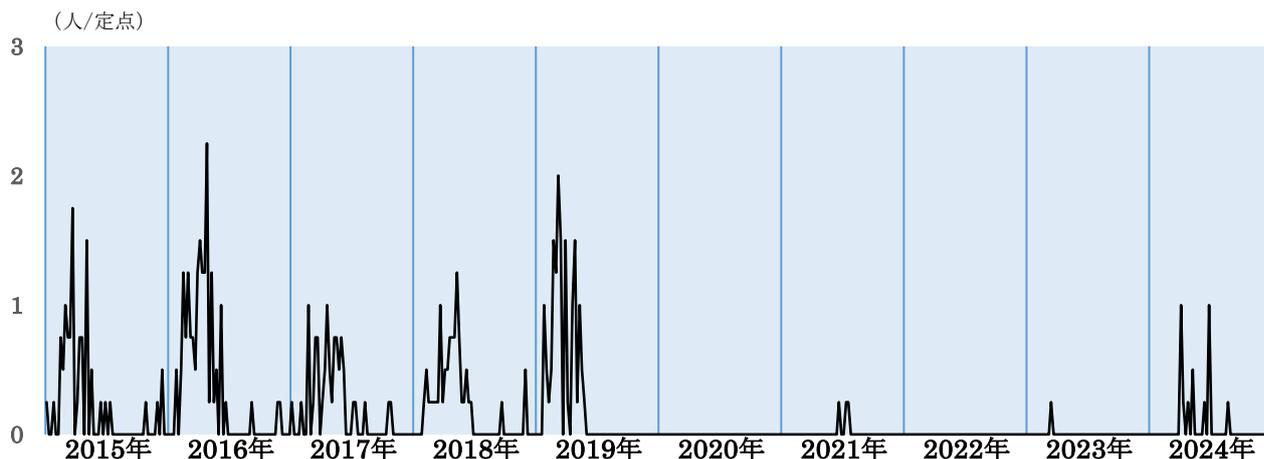
《週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	0.25	0.00	0.25	0.00	0.50	0.00

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.25	0.50	0.09

定点当たり報告数 経年変化(2015年第1週~2024年第52週)



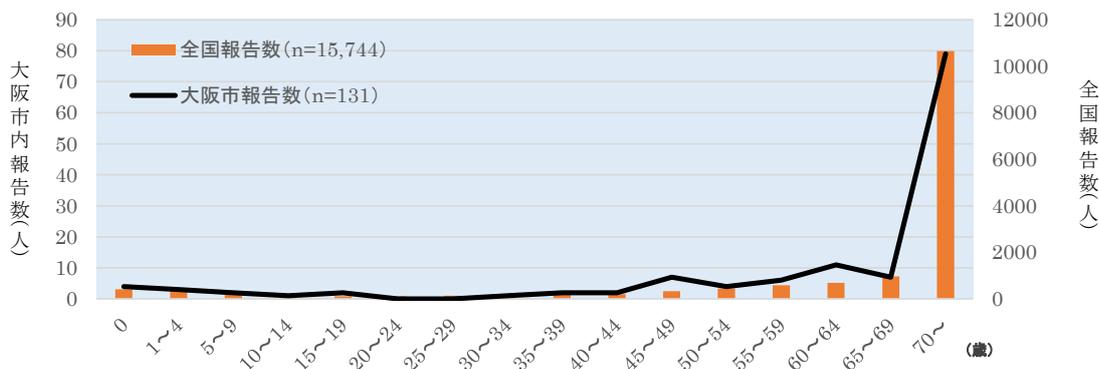
(5) 基幹定点把握疾患(月報)

月別発生状況 2024年

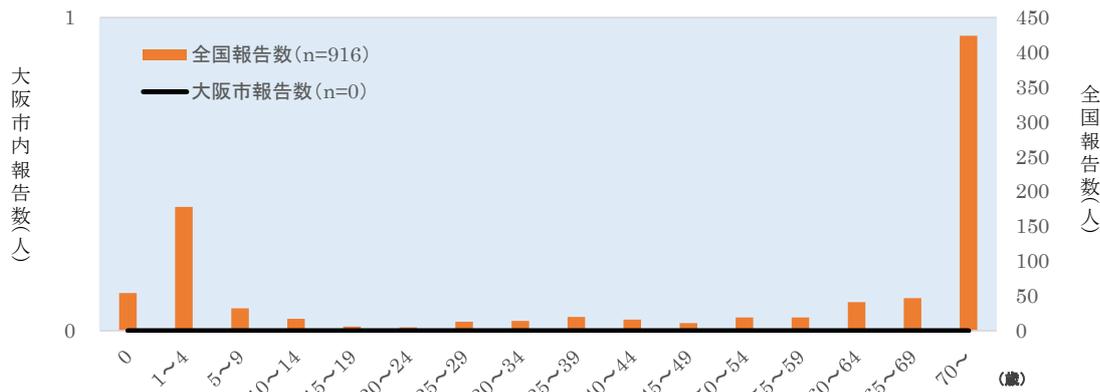
月	1		2		3		4		5		6	
疾患名	報告数	定点当たり報告数										
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	13	3.25	12	3.00	11	2.75	4	1.00	9	2.25	9	2.25
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
薬剤耐性緑膿菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

月	7		8		9		10		11		12		計	
疾患名	報告数	定点当たり報告数												
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4	1.00	11	2.75	21	5.25	10	2.50	13	3.25	14	3.50	131	2.73
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0.00
薬剤耐性緑膿菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0.00

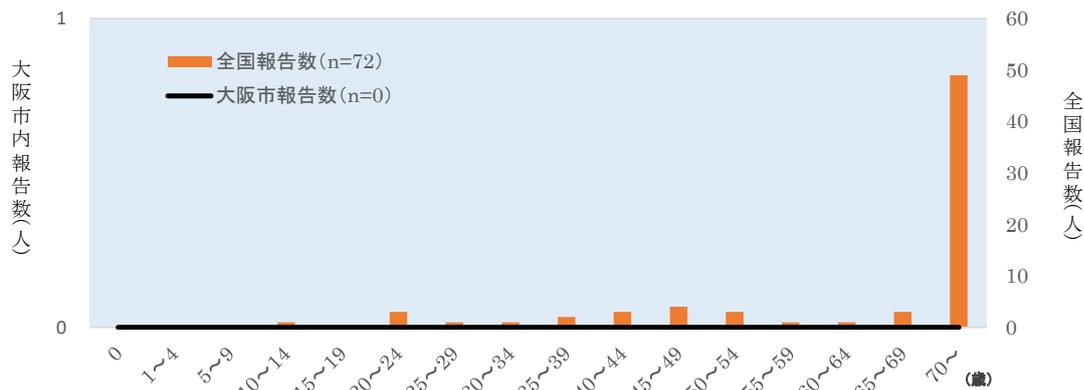
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 年齢別患者報告数(2024年)



ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 年齢別患者報告数(2024年)

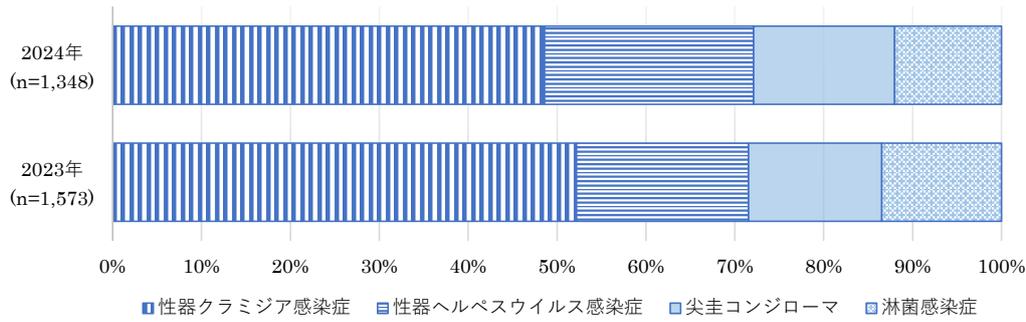


薬剤耐性緑膿菌感染症 年齢別患者報告数(2024年)

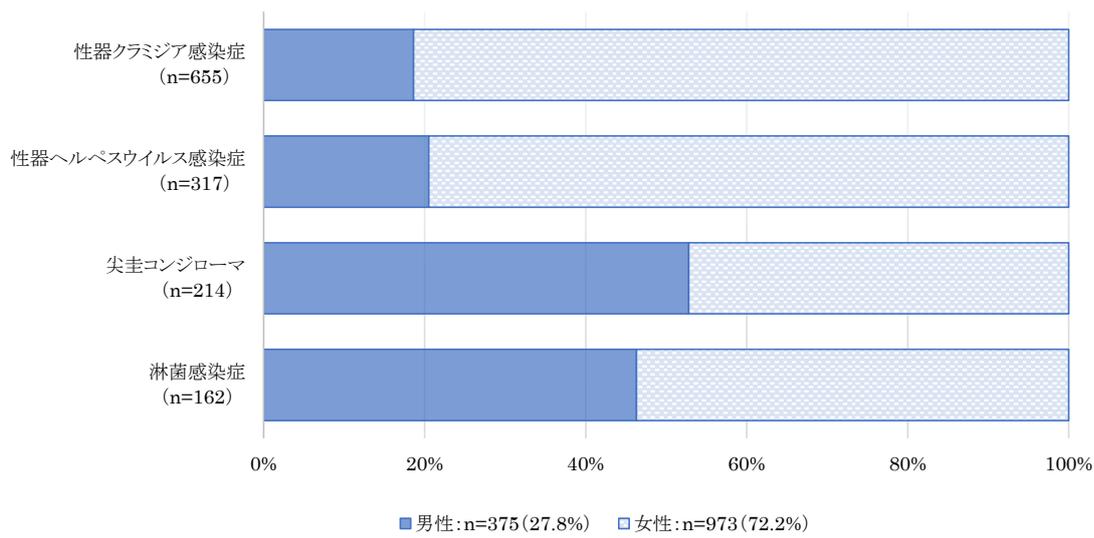


(6) 定点把握感染症(性感染症)

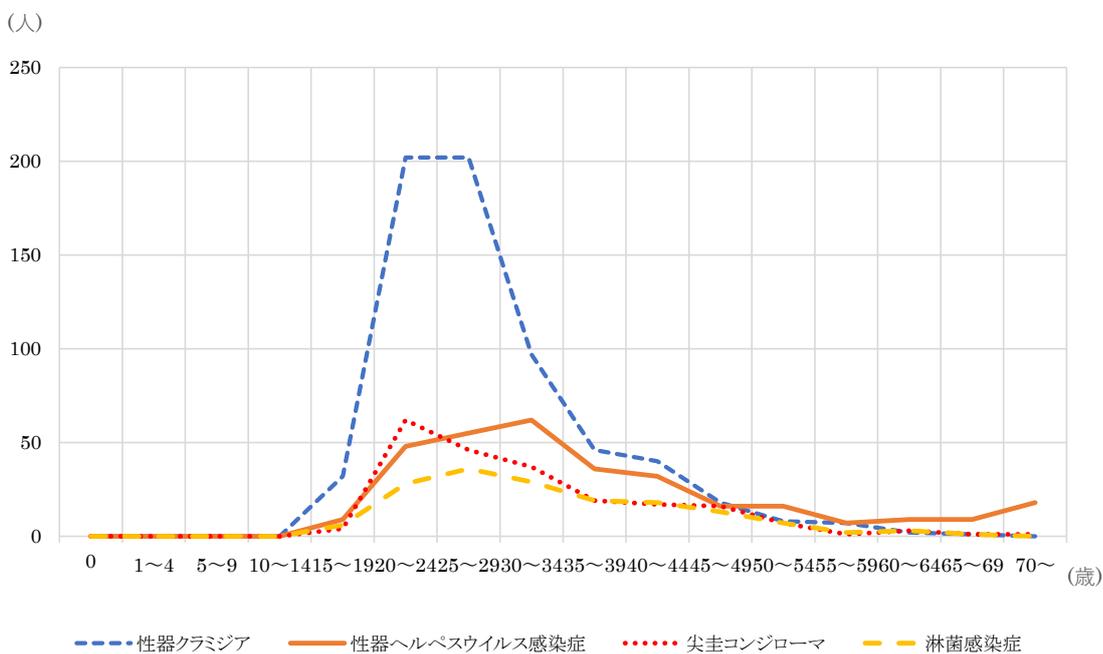
疾患別割合(男女計)



疾患別・男女別件数比較 2024年

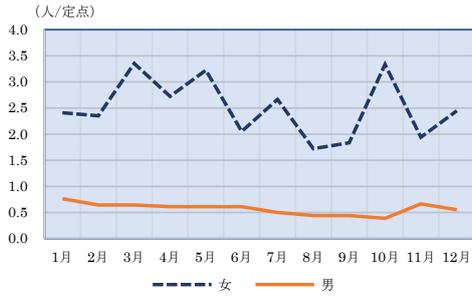


疾患別・年齢別患者報告数(男女計) 2024年



ア 性器クラミジア感染症

月別定点当たり報告数



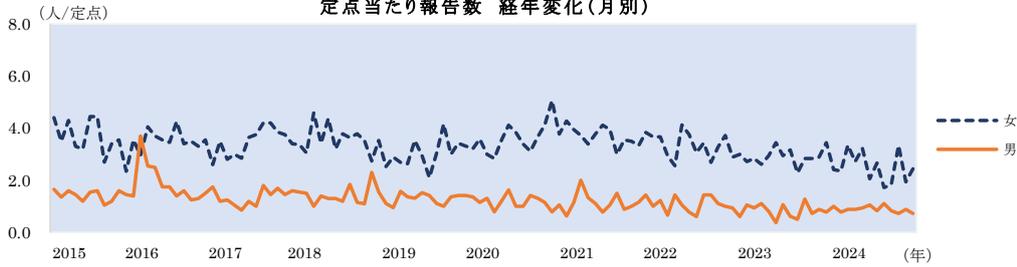
月別定点当たり報告数

月	1	2	3	4	5	6
女性	2.41	2.35	3.35	2.72	3.22	2.06
男性	0.76	0.65	0.65	0.61	0.61	0.61

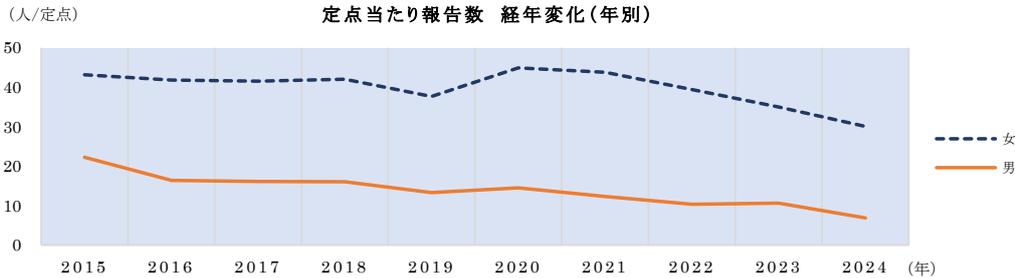
月	7	8	9	10	11	12
女性	2.67	1.72	1.83	3.33	1.94	2.44
男性	0.50	0.44	0.44	0.39	0.67	0.56

年平均	計	10年間の定点当たり報告数平均
2.51	30.06	39.92
0.57	6.89	13.89

定点当たり報告数 経年変化(月別)

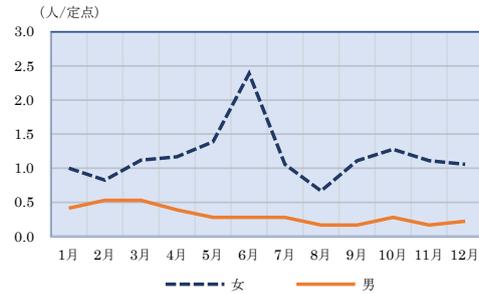


定点当たり報告数 経年変化(年別)



イ 性器ヘルペスウイルス感染症

月別定点当たり報告数



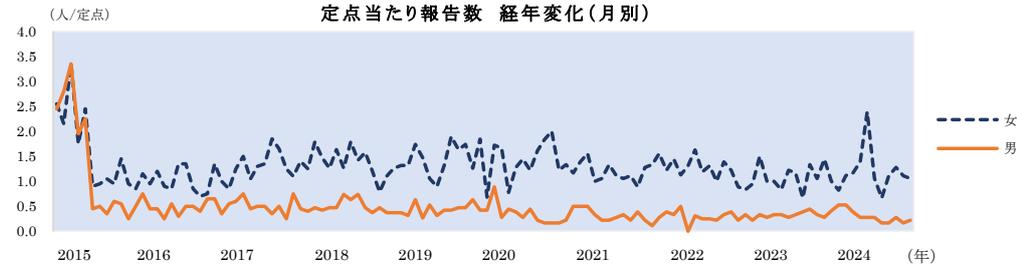
月別定点当たり報告数

月	1	2	3	4	5	6
女性	1.00	0.82	1.12	1.17	1.39	2.39
男性	0.41	0.53	0.53	0.39	0.28	0.28

月	7	8	9	10	11	12
女性	1.06	0.67	1.11	1.28	1.11	1.06
男性	0.28	0.17	0.17	0.28	0.17	0.22

年平均	計	10年間の定点当たり報告数平均
1.18	14.16	15.53
0.31	3.69	5.82

定点当たり報告数 経年変化(月別)

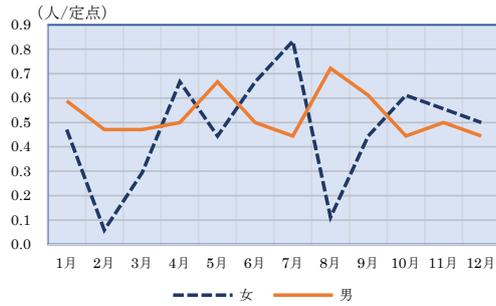


定点当たり報告数 経年変化(年別)



ウ 尖圭コンジローマ

月別定点当たり報告数



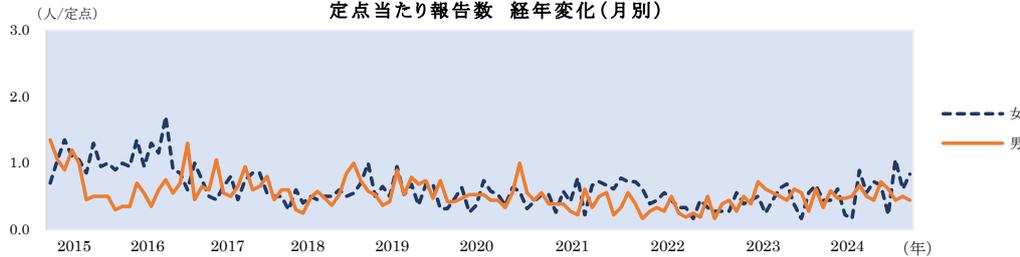
月別定点当たり報告数

月	1	2	3	4	5	6
女性	0.47	0.06	0.29	0.67	0.44	0.67
男性	0.59	0.47	0.47	0.50	0.67	0.50

月	7	8	9	10	11	12
女性	0.83	0.11	0.44	0.61	0.56	0.50
男性	0.44	0.72	0.61	0.44	0.50	0.44

年平均	計	10年間の定点当たり報告数平均
0.47	5.66	6.80
0.53	6.36	6.45

定点当たり報告数 経年変化(月別)

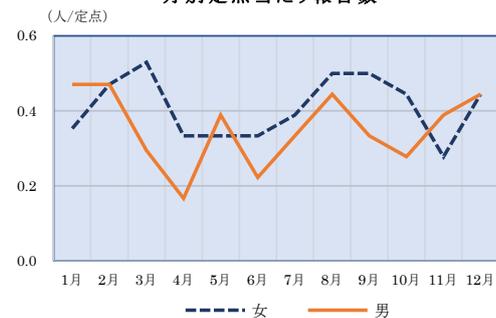


定点当たり報告数 経年変化(年別)



エ 淋菌感染症

月別定点当たり報告数



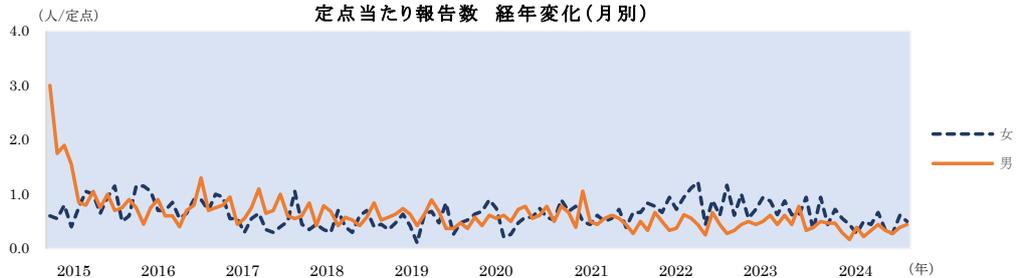
月別定点当たり報告数

月	1	2	3	4	5	6
女性	0.35	0.47	0.53	0.33	0.33	0.33
男性	0.47	0.47	0.29	0.17	0.39	0.22

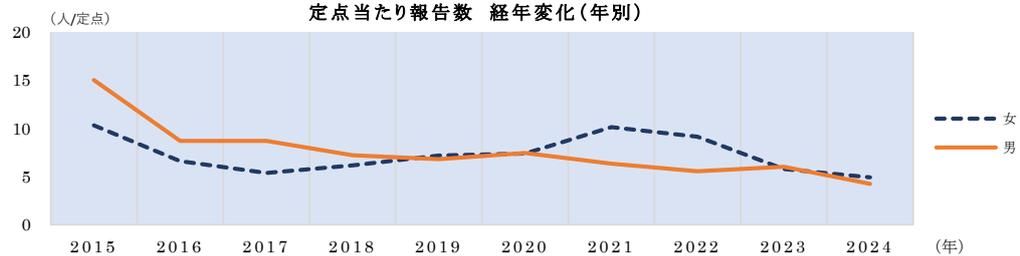
月	7	8	9	10	11	12
女性	0.39	0.50	0.50	0.44	0.28	0.44
男性	0.33	0.44	0.33	0.28	0.39	0.44

年平均	計	10年間の定点当たり報告数平均
0.41	4.91	7.29
0.35	7.44	8.30

定点当たり報告数 経年変化(月別)



定点当たり報告数 経年変化(年別)



2 一～五類全数把握感染症

(1) 一類感染症

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱は報告がなかった。

(2) 二類感染症

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る。)、中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。)、鳥インフルエンザ(H5N1)、鳥インフルエンザ(H7N9)は報告がなかった。

(3) 三類感染症

ア コレラ

2024 年は報告がなかった。

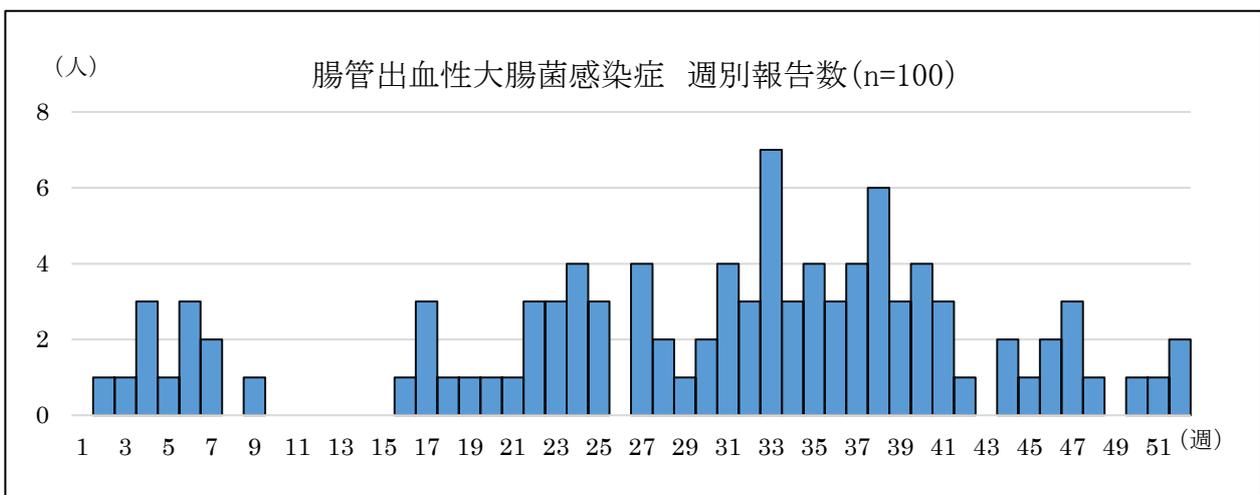
イ 細菌性赤痢

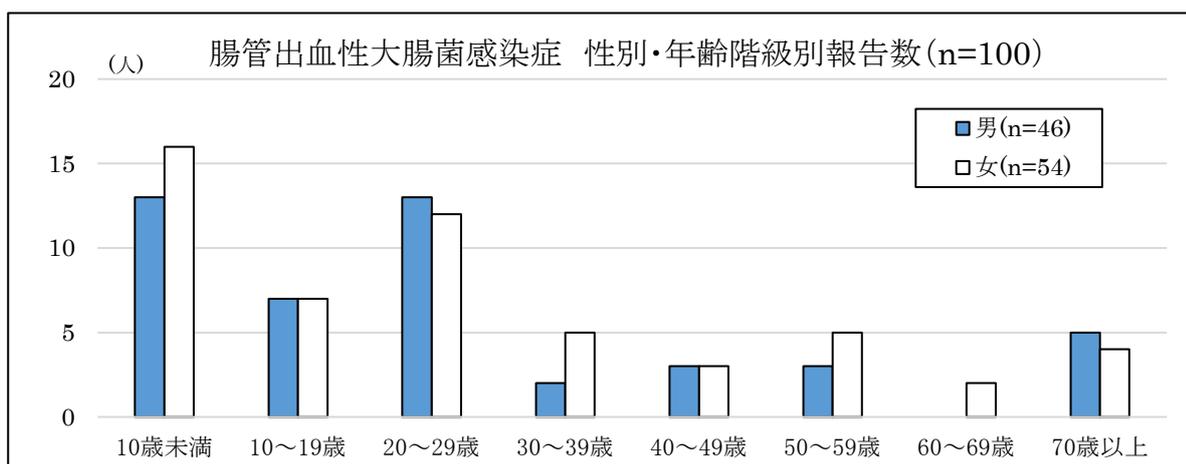
2024 年は 1 人の報告があった。菌種は *S. boydii* であった。性別は男性で、年齢階級別では 20～29 歳であった。推定感染地は国外(ミャンマー)であった。

ウ 腸管出血性大腸菌感染症

2024 年は 100 人の報告があった。症状別では患者 69 人、無症状病原体保有者 31 人であった。性別は男性 46 人、女性 54 人で、年齢階級別では 10 歳未満 29 人、10～19 歳 14 人、20～29 歳 25 人、30～39 歳 7 人、40～49 歳 6 人、50～59 歳 8 人、60～69 歳 2 人、70 歳以上 9 人であった。推定感染地は国内 79 人、国外 5 人(大韓民国 3 人、中華人民共和国 1 人、インド 1 人)、不明 16 人であった。

溶血性尿毒症症候群(HUS)と診断されたものは 9 人で、年齢は 10 歳未満 6 人、10～19 歳 2 人、30～39 歳 1 人であった。





腸管出血性大腸菌感染症 血清型・毒素型別報告数(n=100)

血清型	毒素型	件数	血清型	毒素型	件数
O26	VT1	3	O157	VT1VT2	34
O103	VT1	1		VT1	7
O111	VT1VT2	1		VT2	32
O115	VT1	1		不明	4
O146	VT1VT2	2			
O165	VT2	1			
O168	VT2	1			
不明	VT1VT2	3			
	VT1	5			
	VT2	2			
	不明	3			
血清型		件数	血清型		件数
O157 以外		23	O157		77

溶血性尿毒症症候群発症例(n=9)

受理日	性別	年齢	血清型・毒素型	推定感染地
4/24	男	11歳	O 不明 VT 型不明	国内
6/7	男	4歳	O157 VT1VT2	国内
7/8	女	2歳	O157 VT2	国内
7/10	男	5歳	O 不明 VT 型不明	国内
7/16	女	3歳	O157 VT1VT2	国内
7/20	女	30歳	O157 VT 型不明	国内
8/22	男	6歳	O157 VT2	国内
11/8	男	6歳	O157 VT1VT2	国内
12/28	女	15歳	O157 VT2	国内

エ 腸チフス

2024 年は 2 人の報告があった。性別は全て男性で、年齢階級別ではいずれも 20～29 歳であった。推定感染地は国外 2 人(バングラデシュ 1 人、ミャンマー 1 人)であった。

オ パラチフス

2024 年は 1 人の報告があった。性別は男性で、年齢階級別では 40～49 歳であった。推定感染地は国外(インドネシア)であった。

(4) 四類感染症

ア E型肝炎

2024 年は 2 人の報告があった。性別は男性 1 人、女性 1 人で、年齢階級別では 40～49 歳 1 人、50～59 歳 1 人であった。推定感染地は国内 1 人、国外(タイ) 1 人で、推定感染経路は経口感染が 1 人、不明が 1 人であった。

イ A型肝炎

2024 年は 3 人の報告があった。性別は男性 1 人、女性 2 人で、年齢階級別は 30～39 歳 1 人、50～59 歳 1 人、60～69 歳 1 人であった。推定感染地は国内 2 人、不明 1 人で、推定感染経路は経口感染が 2 人、不明が 1 人であった。

ウ ジカウイルス感染症

2024 年は 1 人の報告があった。本市において初報告である。性別は男性で、年齢階級別は 20～29 歳であった。推定感染地は国外(インド)であった。

エ チクングニア熱

2024 年は 1 人の報告があった。性別は女性で、年齢階級別は 40～49 歳であった。推定感染地は国外(インド)であった。

オ デング熱

2024 年は 7 人の報告があった。性別は男性 4 人、女性 3 人で、年齢階級別では 10～19 歳 1 人、20～29 歳 4 人、30～39 歳 1 人、40～49 歳 1 人であった。血清型の内訳は 1 型 2 人、2 型 3 人、3 型 1 名、不明 1 人であった。推定感染地は全て国外(インド 1 人、インドネシア 2 人、フィリピン 2 人、ベトナム 1 人、マレーシア 1 人)であった。

カ 日本紅斑熱

2024 年は 6 人の報告があった。性別は男性 5 人、女性 1 人で、年齢階級別では 40～49 歳 1 人、50～59 歳 2 人、60～69 歳 2 人、70 歳以上 1 人であった。推定感染地は全て国内であり、府外であった。

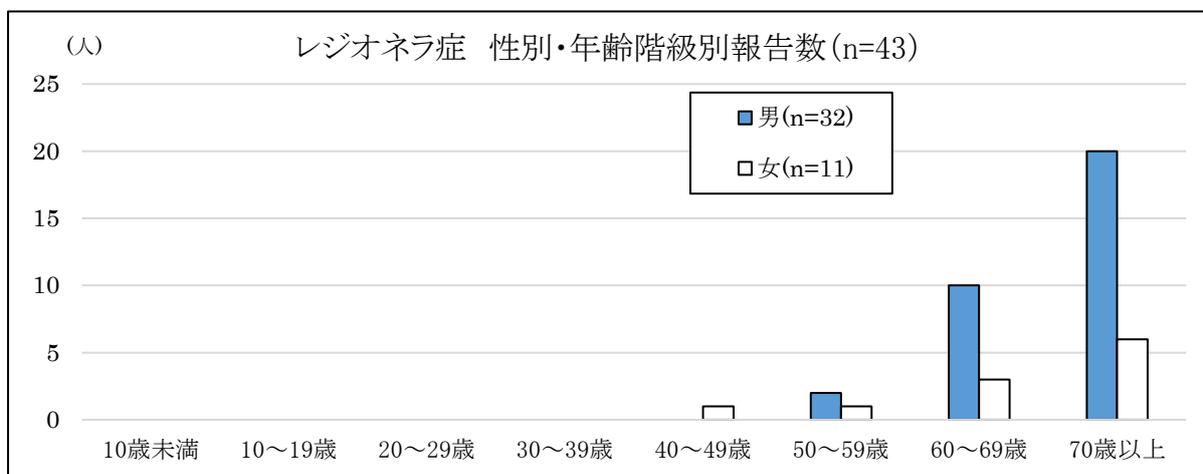
キ マラリア

2024 年は 2 人の報告があった。性別は全て男性で、年齢階級別では 20～29 歳 1 人、40～49 歳 1 人であった。病型は熱帯熱マラリア 1 人、不明 1 人であった。推定感染地は全て国外(カメルーン 1 人、ギニア 1 人)であった。

ク レジオネラ症

2024 年は 43 人の報告があった。病型は肺炎型 39 人、ポンティアック熱型 4 人であった。性別は男性 32 人、女性 11 人、年齢階級別は 40～49 歳 1 人、50～59 歳 3 人、60～69 歳 13 人、70 歳以上 26 人であった。

推定感染地は国内 36 人、国外 2 人(タイ 1 人、中華人民共和国 1 人)、不明 5 人であった。推定感染経路は水系感染 13 人、その他 6 人、不明 24 人であった。高齢者向け施設の入浴設備を利用した者が 10 人、公衆浴場施設(温泉を含む)の利用した者が 4 人であった。



ケ その他の四類感染症

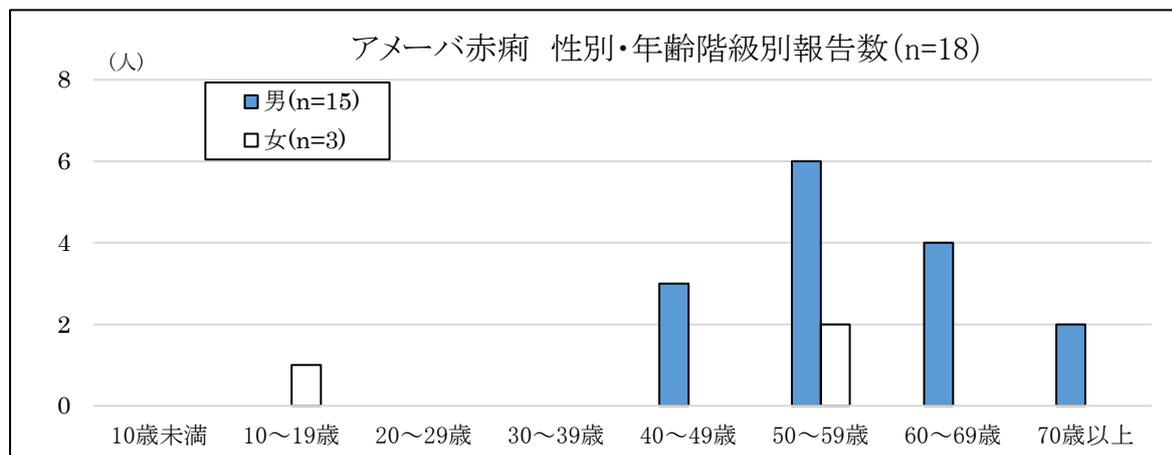
以下の疾患は報告がなかった。

ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎含む。)、エキノコックス症、エムポックス、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、キャサナル森林病、Q 熱、狂犬病、コクシジオイデス症、重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス族 SFTS ウイルスであるものに限る。)、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、つつが虫病、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ(H5N1 及び H7N9 を除く)、ニパウイルス感染症、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、B ウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんちフス、ポツリヌス症、野兔病、ライム病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、レプトスピラ症、ロッキー山紅斑熱

(5) 五類感染症(全数把握対象)

ア アメーバ赤痢

2024 年は 18 人の報告があった。病型は腸管アメーバ症が 17 人、腸管外アメーバ症が 1 人であった。性別は男性 15 人、女性 3 人で、年齢階級別では 10～19 歳 1 人、40～49 歳 3 人、50～59 歳 8 人、60～69 歳 4 人、70 歳以上 2 人であった。推定感染地は国内 13 人、国外(タイ)1 人、不明 4 人であった。推定感染経路は、性的接触 7 人、経口感染 1 人、不明 10 人であった。



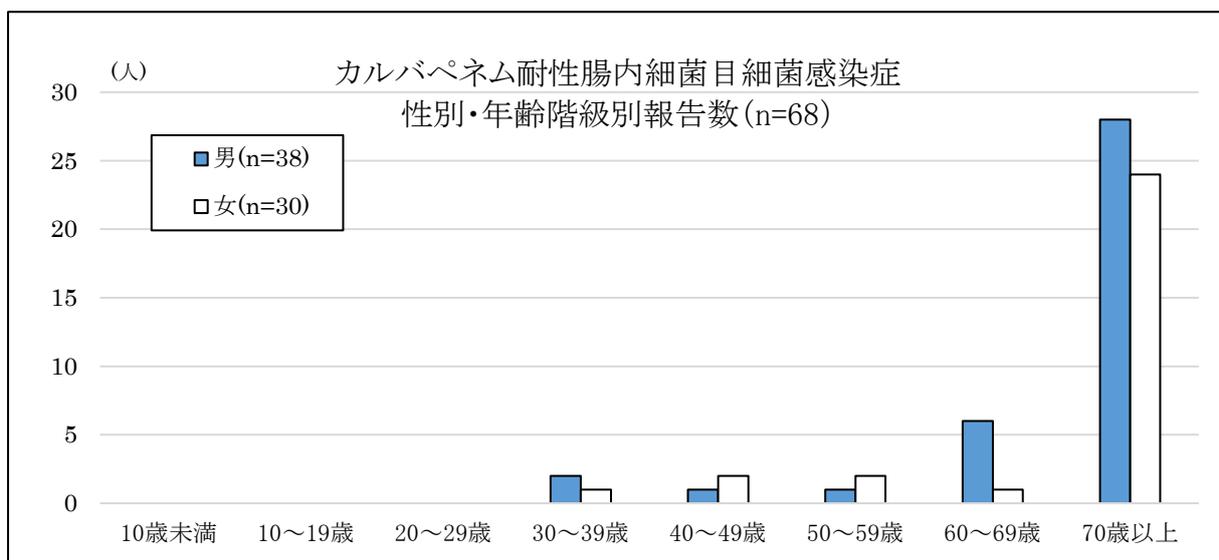
イ ウイルス性肝炎(E 型肝炎及び A 型肝炎を除く。)

2024 年は 16 人の報告があった。病型は B 型肝炎が 9 人、C 型肝炎が 3 人、その他として EB ウイルスが 1 人、サイトメガロウイルスが 2 人、EB ウイルスかつサイトメガロウイルスが 1 人であった。性別は男性 15 人、女性 1 人で、年齢階級別では 10～19 歳 2 人、20～29 歳 3 人、30～39 歳 4 人、40～49 歳 3 人、50～59 歳 4 人であった。推定感染地は国内 15 人、不明 1 人であった。推定感染経路は異性間性的接触が 8 人、同性間性的接触が 4 人、不明 4 人であった。

ウ カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症

2024 年は 68 人の報告があった。性別は男性 38 人、女性 30 人で、年齢階級別では 30～39 歳 3 人、40～49 歳 3 人、50～59 歳 3 人、60～69 歳 7 人、70 歳以上 52 人であった。推定感染地は国内 61 人、国外(パラグアイ)1 人、不明 6 人であった。

収集できた患者由来株 66 例のうち、カルバペネマーゼ遺伝子型が検出された菌株は 6 例で全体の 9.1% であった。



カルバペネム耐性腸内細菌目細菌検出状況 分離菌種 (n=66)

菌種	株数	カルバペネマーゼ遺伝子型	
		IMP 型	その他*
Enterobacter cloacae complex	24		
Klebsiella aerogenes	20	1	
Klebsiella pneumoniae	9	2	
Serratia marcescens	4		
Citrobacter freundii	2	1	
Escherichia coli	2		1(NDM-5)
Cedecea neteri	1		
Klebsiella oxytoca complex	1		1(KPC-2,NDM-5)
Klebsiella pneumoniae complex	1		
Proteus mirabilis	1		
Providencia vermicola	1		
計	66	4	2

*()内は IMP 型以外に検出されたカルバペネマーゼの種類

エ 急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)

2024 年は 3 人の報告があった。性別は男性 2 人、女性 1 人で、年齢階級別はいずれも 0～9 歳であった。原因と推定された病原体はインフルエンザウイルス 1 人、不明 2 人で、推定感染地は全て国内であった。

オ クリプトスポリジウム症

2024 年は 3 人の報告があった。性別は全て男性で、年齢階級別は 20～29 歳 1 人、30～39 歳 1 人、50～59 歳 1 人であった。推定感染地は全て国内で、感染経路は同性間性的接触 2 人、不明 1 人であった。

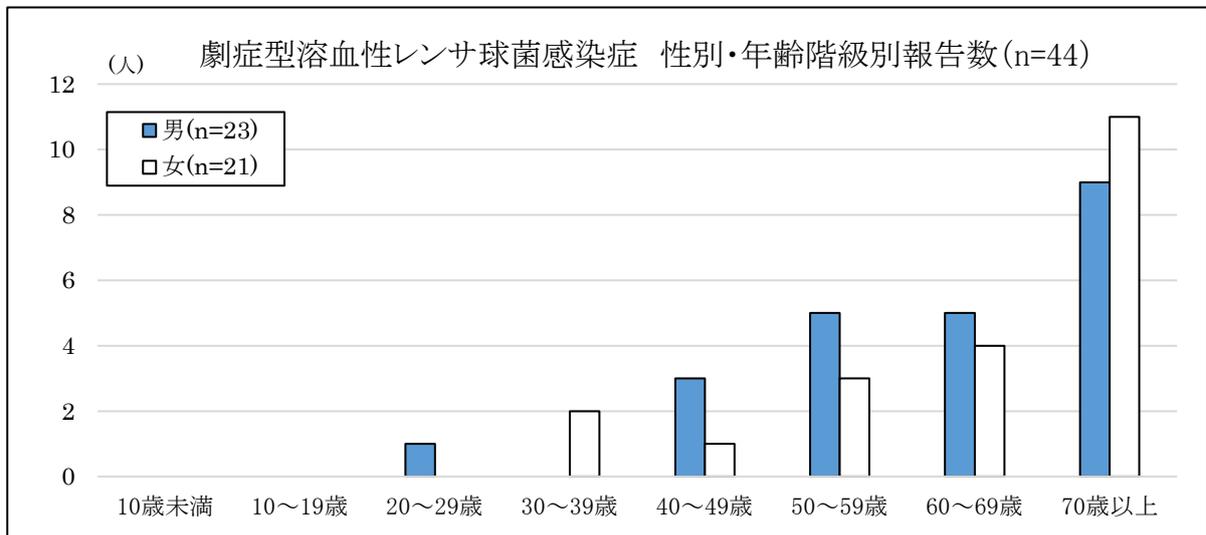
カ クロイツフェルト・ヤコブ病

2024 年は 2 人の報告があった。病型は古典型クロイツフェルト・ヤコブ病 2 人であった(ほぼ確実 1 人、疑い 1 人)。性別はいずれも女性で、年齢階級別は 50～59 歳 1 人、70 歳以上 1 人であった。

キ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

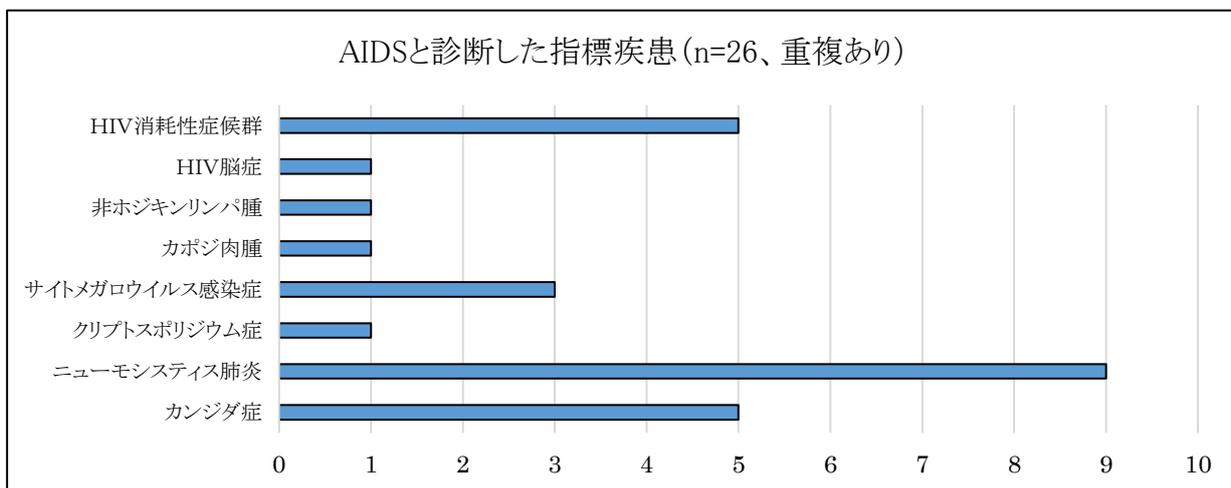
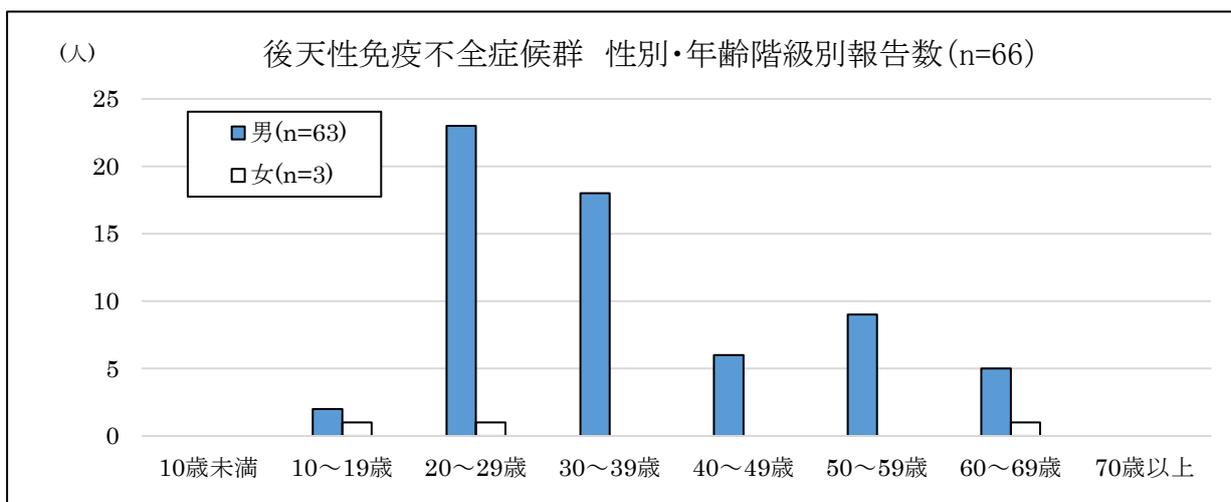
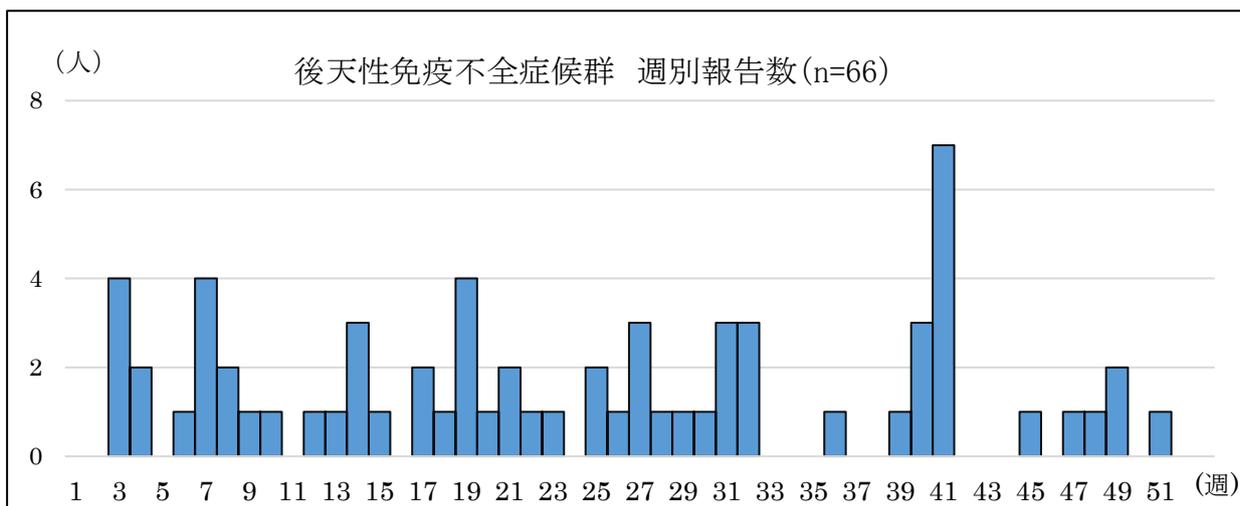
2024 年は 44 人の報告で、過去 10 年間で最多の報告数であった。性別は男性 23 人、女性 21 人で、年齢階級別では 20～29 歳 1 人、30～39 歳 2 人、40～49 歳 4 人、50～59 歳 8 人、60～69 歳 9 人、70 歳以上 20 人であった。推定感染地は国内 42 人、不明 2 人で、推定感染経路は創傷感染 21 人、飛沫・飛沫核感染 1 人、接触感染 1 人、その他 2 人、不明 19 人であった。

血清群は、A 群 25 人、B 群 6 人、G 群 6 人、不明 7 人であった。例年、届出数全体に占める A 群による届出数の割合は 20%から 50%程度だが、2024 年は 6 割程度と上昇した。



ク 後天性免疫不全症候群

2024 年は 66 人の報告があった。性別は男性 63 人、女性 3 人で、病型は AIDS 患者 18 人、HIV 感染者 48 人(指標疾患以外の有症者 5 人、無症候性キャリア 43 人)であった。AIDS 患者 18 人の年齢階級別は 20～29 歳 3 人、30～39 歳 4 人、40～49 歳 4 人、50～59 歳 4 人、60～69 歳 3 人であった。AIDS と診断した指標疾患は、ニューモシスティス肺炎(9 人)が最多であった。HIV 感染者のうち無症候性キャリアの 43 人の年齢階級別は、10～19 歳 2 人、20～29 歳 20 人、30～39 歳 13 人、40～49 歳 2 人、50～59 歳 4 人、60～69 歳 2 人であった。推定感染地は国内 54 人、国外 4 人(ベトナム 2 人、カンボジア 1 人、ミャンマー 1 人)、不明 8 人であった。推定感染経路は性的接触 59 人、不明 7 人であった。性的接触は同性間 46 人、異性間 11 人、同性間及び異性間 1 人、不明 1 人であった。



ケ ジアルジア症

2024年は3人の報告があった。性別は男性2人、女性1人であった。年齢階級別では40～49歳1人、70歳以上2人であった。推定感染地は全て国内で、推定感染経路は経口感染2人、性的接触1人であった。

コ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

2024 年は 25 人の報告があった。性別は男性 15 人、女性 10 人であった。年齢階級別では 10 歳未満 2 人、20～29 歳 1 人、30～39 歳 4 人、60～69 歳 4 人、70 歳以上 14 人であった。

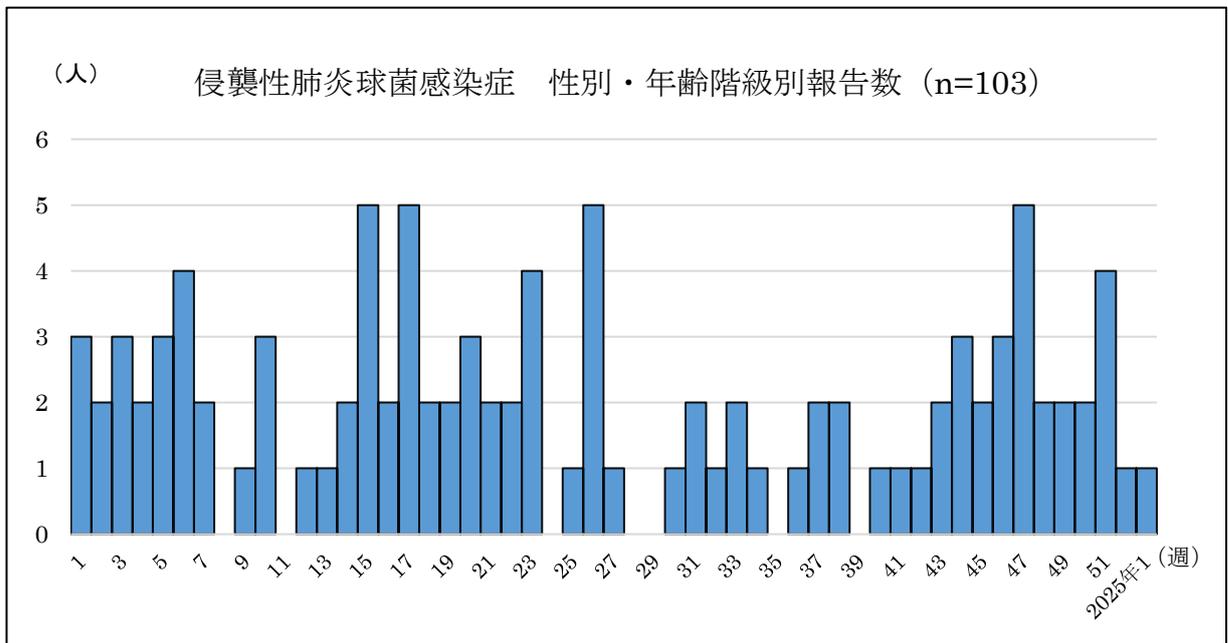
推定感染地は国内 22 人、不明 3 人であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 7 人、接触感染 1 人、その他 3 人、不明 14 人であった。

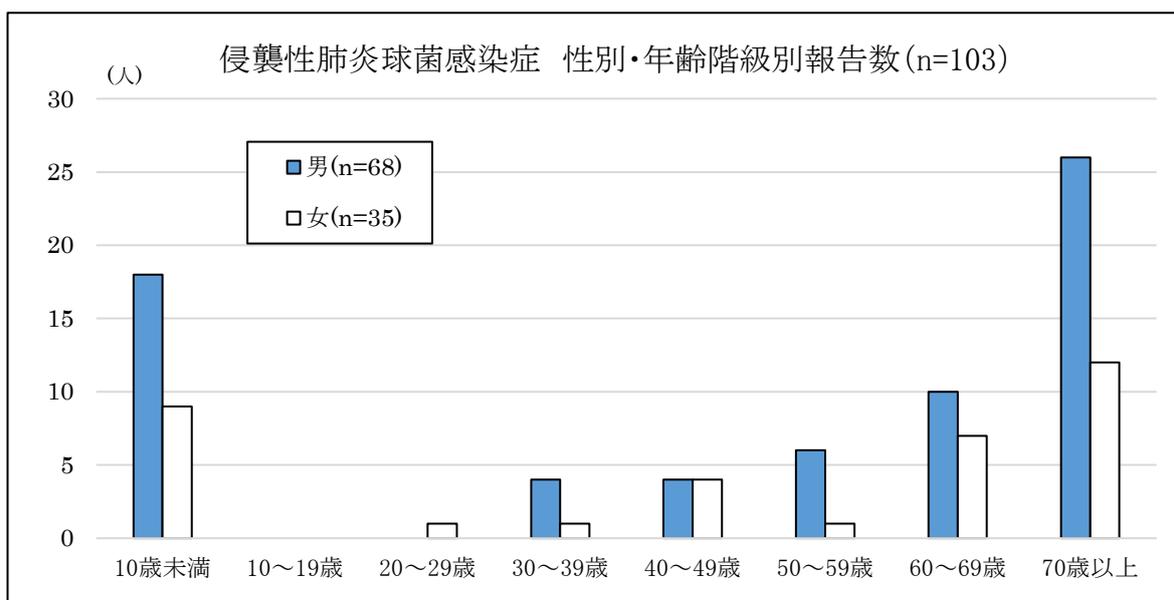
サ 侵襲性髄膜炎菌感染症

2024 年は 5 人の報告で、全数把握感染症となった 2013 年以降、最も多い報告数であった。性別は全て女性で、年齢階級別では 10～19 歳 1 人、50～59 歳 2 人、60～69 歳 1 人、70 歳以上 1 人であった。血清群は Y 群 4 人、B 群 1 人で、ワクチン接種歴は無し 2 人、不明が 3 人であった。推定感染地は国内が 4 人、不明が 1 人で、推定感染経路は全て不明であった。

シ 侵襲性肺炎球菌感染症

2024 年は 103 人の報告で、過去 10 年間で最多の報告数であった。性別は男性 68 人、女性 35 人であった。年齢階級別では 10 歳未満 27 人、20～29 歳 1 人、30～39 歳 5 人、40～49 歳 8 人、50～59 歳 7 人、60～69 歳 17 人、70 歳以上 38 人であった。推定感染地は国内 89 人、国外 2 人、不明 12 人で、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 37 人、接触感染 2 人、飛沫・飛沫核感染または接触感染 1 人、その他 5 人、不明 58 人であった。ワクチン接種歴は 4 回接種 12 人、3 回接種 12 人、2 回接種 1 人、1 回接種 3 人、無し 20 人、不明 55 人であった。





年齢階級別・ワクチン接種歴(n=103)

	4回接種	3回接種	2回接種	1回接種	接種なし	不明	合計
5歳未満	11	12			1	2	26
5～9歳	1						1
10～64歳					7	20	27
65歳以上			1	3	12	33	49
合計	12	12	1	3	20	55	103

ス 水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)

2024年は17人の報告があった。性別は男性11人、女性6人で、年齢階級別では10～19歳1人、20～29歳6人、30～39歳5人、40～49歳2人、60～69歳1人、70歳以上2人であった。推定感染地は国内16人、不明1人で、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染7人、接触感染1人、院内感染1人、不明8人であった。ワクチン接種歴は接種あり1人、接種なし7人、不明9人であった。

セ 梅毒

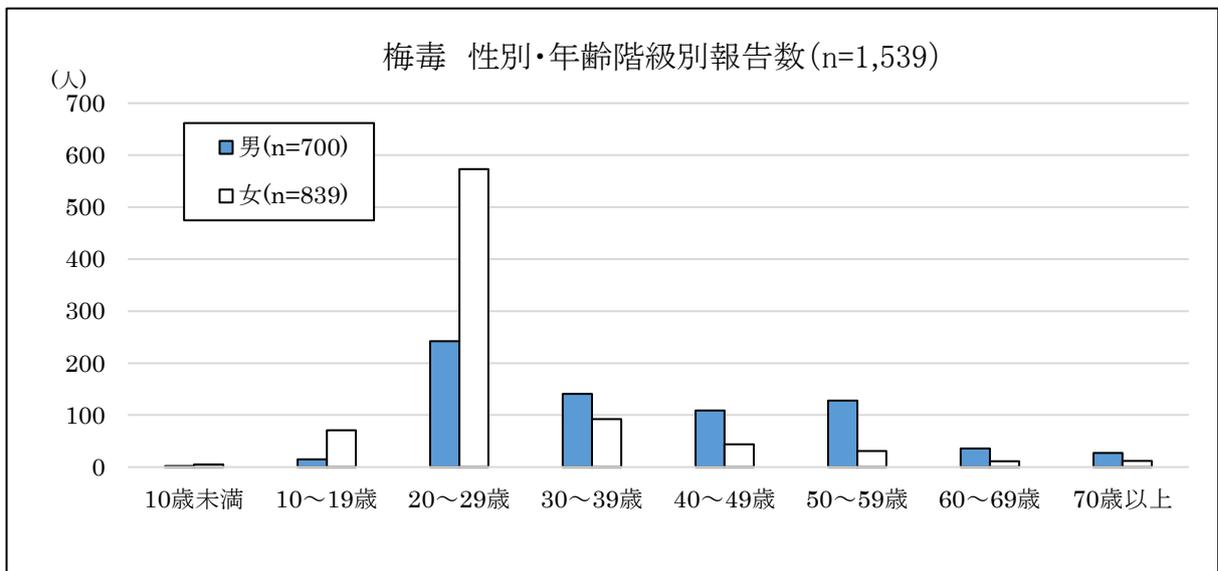
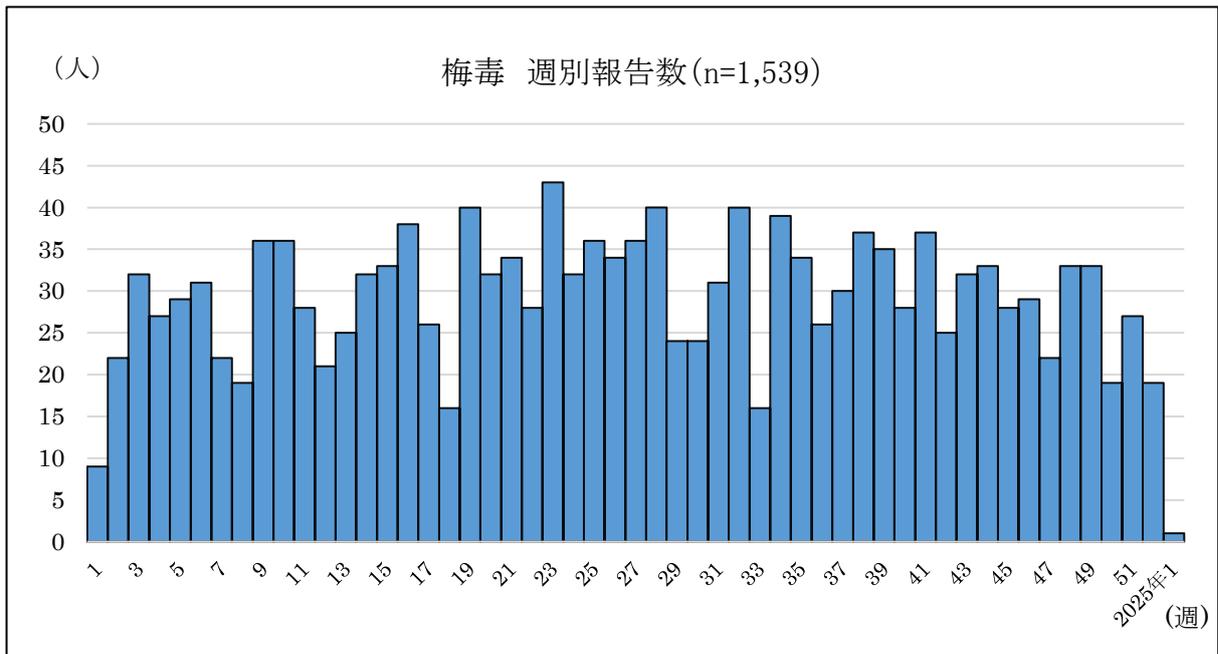
2024年は1,539人の報告があった。過去10年で2023年に次いで2番目に多い報告数であった。病型別では早期顕症梅毒Ⅰ期568人、早期顕症梅毒Ⅱ期416人、晩期顕症梅毒14人、先天梅毒7人、無症候534人であった。先天梅毒は現行の調査方法となった1999年以降最多の報告数であった。性別は男性700人、女性839人であった。女性の割合は増加傾向にあり、2023年以降50%を超えていた。年齢階級別では10歳未満7人、10～19歳86人、20～29歳815人、30～39歳233人、40～49歳153人、50～59歳159人、60～69歳47人、70歳以上39人であった。女性839人中、20～29歳が573人で68.3%を占めた。

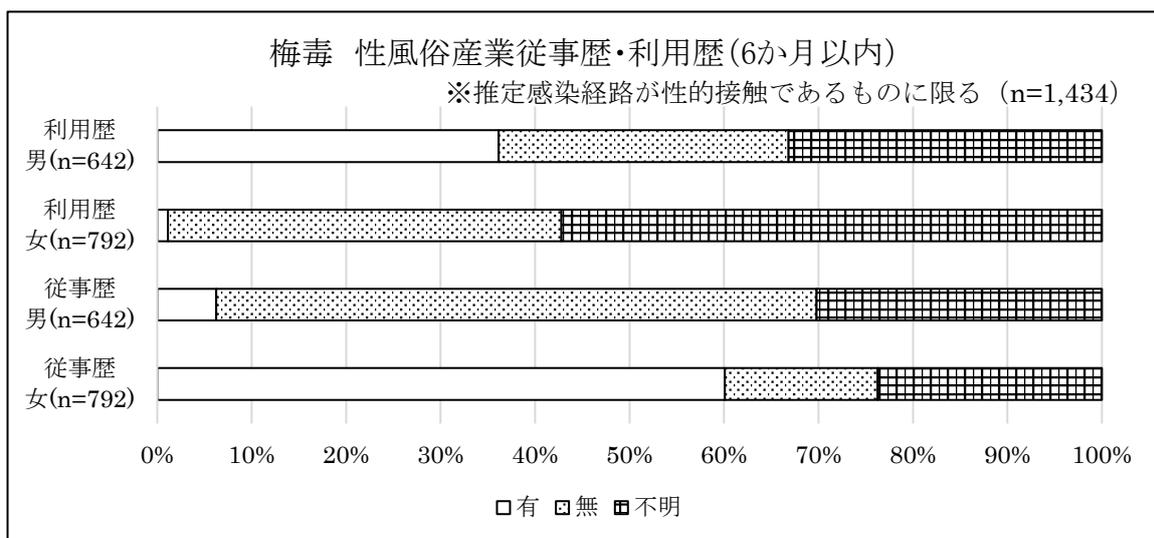
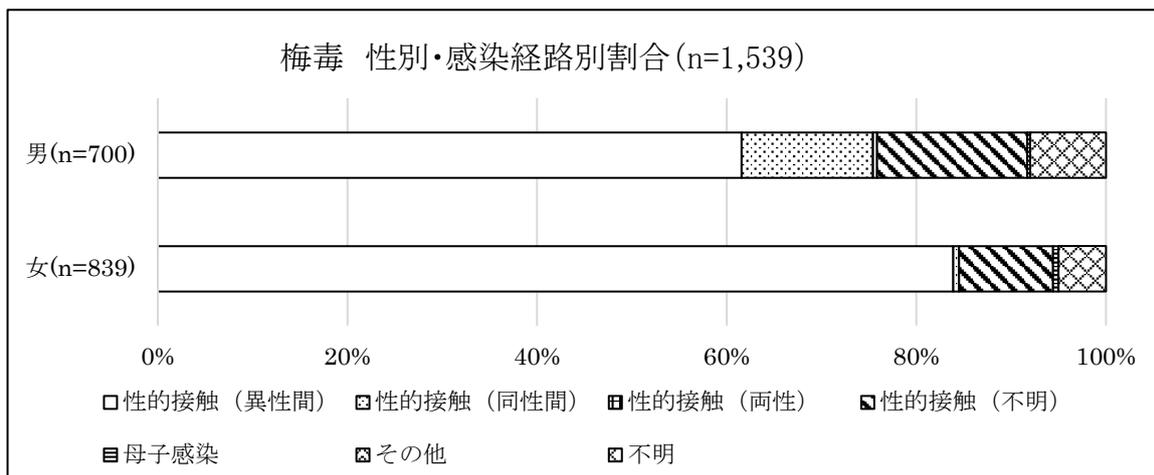
推定感染地は国内1,414人、国外7人(タイ5人、中華人民共和国1人、大韓民国1人)、不明118人であった。

推定感染経路は性的接触 1,434 人(異性間 1,135 人、同性間 102 人、異性間同性間 3 人、性別不明 194 人)、母子感染 7 人、不明 98 人であった。

性風俗産業従事歴(直近6か月以内)は従事歴有が 516 人、従事歴無が 536 人、従事歴不明は 382 人であった。性風俗産業利用歴(直近6か月以内)は利用歴有が 241 人、利用歴無が 527 人、利用歴不明は 666 人であった。

妊娠は女性 839 人のうち妊娠有 34 人(4.1%)であった。HIV 感染症合併は合併有 42 人(男性 41 人、女性 1 人)であった。





ソ 播種性クリプトコックス症

2024 年は 6 人の報告があった。性別は男性 2 人、女性 4 人で、年齢階級別では 30～39 歳 1 人、60～69 歳 2 人、70 歳以上 3 人であった。

推定感染地は全て国内で、推定感染原因は鳥類の糞などとの接触 3 人、免疫不全 3 人であった。

タ 破傷風

2024 年は 3 人の報告があった。性別は男性 1 人、女性 2 人で、年齢階級別は 20～29 歳 1 人、30～39 歳 1 人、40～49 歳 1 人であった。推定感染地は全て国内で、推定感染経路は創傷感染 2 人、その他 1 人であった。

チ バンコマイシン耐性腸球菌感染症

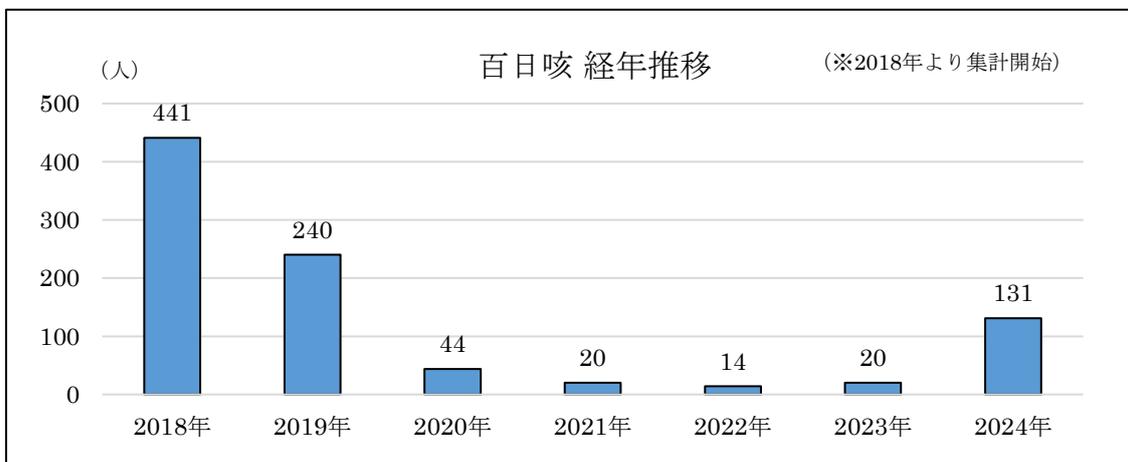
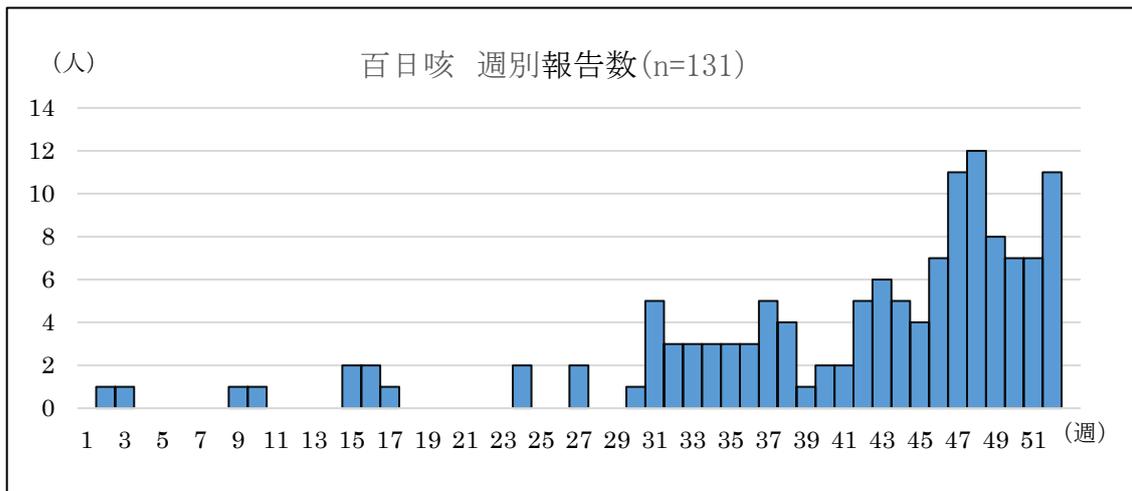
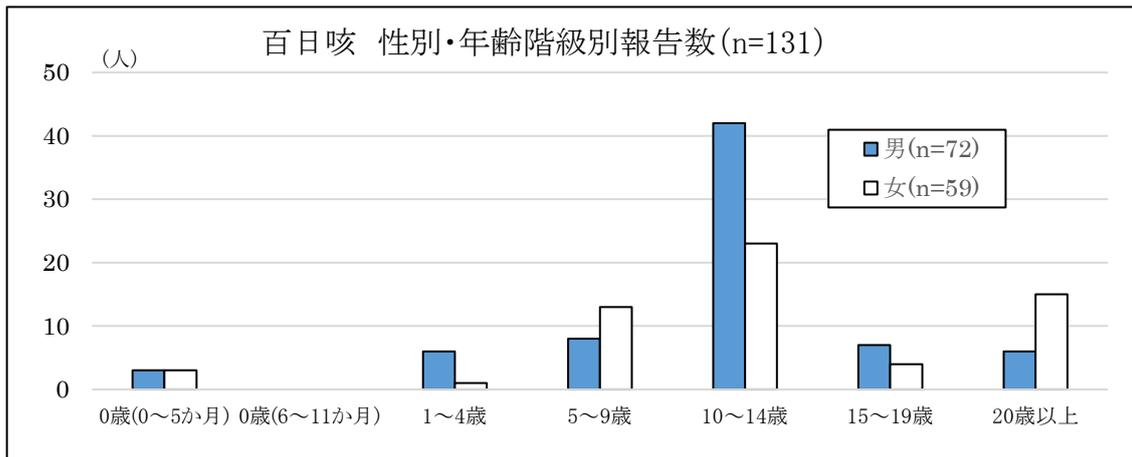
2024 年は 4 人の報告があった。性別は男性 3 人、女性 1 人で、年齢階級別では 30～39 歳 1 人、70 歳以上 3 人であった。菌種は全て *Enterococcus faecium* で、耐性遺伝子は全て *vanA* であった。推定感染地は国内 3 人、国外 1 人(パラグアイ 1 人)で、推定感染経路は接触感染 2 人、その他 1 人、不明 1 人であった。

ツ 百日咳

2024年は131人の報告があった。性別は男性72人、女性59人で、年齢階級別では0歳(0～5か月)6人、1～4歳7人、5～9歳21人、10～14歳65人、15～19歳11人、20歳以上21人であった。0～14歳までの小児患者報告数は101人で、全体の77.1%を占めた。

百日咳含有ワクチン接種歴別では、4回接種76人、3回接種2人、2回接種2人、1回接種1人、接種なし6人、不明44人であった。

推定感染地は国内115人、不明16人であった。



年齢階級別・ワクチン接種歴 (n=131)

	4回接種	3回接種	2回接種	1回接種	接種なし	不明	合計
0歳(0～5か月)		1		1	4		6
0歳(6～11か月)							0
1～4歳	6		1				7
5～9歳	17					4	21
10～14歳	49				2	14	65
15～19歳	3	1				7	11
20歳以上	1		1			19	21
合計	76	2	2	1	6	44	131

テ 麻疹

2024年は麻疹の届出は57例あり、PCR検査により確定したのは3人で、麻疹(検査診断例)が2人、修飾麻疹(検査診断例)が1人であった。性別は男性2人、女性1人で、年齢階級別は0～9歳1人、20～29歳1人、30～39歳1人であった。

麻疹含有ワクチンの接種歴は、2回接種1人、1回接種1人、接種無し1人であった。

推定感染地は国外2人(アラブ首長国連邦1人、ベトナム1人)、国内1人であった。

ト その他の五類感染症

以下の疾患は報告がなかった。

急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)、先天性風しん症候群、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、風しん、薬剤耐性アシネトバクター感染症

大阪市 週別全数把握感染症発生状況 2024年第1週～第52週(2024年1月1日～2024年12月29日)

類	疾患名	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週	第9週	第10週	第11週	第12週	第13週	第14週	第15週	第16週	第17週	第18週	第19週	第20週	第21週		
1類	エボラ出血熱																							
	クリミア・コンゴ出血熱																							
	痘そう																							
	南米出血熱																							
2類	ペスト																							
	マールブルグ病																							
	ラッサ熱																							
	急性灰白髄炎																							
3類	シフテリア																							
	重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)																							
	中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る)																							
	鳥インフルエンザ(H5N1)																							
	鳥インフルエンザ(H7N9)																							
	コレラ																							
	細菌性赤痢																							
	腸管出血性大腸菌感染症			1	1	3	1	3	2		1							1	3	1	1	1	1	
	腸チフス															1						1		
	パラチフス																				1			
4類	E型肝炎																							
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎含む)																							
	A型肝炎																			1			1	
	エキノコックス症																							
	エムボックス																							
	黄熱																							
	オウム病																							
	オムスク出血熱																							
	回帰熱																							
	キャサスル森林病																							
	Q熱																							
	狂犬病																							
	コクシジオイデス症																							
	シカウイルス感染症																							
	重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る)																							
	腎臓線性出血熱(HFRS)																							
	西部ウマ脳炎																							
	ダニ媒介脳炎																							
	炭疽																							
	チクングニア熱																							
	つつし虫病																							
	5類	デング熱					1						1											
		東部ウマ脳炎																						
		鳥インフルエンザ																						
		ニバウイルス感染症																						
		日本紅斑熱																						
		日本脳炎																						
		ハンタウイルス肺症候群(HPS)																						
		Bウイルス病																						
		鼻疽																						
		ブルセラ症																						
		ベネズエラウマ脳炎																						
		ヘンドラウイルス感染症																						
		猪しんチフス																						
		ボツリヌス症																						
		マラリア		1																				
		野兔病																						
		ライム病																						
		リッサウイルス感染症																						
		リフトバレー熱																						
類鼻疽																								
レジオネラ症			1	3		1	2			1		1		1	1				1		1	1		
レプトスピラ症																								
ロッキー山紅斑熱																								
アヌーバ赤痢			1				2				2											1		
ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)				1	1		1	1			1	1		1					1			1		
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2	4			2	1				2	2			1	1	2	3	1			1	4		
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)						1																		
急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)						1																		
クリプトスポリジウム症											1	1												
クロイツフェルト・ヤコブ病										1														
劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1		1	2	2		2	1	1	1	4	2	1		2	2	1	1			
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)			4	2			1	4	2	1	1		1	1	3	1		2	1	4	1	2		
ジアルジア症																								
侵襲性インフルエンザ菌感染症			2			1		1	1	1							1			1		2		
5類	侵襲性髄膜炎菌感染症						1											1				1		
侵襲性肺炎球菌感染症	3	2	3	2	3	4	2			1	3		1	1	2	5	2	5	2	2	3	2		
水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)	1									1		1				1								
先天性風しん症候群																								
梅毒	9	22	32	27	29	31	22	19	36	36	28	21	25	32	33	38	26	16	40	32	34			
播種性クリプトコックス症										1			1											
破傷風																								
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症																								
バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1			1																	
百日咳		1	1							1	1					2	2	1						
風しん																								
麻疹												2												
薬剤耐性アシネトバクター感染症																								

大阪市 週別全数把握感染症発生状況 2024年第1週～第52週(2024年1月1日～2024年12月29日)

類	疾患名	第22週	第23週	第24週	第25週	第26週	第27週	第28週	第29週	第30週	第31週	第32週	第33週	第34週	第35週	第36週	第37週	第38週	第39週	第40週	第41週	第42週		
1類	エボラ出血熱																							
	クリミア・コンゴ出血熱																							
	痘そう																							
	南米出血熱																							
	ペスト																							
2類	マールブルグ病																							
	ラッサ熱																							
	急性灰白髄炎																							
	ジフテリア																							
	重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)																							
	中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る)																							
	鳥インフルエンザ(H5N1)																							
	鳥インフルエンザ(H7N9)																							
	コレラ																							
	細菌性赤痢										1													
3類	腸管出血性大腸菌感染症	8	8	4	8		4	2	1	2	4	8	7	8	4	8	4	6	8	4	8	1		
	腸チフス																							
4類	パラチフス																							
	B型肝炎																							
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎含む)																							
	A型肝炎																					1		
	エキノコックス症																							
	エムボックス																							
	黄熱																							
	オウム病																							
	オムスク出血熱																							
	回帰熱																							
	キャサスル森林病																							
	Q熱																							
	狂犬病																							
	コクシジオイデス症																							
	シカウイルス感染症																					1		
	重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る)																							
	腎臓線性出血熱(HFRS)																							
	西部ウマ脳炎																							
	ダニ媒介脳炎																							
	炭疽																							
	チクングニア熱		1																					
	つつし虫病																							
	4類	デング熱						1	1											2				
		東部ウマ脳炎																						
		鳥インフルエンザ																						
		ニバウイルス感染症																						
		日本紅斑熱		1															2			1		
		日本脳炎																						
		ハンタウイルス肺症候群(HPS)																						
		Bウイルス病																						
		鼻疽																						
		ブルセラ症																						
		ベネズエラウマ脳炎																						
		ヘンドラウイルス感染症																						
		発しんチフス																						
		ボツリヌス症																						
		マラリア									1													
		野兔病																						
		ライム病																						
		リッサウイルス感染症																						
リフトバレー熱																								
類鼻疽																								
レジオネラ症	2	8	8		1	8	2			1			1	2			2		1		1	2		
レプトスピラ症																								
ロッキー山紅斑熱																								
アヌーバ赤痢				1	1	1	1				2								1					
ウイルス性肝炎(B型肝炎及びA型肝炎を除く。)				2	1							1								1		2		
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症				1	1	4	1			8		1	1	2	4		2	1	2			2		
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)																								
急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)													1											
クリプトスポリジウム症																								
クロイツフェルト・ヤコブ病			1																					
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2			1	1	2	1			1	1			1			1	1						
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1	1		2	1	8	1	1	1	8	8						1		1	3	7			
ジアルジア症												1												
侵襲性インフルエンザ菌感染症			1	1		8	1	1								2	1		1		1			
5類	侵襲性髄膜炎菌感染症																							
	侵襲性肺炎球菌感染症	2	4		1	5	1			1	2	1	2	1		1	2	2		1	1	1		
	水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)	1								1			2	1				1	1	1		1		
	先天性風しん症候群																							
	梅毒	28	49	82	86	84	86	40	24	24	81	40	16	39	84	26	30	37	85	28	37	25		
	播種性クリプトコックス症		1								1	1												
	破傷風											1												
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症															1								
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症																							
	百日咳				2			2			1	5	3	3	3	3	3	5	4	1	2	2	5	
	風しん																							
	麻疹																							
	薬剤耐性アシネトバクター感染症																							

大阪市 週別全数把握感染症発生状況 2024年第1週～第52週(2024年1月1日～2024年12月29日)

類	疾患名	第43週	第44週	第45週	第46週	第47週	第48週	第49週	第50週	第51週	第52週	累積数
1類	エボラ出血熱											
	クリミア・コンゴ出血熱											
	痘そう											
	南米出血熱											
2類	ペスト											
	マールブルグ病											
	ラッサ熱											
	急性灰白髄炎											
3類	シフテリア											
	重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)											
	中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る)											
	鳥インフルエンザ(H5N1)											
4類	鳥インフルエンザ(H7N9)											
	コレラ											
	細菌性赤痢											1
	腸管出血性大腸菌感染症		2	1	2	8	1		1	1	2	100
5類	腸チフス											2
	パラチフス											1
	B型肝炎	1									1	2
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎含む)											3
6類	A型肝炎											3
	エキノコックス症											
	エムボックス											
	黄熱											
7類	オウム病											
	オムスク出血熱											
	回帰熱											
	キャサスル森林病											
8類	Q熱											
	狂犬病											
	コクシジオイデス症											
	シカウイルス感染症											1
9類	重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る)											
	腎臓線性出血熱(HFRS)											
	西部ウマ脳炎											
	ダニ媒介脳炎											
10類	炭疽											
	チクングニア熱											1
	つつが虫病											
	デング熱					1						7
11類	東部ウマ脳炎											
	鳥インフルエンザ											
	ニバウイルス感染症											
	日本紅斑熱			1						1		6
12類	日本脳炎											
	ハンタウイルス肺症候群(HPS)											
	Bウイルス病											
	鼻疽											
13類	ブルセラ症											
	ペネズエラウマ脳炎											
	ヘンドラウイルス感染症											
	発しんチフス											
14類	ボツリヌス症											
	マラリア											2
	野兔病											
	ライム病											
15類	リッサウイルス感染症											
	リフトバレー熱											
	類鼻疽											
	レジオネラ症	1	2				1	1				43
16類	レプトスピラ症											
	ロッキー山紅斑熱											
	アヌーパ赤痢	2					1				2	18
	ウイルス性肝炎(B型肝炎及びA型肝炎を除く。)											16
17類	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1			2	5	1	2	3	1	1	68
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)											
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)										1	3
	クリプトスポリジウム症							1				3
18類	クロイツフェルト・ヤコブ病											2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	1	1			1		1		1	44
	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)				1	1	1	2		1		66
	ジアルジア症	1										3
19類	侵襲性インフルエンザ菌感染症				1					1	1	25
	侵襲性髄膜炎菌感染症		1									5
	侵襲性肺炎球菌感染症	2	3	2	3	5	2	2	2	4	1	102
	水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)	1					1			1	1	17
20類	先天性風しん症候群											
	梅毒	32	33	28	29	22	33	33	19	27	19	1598
	播種性クリプトコックス症										1	6
	破傷風							1				3
21類	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症											
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症							1				4
	百日咳	6	5	4	7	11	12	8	7	7	11	131
	風しん											
22類	麻疹							1				3
	薬剤耐性アシネトバクター感染症											

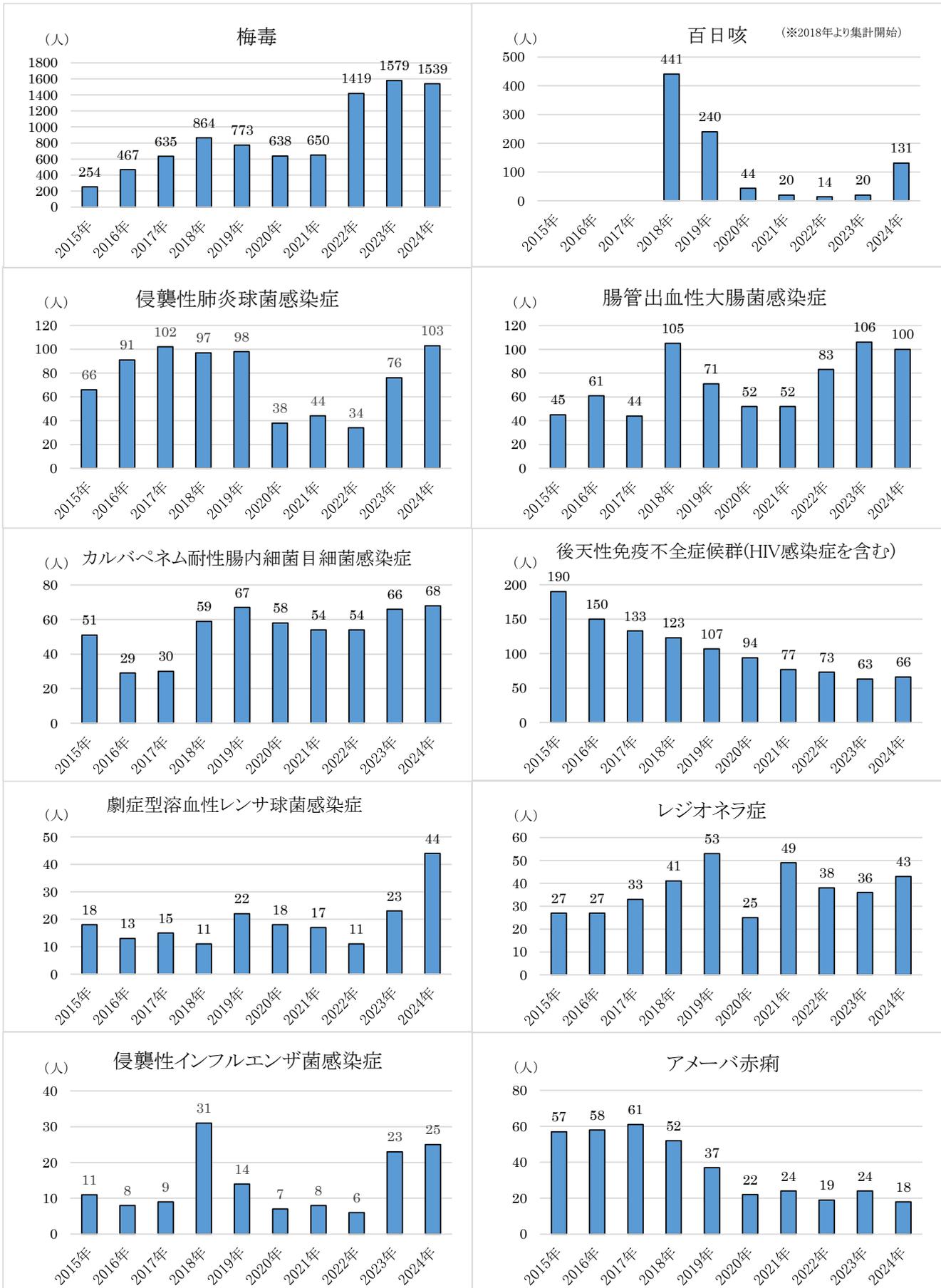
過去10年全数把握感染症発生状況(1月1日～12月31日に診断された患者報告数)

	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年	
一類	エボラ出血熱										
	クリミア・コンゴ出血熱										
	痘そう										
	南米出血熱										
	ペスト										
二類	マールブルグ病										
	ラッサ熱										
	急性灰白髄炎										
	ジフテリア										
	重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 SARSコロナウイルスであるものに限る。)										
三類	中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 MERSコロナウイルスであるものに限る。)										
	鳥インフルエンザ(H5N1)										
	鳥インフルエンザ(H7N9)										
	コレラ									1	
	細菌性赤痢	1				1	3	3	4	3	1
四類	腸管出血性大腸菌感染症	100	106	83	52	52	71	105	44	61	45
	腸チフス	2	3						2		2
	パラチフス	1						2	1	1	
	B型肝炎	2	9	4	3	2	1	3	6	2	1
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む。)										
五類	A型肝炎	3	2	2	1	4	8	40	9	13	7
	エキノコックス症			1							
	エムボックス(※)		19								
	黄熱										
	オウム病			1							
六類	オムスク出血熱										
	回帰熱										
	キャサスル森林病										
	Q熱										
	狂犬病										
七類	コクシジオイデス症										
	ジカウイルス感染症	1									
	重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属 SFTSウイルスであるものに限る。)										
	腎症候性出血熱										
	西部ウマ脳炎										
八類	ダニ媒介脳炎										
	炭疽										
	チクングニア熱	1					1		1	1	
	つつが虫病						1		1	1	
	デング熱	7	13	2		3	19	11	10	10	13
九類	東部ウマ脳炎										
	鳥インフルエンザ										
	ニパウイルス感染症										
	日本紅斑熱	6	2	1	1	3	2	3			
	日本脳炎		1								
十類	ハンタウイルス肺症候群										
	Bウイルス病										
	鼻疽										
	ブルセラ症					1					
	ペネズエラウマ脳炎										
十一類	ヘンドラウイルス感染症										
	発しんチフス										
	ボツリヌス症					1					
	マラリア	3	2	3	4	2	1	5	1	1	1
	野兔病										
十二類	ライム病		1								
	リッサウイルス感染症										
	リフトバレー熱										
	類鼻疽										
	レジオネラ症	43	36	38	49	25	53	41	33	27	27
十三類	レプトスピラ症		3							1	1
	ロッキー山紅斑熱										
	アメーバ赤痢	18	24	19	24	22	37	52	61	58	57
	ウイルス性肝炎(B型肝炎及びA型肝炎を除く。)	16	12	9	6	7	11	5	7	10	9
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症(※)	68	66	54	54	58	67	59	30	29	51
十四類	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)			1	1						
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)	3	2		1	4	4	5	6	7	8
	クリプトスポリジウム症	3				1	2			1	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2	3	5	2	3	4	6	1	3	4
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	44	23	11	17	18	22	11	15	13	18
十五類	後天性免疫不全症候群	66	63	73	77	94	107	123	133	150	190
	ジアルジア症	3	3			3	2	2	1	5	7
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	25	23	6	8	7	14	31	9	8	11
	侵襲性髄膜炎菌感染症	5	1	1			3	2		1	1
	侵襲性肺炎球菌感染症	103	76	34	44	38	98	97	102	91	66
十六類	水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)	17	8	6	6	4	10	14	11	17	17
	先天性風しん症候群										
	梅毒	1539	1579	1419	650	638	773	864	635	467	254
	播種性クリプトコックス症	6	3	3	3	1	4	5	2	6	4
	破傷風	3					1		5	3	2
十七類	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症										
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	4	6	9	10	4	8	4	5		2
	百日咳	126	20	14	20	44	240	441			
	風しん		1		1	3	72	53	6	8	6
	麻しん	3	2			1	63	5	1	15	1
薬剤耐性アシネトバクター感染症						1			1		

※2023年5月26日にサル痘はエムボックスに名称変更になった。

※2023年5月26日にカルバペネム耐性腸内細菌目細菌はカルバペネム耐性腸内細菌目細菌に名称変更になった。

過去10年全数把握感染症発生状況(経年変化)※2024年届出数上位10疾患を抜粋



大阪市感染症発生動向調査事業実施要綱

第1条 目的

感染症の発生情報の正確な把握と分析、その結果の提供・公開により、これらの疾病に対する有効かつ的確な予防・診断・治療に係る対策を図り、多様な感染症の発生及びまん延を防止するとともに、病原体情報を収集、分析することで、流行している病原体の検出状況及び特性を確認し、適切な感染症対策を立案することを目的として、本事業を実施する。

第2条 対象感染症

本事業の対象とする感染症は、次のとおりとする。

1 全数把握の対象

〔一類感染症〕

- (1)エボラ出血熱 (2)クリミア・コンゴ出血熱 (3)痘そう
- (4)南米出血熱 (5)ペスト (6)マールブルグ病 (7)ラッサ熱

〔二類感染症〕

- (8)急性灰白髄炎 (9)結核 (10)ジフテリア
- (11)重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。)(12)中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MEERSコロナウイルスであるものに限る。)
- (13)鳥インフルエンザ(H5N1) (14)鳥インフルエンザ(H7N9)

〔三類感染症〕

- (15)コレラ (16)細菌性赤痢 (17)腸管出血性大腸菌感染症
- (18)腸チフス (19)パラチフス

〔四類感染症〕

- (20)E型肝炎 (21)ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む。)(22)A型肝炎
- (23)エキノкокクス症 (24)エムポックス (25)黄熱 (26)オウム病 (27)オムスク出血熱
- (28)回帰熱 (29)キャサヌル森林病 (30)Q熱 (31)狂犬病
- (32)コクシジオイデス症 (33)ジカウイルス感染症
- (34)重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。)(35)腎症候性出血熱 (36)西部ウマ脳炎 (37)ダニ媒介脳炎
- (38)炭疽 (39)チクングニア熱 (40)つつが虫病 (41)デング熱 (42)東部ウマ脳炎
- (43)鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)(44)ニパウイルス感染症
- (45)日本紅斑熱 (46)日本脳炎 (47)ハンタウイルス肺症候群 (48)Bウイルス病
- (49)鼻疽 (50)ブルセラ症 (51)ベネズエラウマ脳炎 (52)ヘンドラウイルス感染症
- (53)発しんチフス (54)ポツリヌス症 (55)マラリア (56)野兎病 (57)ライム病
- (58)リッサウイルス感染症 (59)リフトバレー熱 (60)類鼻疽 (61)レジオネラ症
- (62)レプトスピラ症 (63)ロッキー山紅斑熱

〔五類感染症〕

- (64)アメーバ赤痢 (65)ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)
- (66)カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症
- (67)急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)

- (68)急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)
- (69)クリプトスポリジウム症 (70)クロイツフェルト・ヤコブ病
- (71)劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (72)後天性免疫不全症候群
- (73)ジアルジア症 (74)侵襲性インフルエンザ菌感染症
- (75)侵襲性髄膜炎菌感染症 (76)侵襲性肺炎球菌感染症
- (77)水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)
- (78)先天性風しん症候群 (79)梅毒 (80)播種性クリプトコックス症
- (81)破傷風 (82)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症
- (83)バンコマイシン耐性腸球菌感染症 (84)百日咳 (85)風しん
- (86)麻しん (87)薬剤耐性アシネトバクター感染症
- [新型インフルエンザ等感染症]
- (114)新型インフルエンザ (115)再興型インフルエンザ
- (116)新型コロナウイルス感染症 (117)再興型新型コロナウイルス感染症
- [指定感染症]
- 該当なし

2 定点把握の対象

[五類感染症]

- (88)RSウイルス感染症 (89)咽頭結膜熱
- (90)インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)
- (91)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (92)感染性胃腸炎
- (93)急性呼吸器感染症(インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、クラミジア肺炎(オウム病を除く。)、新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和2年1月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。))であるものに限る。)、百日咳、ヘルパンギーナ、マイコプラズマ肺炎を除く。)
- (94)急性出血性結膜炎 (95)クラミジア肺炎(オウム病を除く。)
- (96)細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)
- (97)新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。))であるものに限る。)
- (98)水痘 (99)性器クラミジア感染症 (100)性器ヘルペスウイルス感染症
- (101)尖圭コンジローマ (102)手足口病 (103)伝染性紅斑 (104)突発性発しん
- (105)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 (106)ヘルパンギーナ
- (107)マイコプラズマ肺炎 (108)無菌性髄膜炎
- (109)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (110)薬剤耐性緑膿菌感染症
- (111)流行性角結膜炎 (112)流行性耳下腺炎 (113)淋菌感染症

法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症(定点)

(118)発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの。

3 法第14条第8項の規定に基づく把握の対象

(119)発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経学的症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したものであって、当該感染症にかかった場合の病状の程度が重篤であるものが発生し、又は発生するおそれがあると判断し、都道府県知事が指定届出機関以外の病院又は診療所の医師に法第14条第8項に基づき届出を求めたもの。

第3条 実施主体

実施主体は大阪市とする。

第4条 実施体制

情報処理の総合的かつ円滑な推進を図るため、次の体制により実施する。

1 大阪市感染症情報センター

中央感染症情報センター(厚生労働省)との連絡調整を図るとともに、所管地域における患者情報及び病原体情報(検査情報を含む。以下同じ。)を収集し、全国情報と併せて、これらを速やかに保健福祉センター及び医師会等関係機関に提供・公開するため、大阪市感染症情報センターの機能を保健所感染症対策課に置く。

2 検査機関

本事業の検査機関は、地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所(以下「大阪健康安全基盤研究所」という。)とする。

3 指定届出機関及び指定提出機関(定点)

全数把握の感染症以外の対象感染症については、患者及び当該感染症により死亡した者(法第14条第1項の厚生労働省令で定める五類感染症に限る。)の情報及び疑似症情報を収集するため、法第14条第1項に規定する指定届出機関として、患者定点及び疑似症定点を、また、患者の検体又は当該感染症の病原体(以下「検体等」という。)を収集するため病原体定点を、医師会等関係機関の協力のもとにそれぞれ大阪市内の医療機関の中から選定する。なお、法施行規則第7条の3に規定する五類感染症については、法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として、病原体定点を選定する。

(1)患者定点

対象感染症の患者発生状況を地域的に把握するため、人口及び医療機関の分布等を勘案のうえ、厚生労働省の示す基準に準拠し、小児科定点、急性呼吸器感染症定点、眼科定点、性感染症定点、基幹定点を設置するものとする。

(2)病原体定点

病原体の分離等検査情報を収集するため次の点に留意して医療機関の中から選定する。

ア 原則として、患者定点として選定された医療機関の中から選定する。

イ 小児科定点、急性呼吸器感染症定点、及び眼科定点の各々について、概ね10%を病原体定点とする。なお、急性呼吸器感染症定点の選定に当たっては、小児科定点から10%以上及び内科定点から10%以上をそれぞれ3定点と2定点を下回らないように、法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として選定する。

ウ 基幹定点は全て病原体定点とする。

(3)法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

疑似症の発生状況を把握するため、人口及び医療機関の分布等を勘案のうえ、厚生労働省の示す基準に準拠し、疑似症定点を設置するものとする。

なお、疑似症定点と疑似症定点以外の医療機関との連携体制をあらかじめ構築するよう取組み、疑似症の迅速かつ適切な把握に努める。

4 感染症発生動向調査委員会

事業の的確な運用を図るため、執行機関の附属機関に関する条例第1条及び大阪市感染症発生動向調査委員会規則の定めるところにより、小児科、内科、眼科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、微生物学、疫学、獣医学、昆虫学等の専門家、保健所、地方衛生研究所の代表、地域の医師会の代表等で構成する「大阪市感染症発生動向調査委員会」を開催する。

第5条 実施方法

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症(第2条の(75)、(85)及び(86))、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症

〔調査単位及び実施方法〕

(1)該当する患者等を届出基準等通知に基づき診断した医師は、別に定める基準に基づき直ちに届出を行う。当該届出は、感染症サーベイランスシステムへの入力により行うことを基本とするが、感染症サーベイランスシステムの入力環境がない場合には、保健福祉センターに提出するものとする。届出を受けた保健福祉センターは、直ちに受け付けた届出の写しを保健所感染症対策課に報告する。また必要に応じて保健福祉センターは、患者等を診断した医師に対して、病原体検査のための検体等の提供について依頼する。

(2)保健所感染症対策課は、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて大阪健康安全基盤研究所と協議し、感染症の蔓延を防止するため特に必要と認める場合は、病原体検査を大阪健康安全基盤研究所に依頼する。

2 全数把握対象の五類感染症(第2条の(75)、(85)及び(86)を除く。)

〔調査単位及び実施方法〕

(1)該当する患者等を届出基準等通知に基づき診断した医師は、別に定める基準に基づき診断後7日以内に届出を行う。当該届出は、感染症サーベイランスシステムへの入力により行うことを基本とするが、感染症サーベイランスシステムの

入力環境がない場合には、保健福祉センターに提出するものとする。該当する感染症の様式により届出を受けた保健福祉センターは、医師が診断してから7日以内に受け付けた届出の写しを保健所感染症対策課に報告する。また必要に応じて保健福祉センターは患者等を診断した医者に対して、病原体検査のための検体又は病原体情報の提供について依頼する。

(2)保健所感染症対策課は、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて大阪健康安全基盤研究所と協議し、感染症の蔓延を防止するため特に必要と認める場合は、病原体検査を大阪健康安全基盤研究所に依頼する。

3 定点把握対象の五類感染症

(1)調査単位等

ア 患者情報については、小児科定点、急性呼吸器感染症定点、眼科定点及び基幹定点(週報対象感染症)においては、1週間(毎週月曜日から翌週日曜日)を調査単位とし、性感染症定点及び基幹定点(月報対象感染症)においては1ヶ月を単位とする。

イ 病原体情報については、大阪健康安全基盤研究所より、速やかに中央感染症情報センターへ報告する。

また、第2条の(97)のゲノム解析においては1ヶ月を単位とする。

(2)患者定点

ア 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時における別に定める報告基準により、患者発生状況の把握を行うものとする。

イ 患者定点として選定された医療機関は別に定める基準に従い、それぞれ調査単位の患者発生状況等の届出を行う。当該届出は、感染症サーベイランスシステムへの入力により行うことを基本とするが、感染症サーベイランスシステムの入力環境がない場合には、保健所感染症対策課に提出するものとする。

(3)病原体定点

ア 病原体定点として選定された医療機関は、必要に応じて病原体検査のための検体を採取し、別記様式の検査票を添えて、大阪健康安全基盤研究所へ送付する。

イ 小児科病原体定点の医療機関においては、第2条の(88)、(89)、(91)、(92)、(98)、(102)から(104)まで、(106)及び(112)を対象感染症とする。

ウ 急性呼吸器感染症病原体定点の医療機関(指定提出機関)においては、第2条の(84)、(88)、(89)、(90)、(91)、(93)、(95)、(97)、(106)及び(107)を対象感染症とする。

エ 眼科病原体定点の医療機関においては、第2条の(94)及び(111)を対象感染症とする。

オ 基幹病原体定点の医療機関においては、第2条の(92)のうち病原体がロタウイルスであるもの、(96)及び(108)を対象感染症とする。

4 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

[調査単位及び実施方法]

(1)疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、

診療時における届出基準等通知に基づく届出基準により、直ちに疑似症発生状況を把握し、原則として感染症サーベイランスシステムに入力により実施することとする。

(2)保健所感染症対策課は、疑似症定点において感染症サーベイランスシステムへの入力を実施することができない場合は、当該疑似症定点から得られた疑似症情報を、直ちに、感染症サーベイランスシステムに入力するものとする。また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報についても把握し、保健福祉センター、指定届出機関、指定提出機関、その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

5 大阪市感染症情報センター

(1)管内の患者定点及び保健福祉センターから得られた患者情報を収集し、一類、二類、三類、四類感染症、五類感染症(第2条の(75)、(85)及び(86))、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症については直ちに、全数把握対象の五類感染症(第2条の(75)、(85)及び(86)を除く。)については保健福祉センターが届出を受けてから7日以内に、定点把握対象の五類感染症については調査単位が週単位の場合は調査対象週の翌週の火曜日まで、月単位の場合は調査対象月の翌月3日までに感染症サーベイランスシステムに入力し、登録情報の確認を行う。

(2)大阪市感染症情報センターは一類から五類までの感染症、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び疑似症について、患者情報の収集及び分析を行う。

(3)発生動向調査で得られた、患者情報等の集計及び分析結果を速やかに、保健福祉センター、医師会、定点医療機関等の関係機関へ提供・公開する。

6 大阪健康安全基盤研究所

(1)大阪健康安全基盤研究所は、前記3-(3)により搬送された別記様式の検査票及び検体等を、別途定める病原体検査要領に基づき検査し、これを病原体情報として大阪市感染症情報センター及び中央感染症情報センターへ報告する。

(2)検査のうち大阪健康安全基盤研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて他の都道府県等又は国立感染症研究所へ検査依頼する。

第6条 積極的疫学調査

1 一類、二類、三類、四類、五類全数把握感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症が発生した場合、並びに五類定点把握感染症及び疑似症等に係る感染症発生動向調査において通常と異なる傾向が認められた場合は、個別の事例に応じ適切に判断し実施する。

2 調査を行う場合、関係者の理解と協力を得つつ、関係機関と密接な連携を図り、地域における詳細な流行状況や、感染症等の迅速な把握に努め、調査結果を厚生労働省及び関係自治体に報告する。

第7条 情報の保護

本事業を実施するため収集した情報のコンピュータ処理は、次の事項に留意するものとする。

- 1 コンピュータの総括的な管理とデータ保護の適正化を図るため管理責任者を置く。
- 2 コンピュータの管理責任者は、保健所感染症対策課保健主幹とする。
- 3 管理責任者は、本事業に関わりのある職員をコンピュータの操作者に充て、運用の面では専用パスワードの設定、操作員識別コードの使用により操作者を限定し情報の改ざん、流用等の防止を図る。
- 4 コンピュータ処理されたデータの保管については、万全を期する。

第8条 情報の活用

収集分析された情報は、次のとおり活用する。

- 1 感染症発生動向調査事業への活用。
- 2 保健福祉センター、医療関係機関、その他必要関係機関への提供・公開。
- 3 市民への提供・公開。

第9条 その他

- 1 感染症発生動向調査のために取り扱うこととなった検体等については、感染症の発生及びまん延防止策の構築、公衆衛生の向上のために使用されるものであり、それ以外の目的に用いてはならない。また、検体採取の際には、その使用目的について説明の上、できるだけ、本人等に同意をとることが望ましい。なお、上記に掲げる目的以外の研究に使用する場合は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の別に定める規に従い行うものとする。
- 2 本実施要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて健康局長が定めることとする。

附 則（施行期日）

この要綱は、平成12年12月1日から実施する。

附 則（施行期日）

この要綱は、平成13年4月1日から実施する。

附 則（施行期日）

この要綱は、平成15年4月1日から実施する。

附 則（施行期日）

この要綱は、平成16年4月1日から実施する。

附 則（施行期日）

この要綱は、平成18年4月1日から実施する。

附 則（施行期日）

この要綱は、平成18年6月12日から実施する。

附 則（施行期日）

この要綱は、平成19年4月1日から実施する。

附 則（施行期日）

この要綱は、平成20年1月1日から実施する。

附 則

この要綱は、平成20年4月1日から実施する。

附 則

この要綱は、平成20年5月12日から実施する。
附 則
この要綱は、平成23年2月1日から実施する。
附 則
この要綱は、平成23年4月1日から実施する。
附 則
この要綱は、平成23年9月5日から実施する
附 則
この要綱は、平成24年4月1日から実施する。
附 則
この要綱は、平成25年3月4日から実施する。
附 則
この要綱は、平成25年4月1日から実施する。
附 則
この要綱は、平成25年5月6日から実施する。
附 則
この要綱は、平成26年7月26日から実施する。
附 則
この要綱は、平成26年9月19日から実施する。
附 則
この要綱は、平成27年1月21日から実施する
附 則
この要綱は、平成27年5月21日から実施する。
附 則
この要綱は、平成28年2月15日から実施する。
附 則
この要綱は、平成28年4月1日から実施する。
附 則
この要綱は、平成29年4月1日から実施する。
附 則
この要綱は、平成30年1月1日から実施する。
附 則
この要綱は、平成30年5月1日から実施する。
附 則
この要綱は、平成31年4月1日から実施する。
附 則
この要綱は、令和2年2月1日から実施する。
附 則
この要綱は、令和2年8月1日から実施する。
附 則
この要綱は、令和3年2月13日から実施する。
附 則

この要綱は、令和4年4月1日から実施する。

附 則

この要綱は、令和4年10月31日から実施する。

附 則

この要綱は、令和5年5月8日から実施する。

附 則

この要綱は、令和5年5月26日から実施する。

附 則

この要綱は、令和7年4月7日から実施する。

別記様式 検査票

大阪市感染症発生動向調査委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、執行機関の附属機関に関する条例（昭和28年大阪市条例第35号）第2条の規定により、大阪市感染症発生動向調査委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(組織)

第2条 委員会は、委員15名以内で組織する。

2 委員は、学識経験者その他市長が適当と認める者のうちから、市長が委嘱する。

(任期)

第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、委員会を代表し、議事その他の会務を総理する。

3 委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。

(専門委員)

第5条 専門の事項を調査審議させるため必要があるときは、委員会に専門委員を置くことができる。

2 専門委員は、学識経験者その他市長が適当と認める者のうちから、市長が委嘱する。

3 専門委員は、当該専門の事項に関する調査審議が終了したときは、解嘱されるものとする。

(部会)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員会に部会を置くことができる。

2 部会は、委員長が指名する委員及び専門委員で組織する。

3 部会に部会長を置き、部会に属する委員のうちから委員長が指名する。

4 部会長は、当該部会の会務を総理し、部会における調査審議の状況及び結果を委員会に報告する。

5 部会長に事故があるときは、あらかじめ部会長の指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第7条 委員会の会議は委員長が招集する。

2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(関係者の出席)

第8条 委員会は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、健康局において処理する。

(施行の細目)

第10条 この規則の施行に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

この規則は、平成25年7月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成31年1月1日から施行する。

大阪市感染症発生動向調査委員会運営要領

(趣旨)

第1条 この要領は、大阪市感染症発生動向調査委員会規則（平成25年大阪市規則第157号）第10条の規定に基づき、大阪市感染症発生動向調査委員会（以下「委員会」という。）の運営に関し必要な事項を定める。

(会議の公開)

第2条 委員会の会議は、公開するものとする。ただし、委員会が公開することが適当でないと認める事項の調査審議をするときは、この限りでない。

- 2 会議の公開は、会議の傍聴を認めることにより行う。
- 3 前項の規定による会議の傍聴に関し必要な事項は、別に定める。

(公開による会議の開催の周知)

第3条 委員会は、公開で行う会議の開催の周知を図るため、会議の開催日の1週間前までに、次の事項を記載した会議開催のお知らせを大阪市ホームページに掲載するとともに、市役所又は市関係公署の掲示場への掲示その他の方法により広く市民に周知する。ただし、会議を緊急に開催する必要が生じたときは、この限りでない。

- (1) 開催日時
- (2) 場所〔ウェブ会議（インターネットを通じて、委員の間で相互に映像及び音声の送受信、資料の共有等を行う方法をいう。以下同じ。）の方法により開催するときは、その旨〕
- (3) 議題
- (4) 傍聴者の定員
- (5) 傍聴手続
- (6) 問い合わせ先
- (7) その他必要な事項

(ウェブ会議の方法による会議の開催等)

第4条 委員会の委員は、委員長の承認を得て、ウェブ会議の方法で委員会の会議に参加することができる。この場合において、当該委員は、ウェブ会議の方法による会議への参加をもって委員会の会議に出席したものとみなすものとする。

- 2 前項に定めるもののほか、第2条第1項ただし書の規定により委員会の会議を公開しない場合において、委員長が必要と認めるときは、当該会議をウェブ会議の方法により開催するものとする。

(会議録等)

第5条 委員会の会議録に記載する事項は、次のとおりとする。

- (1) 開催日時
- (2) 開催場所（前条第2項の規定によりウェブ会議の方法により開催したときは、その旨）
- (3) 出席者の職及び氏名
- (4) 前条第1項の規定によりウェブ会議の方法により会議に参加した委員があるときは、その旨
- (5) 議題
- (6) 議事の内容

(7) その他委員会が必要と認める事項

2 会議録等及び会議資料は、大阪市ホームページに掲載し、かつ、所定の場所において市民等の閲覧に供するものとする。

附 則

この要領は、令和3年5月18日から施行する。

大阪市感染症発生動向調査委員会委員

委員名	所 属
天羽 清子	地方独立行政法人大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター
笠原 幹司	一般社団法人 大阪府医師会
濱崎 考史	公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院
廣井 聡	地方独立行政法人 大阪健康安全基盤研究所
福住 宗久	国立感染症研究所
福本 敏子	福本眼科クリニック
古林 敬一	たによんスタートクリニック
水谷 哲	大阪国際メディカル&サイエンスセン ター 大阪けいさつ病院
八木 啓子	勇村医院
津田 侑子	大阪市保健所
廣川 秀徹	大阪市保健所

感染症発生動向調査指定届出機関（小児科定点）

令和6年12月31日現在

ブロック名	医療機関名	郵便番号	所在地
大阪市 北部	あさいこどもクリニック	534-0016	都島区友渕町2-1-5 ともぶちクリニック ^{ビル} 2階
	こおりやま小児科	534-0015	都島区善源寺町2-2-22 善源寺メディカルモール2階
	大阪市立総合医療センター	534-0021	都島区都島本通2-13-22
	樋口医院	531-0062	北区長柄中1-6-6
	森川こどもクリニック	533-0032	東淀川区淡路2-16-6-101
	淀川キリスト教病院	533-0024	東淀川区柴島1-7-50
	前田こどもクリニック	533-0006	東淀川区上新庄2-15-18 旭丘ビル4階
	大阪旭こども病院	535-0022	旭区新森4-13-17
	大阪市立十三市民病院	532-0034	淀川区野中北2-12-27
	医療法人はるなクリニック	532-0006	淀川区西三国1-3-13-302
	鈴木小児クリニック	532-0003	淀川区宮原4-4-2 新大阪グランドハイツ1F
	のだこどもクリニック	531-0074	北区本庄東1-1-10 ライズ88ビル1階
北野病院	530-8480	北区扇町2-4-20	
大阪市 西部	JCHO大阪病院	553-0003	福島区福島4-2-78
	中央急病診療所	550-0013	西区新町4-10-13
	さかざきこどもクリニック	550-0027	西区九条1-27-6 住金興産九条ビル303
	多根総合病院	550-0025	西区九条南1-12-21
	日本生命病院	550-0006	西区江之子島2-1-54
	にいつクリニック	552-0023	港区港晴1-1-23
	大正病院	551-0002	大正区三軒家東5-5-16
	ひの小児科	554-0001	此花区高見2-13-3
	千船病院	555-0034	西淀川区福町3-2-39
	大塚医院	552-0012	港区市岡2-6-21

感染症発生動向調査指定届出機関（小児科定点）

令和6年12月31日現在

ブロック名	医療機関名	郵便番号	所在地
大阪市 東部	大阪赤十字病院	543-8555	天王寺区筆ヶ崎町5-30
	ひげのこどもクリニック	543-0042	天王寺区烏ヶ辻1-1-1 MIビル4階
	大阪警察病院	543-0035	天王寺区北山町10-31
	寺田町こども診療所	543-0045	天王寺区寺田町2-4-7 寺田町第2ビル2F
	川田医院	556-0006	浪速区日本橋東3-7-7 川田ビル1F
	寺口小児科クリニック	537-0014	東成区大今里西1-26-5 ロハスプラザ今里2階
	深江こどもクリニック	537-0013	東成区大今里南5丁目1-10 2階
	松本医院	544-0034	生野区桃谷2-19-20
	共和病院	544-0021	生野区勝山南4-16-10
	大阪府済生会野江病院	536-0001	城東区古市1-3-25
	福田クリニック	536-0008	城東区関目1-3-11
	にしじまファミリークリニック	536-0005	城東区中央2-13-19
	わかばこどもクリニック	536-0008	城東区関目5-16-19-101
	磯川医院	538-0051	鶴見区諸口3-1-15
	田中小児科医院 たなかキッズクリニック	542-0012	中央区谷町6-14-23
大阪市 南部	大阪公立大学医学部附属病院	545-8585	阿倍野区旭町1-5-7
	富吉医院	545-0042	阿倍野区丸山通1-3-46
	勇村医院	545-0021	阿倍野区阪南町5-25-17
	武田小児科医院	558-0041	住吉区南住吉2-14-19 平成ハイツ壱番館1階
	大阪急性期・総合医療センター	558-8558	住吉区万代東3-1-56
	畑小児科	558-0003	住吉区长居3-9-3
	武知小児科・内科	546-0014	東住吉区鷹合2-17-4
	おうぎもと小児科	546-0003	東住吉区今川3-12-12 クリニックモール今川3F
	川合内科・小児科医院	546-0012	東住吉区中野4-5-18
	西成民主診療所	557-0034	西成区松2-1-7
	はまだ小児科	557-0042	西成区岸里東2-5-16
	藤山小児科医院	559-0024	住之江区新北島3-8-21 アネックス六兵衛三番街101
	大阪市立住之江診療所	559-0012	住之江区東加賀屋1-2-22
	矢木クリニック	559-0003	住之江区安立1-4-3
	長浦小児科	547-0046	平野区平野宮町1-6 マカロービル1号棟1F
	長吉総合病院	547-0016	平野区长吉長原1-2-34
	にしかわこどもクリニック	547-0033	平野区平野西3-9-11
	井藤医院	547-0024	平野区瓜破2-1-65 ミタカホーム8番1F

感染症発生動向調査指定届出機関（内科定点）

令和6年12月31日現在

ブロック名	医療機関名	郵便番号	所在地
大阪市北部	大阪市立総合医療センター	534-0021	都島区都島本通2-13-22
	中尾医院	533-0022	東淀川区菅原5-7-11
	柴医院	535-0002	旭区大宮3-8-16
	大阪市立十三市民病院	532-0034	淀川区野中北2-12-27
	寺岡内科医院	532-0002	淀川区東三国6-19-8
	いんべ診療所	534-0001	都島区毛馬町1-8-4
大阪市西部	宮下医院	554-0013	此花区梅香3-22-14
	四ツ橋診療所	550-0013	西区新町1-22-9
	大塚医院	552-0012	港区市岡2-6-21
	本山診療所	551-0031	大正区泉尾1-2-19
	北野クリニック	555-0031	西淀川区出来島1-4-18
大阪市東部	大阪警察病院	543-0035	天王寺区北山町10-31
	徳田クリニック	556-0022	浪速区桜川2-11-28
	長田医院	537-0002	東成区深江南1-10-8 ピア・メゾン深江1F
	正木クリニック	544-0034	生野区桃谷2-18-9
	おのい深江橋診療所	536-0022	城東区永田4-11-14
	杉岡内科医院	538-0042	鶴見区今津中5-6-26
	大阪医療センター	540-0006	中央区法円坂2-1-14
大阪市南部	大阪急性期・総合医療センター	558-8558	住吉区万代東3-1-56
	河南医院	558-0032	住吉区遠里小野1-12-9
	わたべクリニック	558-0056	住吉区万代東1-4-12
	田島医院	546-0042	東住吉区西今川1-6-16
	宮武医院	559-0024	住之江区新北島1-9-23
	長吉総合病院	547-0016	平野区長吉長原1-2-34
	いぬいクリニック	547-0021	平野区喜連東3-5-60
	鶴ヶ丘東診療所	545-0014	阿倍野区西田辺町2-9-8
	隅本医院	557-0053	西成区千本北2-32-35

感染症発生動向調査指定届出機関（眼科定点）

令和6年12月31日現在

ブロック名	医療機関名	郵便番号	所在地
大阪市北部	大阪市立総合医療センター	534-0021	都島区都島本通2-13-22
	春田眼科医院	533-0004	東淀川区小松1-10-38
	坂本眼科医院	535-0021	旭区清水3-2-9
	大阪市立十三市民病院	532-0034	淀川区野中北2-12-27
	森下眼科	530-0041	北区天神橋5-6-13
大阪市西部	森山眼科医院	553-0005	福島区野田3-16-5
	はぶ眼科	555-0013	西淀川区千舟2-15-28
大阪市東部	第二大阪警察病院	543-8922	天王寺区烏ヶ辻2-6-40
	まつやま眼科	543-0042	天王寺区烏ヶ辻1-1-1 MIビル5F
	沢井眼科	556-0006	浪速区日本橋東3-7-7 川田ビル2F
	黒田眼科	538-0042	鶴見区今津中5-1-33
	大阪医療センター	540-0006	中央区法円坂2-1-14
	大手前病院	540-0008	中央区大手前1-5-34
大阪市南部	大阪急性期・総合医療センター	558-8558	住吉区万代東3-1-56
	杉浦眼科	546-0043	東住吉区駒川3-1-7
	マツシマ眼科クリニック	559-0013	住之江区御崎4-10-4 サンライズ住之江公園1階
	吉田眼科医院	547-0034	平野区背戸口1-21-21 メゾン平野1階

感染症発生動向調査指定届出機関（性感染症定点）

令和6年12月31日現在

ブロック名	医療機関名	郵便番号	所在地
大阪市北部	大阪市立総合医療センター	534-0021	都島区都島本通2-13-22
	しおじレディースクリニック	533-0024	都島区東野田2-3-19 MFK京橋駅前ビル3F
	河島医院	533-0004	東淀川区小松2-5-2 米田ハイツ 2F
	こおりたクリニック	532-0002	淀川区東三国5-15-27
	大阪中央病院	530-0001	北区梅田3-3-30
	さたクリニック	531-0062	北区長柄中1-5-16
大阪市西部	勝瀬クリニック	550-0027	西区九条1-12-3
	岸医院	552-0012	港区市岡1-1-20
大阪市東部	早川クリニック	542-0086	中央区西心斎橋1-4-5 御堂筋ビル5F
	大阪医療センター	540-0006	中央区法円坂2-1-14
	こうむら女性クリニック	540-0033	中央区石町1-1-1 天満橋千代田ビル2号館2F
	内田皮膚科クリニック	542-0012	中央区谷町7-1-44 タンチエ谷町ビル 2F
	医療法人 速水皮膚科	537-0013	東成区大今里南1-12-13-201
大阪市南部	レディースクリニックさわだ	545-0052	阿倍野区阿倍野筋1-5-1-100
	なかがわレディースクリニック	558-0044	住吉区長峽町5-5
	原田皮フ科クリニック	546-0023	東住吉区矢田2-9-14 アセンドプラザビル3階
	北野 皮フ・泌尿器科	557-0042	西成区岸里東2丁目3番22号メディカル天神の森コットンビル5階
	小川産婦人科	547-0044	平野区平野本町2-6-32

感染症発生動向調査指定届出機関（基幹定点）

令和6年12月31日現在

ブロック名	医療機関名	郵便番号	所在地
大阪市北部	大阪市立総合医療センター	534-0021	都島区都島本通2-13-22
大阪市西部	JCHO大阪病院	553-0003	福島区福島4-2-78
大阪市東部	大阪赤十字病院	543-8555	天王寺区筆ヶ崎町5-30
大阪市南部	大阪急性期・総合医療センター	558-8558	住吉区万代東3-1-56

感染症発生動向調査指定届出機関（疑似症定点）

令和6年12月31日現在

ブロック名	医療機関名	郵便番号	所在地
大阪市北部	大阪市立総合医療センター	534-0021	都島区都島本通2-13-22
	淀川キリスト教病院	533-0024	東淀川区柴島1-7-50
	北野病院	530-8480	北区扇町2-4-20
	大阪府済生会中津病院	530-0012	北区芝田2-10-39
大阪市西部	JCHO大阪病院	553-0003	福島区福島4-2-78
	日本生命病院	550-0006	西区江之子島2-1-54
大阪市東部	大阪警察病院	543-0035	天王寺区北山町10-31
	大阪医療センター	540-0006	中央区法円坂2-1-14
大阪市南部	大阪急性期・総合医療センター	558-8558	住吉区万代東3-1-56
	大阪公立大学医学部附属病院	545-8585	阿倍野区旭町1-5-7